

平成31年度入学生用

履 修 要 項
(*syllabus*)

児童教育学科

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

目次

1年次 一般教養科目・・・・・・・・・・・・・・5頁～

1年次 専門科目・・・・・・・・・・・・・・37頁～

2年次 一般教養科目・・・・・・・・・・・・・・81頁～

2年次 専門科目・・・・・・・・・・・・・・87頁～

令和元年度(H31)入学生 教育課程

別表 第1 児童教育学科教育課程表

区分	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修 単位数 必修 選択	科目ナンバー 数字の箇所が開講学期				備考
				1前	1後	2前	2後	
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る							
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)							
	日本語表現の基礎	講義	2	1				
	倫理学	講義	2	2				
	文学	講義	2	3	前期:藤川 後期:生田			
	心理学	講義	2	4				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)							
	体育講義	講義	1			101		— 幼教免・小教免・保育士証必修
	体育実技	実技	1				102	
	社会を知る・社会につながる							
	社会の探求(社会に目を向ける)							
	社会学	講義	2	5				— 幼教免・小教免必修
	国際化と経済	講義	2	6				
	日本国憲法	講義	2		19			
	歴史学	講義	2	7				
	WE LOVE 鹿児島!	演習	2				103	
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)							
	インターンシップ	演習	2	8				
	キャリアガイダンス	演習	2	9			104	
	世界を知る・世界を広げる							
	異文化の探求(海外に目を向ける)							
	海外事情	演習	2		20			海外研修 英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかの I・II を連続選択履修 * 日本語演習は留学生対象科目
	英語演習 I	演習	2		10			
	フランス語演習 I	演習			11			
	中国語演習 I	演習			12			
韓国語演習 I	演習			13				
日本語演習 I	演習			14				
英語演習 II	演習	2			21			
フランス語演習 II	演習				22			
中国語演習 II	演習				23			
韓国語演習 II	演習				24			
日本語演習 II	演習				25			
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)								
数学基礎	講義	2	15					
理科基礎	講義	2	16					
分子からみた生物	講義	2	17					
人間と環境	講義	2	18					
最低修得単位数		8	8					
卒業最低修得単位数		16						

区分	授業科目	授業形態	履修方法								科目ナンバー 数字の箇所が開講学期				備考
			卒業履修 単位数		小教免修得 単位数		幼教免修得 単位数		保育士証修得 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専門科目 (教員免許に関する科目等)	国語(書写を含む)	講義	2	2									105		
	社会	講義	2	2									106		
	算数	講義	2	2								107			
	理科	講義	2	2									108		
	生活	講義	2	2									109		
	音楽	演習	2	2						26					
	図画工作	演習	2	2						27					
	家庭	講義	2	2										110	
	体育	演習	2	2									111		
	外国語	演習	2	2									112		
	国語科指導法	演習	2	2							46				
	社会科指導法	演習	2	2						28					
	算数科指導法	演習	2	2						29					
	理科指導法	演習	2	2									113		
	生活科指導法	演習	2	2										114	
	音楽科指導法	演習	2	2							47				
	図画工作科指導法	演習	2	2							48				
	家庭科指導法	演習	2	2										115	
	体育科指導法	演習	2	2										116	
	外国語指導法	演習	2	2										117	
	幼児と健康	演習	1		1		1		1	30					
	幼児と人間関係	演習	1		1		1		1				118		
	幼児と環境	演習	1		1		1		1				119		
	幼児と言葉	演習	1		1		1		1	31					
	幼児と表現	演習	2		2		2		2	32					
	保育内容総論	演習	2		2		2		2					120	
	保育内容(健康)の指導法	演習	2		2		2		2				121		
	保育内容(人間関係)の指導法	演習	2		2		2		2				122		
	保育内容(環境)の指導法	演習	2		2		2		2		49				
	保育内容(言葉)の指導法	演習	2		2		2		2	33					
	保育内容(表現)の指導法	演習	2		2		2		2		50				
	教育原理	講義	2	2	2		2		2		51				
	保育原理	講義	2		2		2		2	34					
	教職概論	講義	2	2	2		2		2	35					
	教育制度論	講義	2	2	2			2	2	36					
	教育心理学▲	講義	2	2	2		2		2	37					
	特別支援教育・保育	講義	2	2	2		2		2		52				
	教育課程・保育計画の意義と編成・評価	講義	2	2	2		2		2				123		
	道德教育の指導法	演習	2	2									124		
	総合的な学習の時間の指導法	演習	2	2										125	
特別活動の指導法	演習	2	2									126			
教育の方法・技術	講義	2	2							53					
保育の方法・技術	講義	2	2	2		2		2	38						
生徒指導・進路指導	講義	2	2							54					
幼児理解	講義	2		2		2		2					127		

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	授業科目	授業形態	履修方法								科目ナンバー 数字の箇所が開講学期				備考	
			卒業履修 単位数		小教免修得 単位数		幼教免修得 単位数		保育士証修得 単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択						
専門科目 (教員免許に関する科目等)	教育相談▲	講義	2		2		2		2				128			
	幼稚園教育実習 I 指導	講義		1		1	1				55					
	幼稚園教育実習 I	実習		2		2					56					
	小学校教育実習指導	講義		1		1	3						129			
	小学校教育実習	実習		2		2								130		
	幼稚園教育実習 II 指導	講義		1		1								131		
	幼稚園教育実習 II	実習		2		2							132			
	保育・教職実践演習	演習	2				2		2						133	
	小学校教職実践演習	演習			2										134	
	社会福祉	講義	2		2		2		2		39					
	情報機器演習	演習	2		2		2		2		40					
	教師と法	講義		2		2							135			
	子どもと人権	講義		1		1		1	1		57					
	環境教育演習	演習		1		1								136		
	カウンセリング入門▲	講義		1		1		1	1					137		
	生涯学習論	講義		2		2								138		
	家族関係論	講義		2		2		2	2					139		
	子どもと音楽 I	演習		2				2	2	41						
	子どもと音楽 II	演習		2				2	2		58					
	子どもと音楽 III	演習		2				2	2				140			
	子どもと音楽 IV	演習		2				2	2					141		
	子どもと造形 I	演習		2				2	2	42						
	子どもと造形 II	演習		2				2	2				142			
子どもと身体表現	演習		2				2	2					143			
子どもと運動遊び	演習		2				2	2				144				
読書と豊かな人間性	演習		2		2		2	2					145	司書教諭必修		
専門科目 (保育士証に関する科目等)	子ども家庭福祉	講義		2				2		59						
	保育者論	講義		2				2		60						
	子ども家庭支援論	講義		2				2					146			
	社会的養護 I	講義		2				2		61						
	社会的養護 II	演習		1				1				147				
	保育の心理学	講義		2				2		43						
	子ども家庭支援の心理学	演習		2				2					148			
	子どもの保健	講義		2				2		44						
	子どもの健康と安全	演習		1				1			62					
	子どもの食と栄養	演習		2				2					149			
	子どもの理解と援助	演習		1				1			63					
	子育て支援	演習		1				1						150		
	乳児保育 I	講義		2				2		45						
	乳児保育 II	演習		1				1			64					
	保育所実習 I 指導	演習		1				1			65					
	保育所実習 I	実習		2				2			66					
	施設実習 I 指導	演習		1				1					151			
施設実習 I	実習		2				2					152				
保育所実習 II 指導	演習		1				1					153				
保育所実習 II	実習		2				2					154				
施設実習 II 指導	演習		1				1					155				
施設実習 II	実習		2				2					156				
最低修得単位数計			22	24	69		50		74	2						
卒業最低修得単位数			必修 22		選択 24		合計 46									
最低修得単位数総計			卒業 62		[小教免 85]		[幼教免 66]		[保育士証 92]							

保育士証はいずれかの実習指
及び実習を選択必修

別表 第1の2 司書教諭養成科目

(○印は専門科目と重なる)

授業科目	授業形態	履修方法 単位数		科目ナンバー 数字の箇所が開講学期				備考
		必修	選択	1前	1後	2前	2後	
学校経営と学校図書館	講義	2				157		
学校図書館メディアの構成	講義	2				158		
学習指導と学校図書館	講義	2					159	
○読書と豊かな人間性	講義	2					(145)	
情報メディアの活用	講義	2					160	
最低修得単位数		10		/	/	/	/	
最低修得単位数総計	[司書教諭 (小教免+10) 95]							

1 年 次

一般教養科目

科目名	日本語表現の基礎		
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	科目ナンバー	1
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	漢字や語彙、丁寧な字の書き方、敬語、手紙文のきまりなどの社会生活を送る上で必須の書く力の育成と、縮約、情報の正確な読み取り、レポートのきまりなどの学生生活を送る上で必要となる書く力の育成を目指す。		
授業の到達目標	1. 基礎的な語彙力・漢字力を身につける 2. 失礼のない形式の整った手紙文を作成できる 3. 根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できる		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス 自己紹介文の作成と交流	藤川	
第2回	字の丁寧な書き方	藤川	
第3回	語彙と文法	藤川	
第4回	手紙文(御礼状・案内文)の書き方	藤川	
第5回	敬語の基礎(尊敬語・謙譲語・丁寧語)	藤川	
第6回	小レポート①(語彙、敬語、手紙文の復習)	藤川	
第7回	縮約の作り方	藤川	
第8回	縮約の作成	藤川	
第9回	グラフ資料についての理解	藤川	
第10回	グラフ資料の分析	藤川	
第11回	小レポート②(縮約と資料の分析)	藤川	
第12回	意見文の書き方	藤川	
第13回	意見文の吟味と分かりやすい文の書き方	藤川	
第14回	意見文の吟味と完成	藤川	
第15回	総括(最終レポートの作成)	藤川	
事前・事後学習	新聞、雑誌、ネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めておく。		
課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 10:40~12:30(西館405)		
テキスト	プリントを適宜配布します。		
参考文献等	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2009 ¥740 (ISBN-10: 4062880210)		
成績評価基準	最終レポートにおいて、根拠を明確にした説得力のあるレポート、失礼のない形式の整った手紙文を作成できること。		
成績評価の方法	課題ミニレポート(20%)、小レポート①、②(30%)、最終レポート(50%)		
GPA基準			
備考	40名までの受講制限を設けます。学内他学科・他専攻開設科目		

科目名	倫理学		
担当者	村若 修		
授業形式	講義	科目ナンバー	2
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	<p>「倫理学」とは、人の生き方や人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善/悪、正/不正という視点で考えていく学問です。「道徳」ないし「倫理」はすでに皆さんに身につけているものですが、それについて倫理学は反省を加え、吟味する学問だと考えてください。本講義では「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療に関する倫理問題について考えていきます。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 倫理的な思考を身につける 2. 「生命倫理」の基礎を理解する 3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを表現できる</p>		
授業計画		担当者	
第1回	倫理学と「生命倫理」	村若	
第2回	生命倫理の成立(1)患者の権利	村若	
第3回	生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史	村若	
第4回	生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則	村若	
第5回	尊厳死(1)日本及び世界の状況	村若	
第6回	尊厳死(2)倫理的考察	村若	
第7回	安楽死(1)日本及び世界の状況	村若	
第8回	安楽死(2)倫理的考察	村若	
第9回	人工妊娠中絶	村若	
第10回	生殖補助医療技術の利用(1)日本及び世界の状況	村若	
第11回	生殖補助医療技術の利用(2)倫理的考察	村若	
第12回	出生前診断(1)日本及び世界の状況	村若	
第13回	出生前診断(2)倫理的考察	村若	
第14回	脳死と臓器移植(1)日本及び世界の状況	村若	
第15回	脳死と臓器移植(2)倫理的考察	村若	
事前・事後学習	配付資料を事前によく読んでくること。また、映像教材について感想文を課すことがある。		
課題に対するフィードバックの方法	ミニツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニツペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。		
オフィスアワー	火曜日15:00~17:00 研究室(西館410号室)		
テキスト	適宜資料を配付する。		
参考文献等	『現代世界の思想的課題』中山愈編 弘文堂 1998年 (ISBN4-335-15041-5) 『はじめて出会う生命倫理』玉井真理子・大谷いづみ編 有斐閣アルマ 2011年 (ISBN978-4-641-12420-2)		
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること		
成績評価の方法	期末試験(80%)、授業内容に関する小レポート・感想文(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	文学		
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	科目ナンバー	3
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	絵本には読み手を引き込む様々なしかけがあります。そうした絵本のしかけについて、『絵本のひみつ』や鹿児島メルヘン館の見学などの講義や体験活動を通して理解することを目指します。また、同じ作品で媒体による違い、訳し方による違いなどから絵本作品の楽しさを味わうことを目指します。		
授業の到達目標	1. 絵本の歴史、種類とその特性を理解することができる 2. 作品のもつ絵本の特性を分析することができる 3. 絵本の特性を生かした作品の紹介文を作成できる		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス お気に入りの絵本を振り返る	藤川	
第2回	子どもの絵本の読み方	藤川	
第3回	絵本の歴史と種類	藤川	
第4回	絵本のひみつ①—まるい大きな正面顔・主人公の立ち位置	藤川	
第5回	絵本のひみつ②—色彩	藤川	
第6回	絵本のひみつ③—「それ行け！アンパンマン」	藤川	
第7回	絵本のひみつ④—モンタージュ	藤川	
第8回	絵本のひみつ⑤—バムケロ作品の紹介	藤川	
第9回	絵本のひみつ⑥—加古里子作品の紹介	藤川	
第10回	『泣いた赤おに』濱田廣介の作品を読む	藤川	
第11回	『あらしのよるに』木村裕一の作品鑑賞	藤川	
第12回	『あらしのよるに』木村裕一の関連作品との比較	藤川	
第13回	体験学習(かごしまメルヘン館の見学)	藤川	
第14回	体験学習(読み聞かせの方法と実践の紹介)	藤川	
第15回	絵本の紹介文とPOP広告の作成	藤川	
事前・事後学習	講義を参考に関連する絵本を図書館などで探して読むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 10:40～12:30(西館405)		
テキスト	プリントを適宜配布します。		
参考文献等	『絵本のひみつ』 余郷裕次 徳島新聞社 2010 ¥1,000 (ISBN-10: 4861324319)		
成績評価基準	作品のもつ絵本の特性を分析した上で、作品の特性を生かした紹介文を作成できること。		
成績評価の方法	授業レポート(50%)、体験学習レポート(20%)、最終レポート(30%)		
GPA基準			
備考	・授業計画13、14の体験学習と振り返りは、日程調整をして土曜日の2～3時間を使い実施します。(300円程度の費用がかかります。)・80名の受講制限を設けます。 学内他学科・他専攻開設科目		

科目名	文学		
担当者	生田 和也		
授業形式	講義	科目ナンバー	3
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	アメリカの詩、小説、ノンフィクション、演説原稿、映画、楽曲などの表現媒体を横断し、「読む」、「考える」、「話し合う」、「発表する」という行為を通して、人種、階級、ジェンダーといった点からアメリカの社会・文化の特徴を批判的に検証する。		
授業の到達目標	1. 「読む」、「考える」という行為を通し、自身の視野を広げる。 2. アメリカ文化の特徴を批判的に検証できる。		
授業計画		担当者	
第1回	イントロダクション／文学とは何か？	生田	
第2回	「新しい巨像」	生田	
第3回	「アメリカの真髄」	生田	
第4回	『ポカホンタス』	生田	
第5回	ジョン・スミスの回想記	生田	
第6回	「アメリカ独立宣言」	生田	
第7回	『幸せのちから』	生田	
第8回	英語絵本の世界	生田	
第9回	「奴隷解放宣言」	生田	
第10回	「ローザ・パークスへの弔辞」	生田	
第11回	ディズニープリンセスの変容	生田	
第12回	『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』	生田	
第13回	「そうだよ、ヴァージニア。サンタクロースはいるんだ」	生田	
第14回	「1時間の物語」	生田	
第15回	2010年代の女性シンガーたち	生田	
事前・事後学習	事前学習：『ポカホンタス』、『幸せのちから』、『プリンセスと魔法のキス』といった映画に言及するので、事前に見ておくと理解が深まる。事後学習：授業の配布プリントを見直し、それぞれの作品や授業のテーマについて自分自身の考えをまとめておくこと。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。		
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。		
オフィスアワー	金曜 14:40～16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	授業中に印刷資料を配布する。		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	アメリカの文学・文化に関するテキストを読み、考え、話し合い、発表し、自身の視野を広げると共にアメリカ文化の特徴を批判的に検証できること。		
成績評価の方法	小レポート(50%)、定期試験(50%)		
GPA基準			
備考			

科目名	心理学		
担当者	園田 美保		
授業形式	講義	科目ナンバー	4
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	心理学の主な領域を網羅する。より深い人間理解のために心理学のキーワードと考え方を紹介する。ここでの人間とは、受講者自身を含み、その点では受講者にとって自己を探る手がかりを提供する。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとなるよう、受講者が心理学の各領域や方法に触れ、学びながら、考える力も身に付けられるよう、授業を構成する。講義形式だが、受講者には、積極的に自らの日常生活や身近な他者を想定し、内容の理解を行い、自らの考えを表現してもらうため、各回の内容に即したレポートを毎回求める。		
授業の到達目標	1.人間の心理と行動との関係を理解する 2.自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる 3.他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる		
授業計画		担当者	
第1回	「心理学」オリエンテーション 授業の形式、内容と計画、心理学イントロ「心理学とは？」		園田
第2回	心理学の歴史と多様な考え方 心理学の始まり、当初からあって今でも影響力の強い考え方3種		園田
第3回	心理学の研究手法と領域 心理学の方法論と人が人を見るまなざし、心理学の領域いろいろ		園田
第4回	動機づけ 動機づけ説の各種紹介、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法		園田
第5回	情動 情動の発達、感情の種類、感情と表出、表情コントロール、気分障害		園田
第6回	認知 私たちは環境をどのように知るのか？ 感覚、知覚、認知の特性		園田
第7回	学習 人間の行動が作られるしくみとは？ 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習		園田
第8回	知能 知能の構造、知能の発達曲線、遺伝か環境か？、創造性を発揮する思考法		園田
第9回	パーソナリティ 特徴の捉え方：類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法		園田
第10回	適応 人間を環境との関わりで考えてみると？ 不適応反応、ストレス、防衛機制		園田
第11回	社会と人間1 集団とは、集団から個人への影響		園田
第12回	社会と人間2 個人や少数者が集団に与える影響：少数意見が通る時／リーダーシップ論		園田
第13回	臨床の心理学1 心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解		園田
第14回	臨床の心理学2 心理療法のアプローチ四者四様：精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法		園田
第15回	総括・補足、振り返り 「心理学」全体の振り返り		園田
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める 身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する 今後の日常生活にどのように授業内容を活かせるか、考える 		
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。また、Moodleを使ったフィードバック機能も用いる予定。		
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。授業後やメールで時間調整できた場合も対応可能。		
オフィスアワー	水曜日 16:30～17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。		
テキスト	特になし。毎回、資料を配布する。		
参考文献等	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』 無藤隆ら(編著) 有斐閣 2018年 4200円(税抜き) ISBN-10: 9784641053861 『誠信 心理学辞典[新版]』 下山晴彦ら(編著) 誠信書房 2014年 5800円(税抜き) ISBN-10: 4414305071 他、各回ごとに配布資料で提示		
成績評価基準	心理学の領域ごとに、各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。		
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。		
GPA基準			
備考	前期のみ、生活科学科・教養学科合わせて80名の受講制限を設ける。(受講登録者が80名を超えた場合は、抽選を行う。)後期は受講希望者全員を受け入れる。15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。		

科目名	社会学		
担当者	倉重 加代		
授業形式	講義	科目ナンバー	5
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	自分の視点から離れて世の中を見ることや想像力を働かせることを意識しながら、日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を題材に、日常生活や社会の仕組みを説明する。まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に身近な人間関係の間で繰り上げられる行為を、その後、扱う題材の範囲を広げ社会の大きな変化と個々人の行為の関係について学ぶ。		
授業の到達目標	1.人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける 2.自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつける能力を身につける 3.人びとの間に(社会的に)共有される意味や形式の相対性について理解を深める		
授業計画		担当者	
第1回	「社会学すること」の視点を理解する		倉重
第2回	人々をつなぐ言葉の特徴を学ぶ		倉重
第3回	行為の意味を学ぶ		倉重
第4回	自分探しについて考える		倉重
第5回	アイデンティティの確立を社会的に捉える		倉重
第6回	主体的に生きることと自由について考える		倉重
第7回	社会と個人の関係について議論する		倉重
第8回	健康と病気の境界は？——物事の相対性について学ぶ		倉重
第9回	正常と異常を判断する背景について学ぶ		倉重
第10回	社会構築主義の視点を学ぶ		倉重
第11回	水俣病をめぐる社会関係について学ぶ		倉重
第12回	共同体(1)家族とは何かを考える		倉重
第13回	共同体(2)地域社会の性質とその変容について学ぶ		倉重
第14回	共同体(3)今日の人々の関係性について学ぶ		倉重
第15回	授業のまとめ		倉重
事前・事後学習	事前学習…新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つ。また、自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておく。 事後学習…定期試験のために授業内容の復習をしておくこと。		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日16:30～18:30 研究室(西館312号室)		
テキスト	『社会学のエッセンス——世の中のしくみを見ぬく』 友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵著 2017年 2,000円 (ISBN 978-4-641-22098-0)		
参考文献等	『自由からの逃走』フロム, E.著 日高六郎訳 1966年 東京創元社 『友だち幻想——人と人のつながり』を考へる』菅野仁著 ちくまプリマー新書 2008年 『〈子供〉の誕生』アリエス, P.著 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房 1980年 総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介		
成績評価基準	到達目標の1.～3.は相互に関連し、1.や2.を身につけることにより、3.に掲げている事項の理解を深めることができることから、到達目標の3.「人々の間に共有される意味や形式の相対性」を理解することを成績評価基準とする。		
成績評価の方法	期末試験(90%)と毎時間のコメントシート(10%)で評価する。		
GPA基準			
備考			

科目名	国際化と経済		
担当者	担当者未定		
授業形式	講義	科目ナンバー	6
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	<p>経済環境の複雑化とグローバル化が進み、社会人・企業人として要求される経済・金融に関する知識も高度なものが要求されるようになってきた。本科目では産業と経済・金融の基本的なしくみを学び、且つグローバル社会を理解するため国際経済の現状に触れ、日本・地域経済の課題について考える。また講義を通じて地域経済の国際化について実際に地場企業や金融機関の活動を紹介しながら、グローバル人材育成に関する課題や展望を考える。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる 2. グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきかを主体的に判断できる</p>		
授業計画			担当者
第1回	「経済」とは何か・・・経済学的考え方について		
第2回	GDP で考える物価と経済成長		
第3回	金融のしくみと経済		
第4回	貿易取引と決済のしくみ		
第5回	国際通貨制度の現状と		
第6回	企業のグローバル化(多国籍化の現状)		
第7回	地域経済統合(FTA/EPA)の歩み		
第8回	グローバル・イシュー I (開発と貧困)		
第9回	グローバル・イシュー II (環境・エネルギー・食料)		
第10回	各国・地域事情ーグローバル化と日本		
第11回	各国・地域事情ーアジア・ASEAN		
第12回	各国・地域事情ーアメリカ		
第13回	各国・地域事情ーヨーロッパ・ロシア		
第14回	鹿児島県経済とグローバル化		
第15回	講義の総括		
事前・事後学習	<p>事前学習・・・各授業のテーマの中から自分の最も関心のある経済分野での事柄についてサマリーを作成。そのサマリーに基づきグループで討論し、問題点をまとめ次回授業で質問する。 事後学習・・・授業で出て来た専門用語や関係する経済指標などの動向を、ウェブ検索等を行い実態経済での関連性を確認する。また授業で理解できなかった部分については次の講義等で質問する準備を行う。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	講義内容に沿って、授業中での口頭質問や小レポートを課す。その結果理解が不十分な場合、個別または全体に対し更に指導をおこなう。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	火曜日～金曜日 16:30～17:30 研究室(西館404号室) ※要事前連絡		
テキスト	講師作成プリント		
参考文献等	『グローバル・エコノミー(新版)』,岩本武和他,有斐閣アルマ, 2007年,2,400円, ISBN978-4-641-12461-5		
成績評価基準	授業中の口頭質問・小レポート・定期試験結果の内容でシラバスに示す到達目標が理解されたものは合格とする		
成績評価の方法	授業取組姿勢(10%) 定期試験90分(90%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	歴史学		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	科目ナンバー	7
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げる。		
授業の到達目標	1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する 2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす 3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える		
授業計画			担当者
第1回	地名研究と歴史①(地名研究の動向)	松崎	
第2回	地名研究と歴史②(鹿児島における地名と歴史)	松崎	
第3回	地名研究と歴史③(沖縄等における地名と歴史)	松崎	
第4回	歌から読み取る地域の歴史	松崎	
第5回	テレビ番組から読み取る地域の歴史	松崎	
第6回	妖怪研究と歴史①(研究の視点)	松崎	
第7回	妖怪研究と歴史②(映画から読み取る歴史)	松崎	
第8回	妖怪研究と歴史③(妖怪から読み取る社会史)	松崎	
第9回	妖怪研究と歴史④(妖怪研究とこれからの社会)	松崎	
第10回	生活研究と歴史①(死をめぐる文化①:葬儀の文化)	松崎	
第11回	生活研究と歴史②(死をめぐる文化②:「メメント・モリ」)	松崎	
第12回	生活研究と歴史③(恋愛・結婚をめぐる文化)	松崎	
第13回	生活研究と歴史④(伝統芸能)	松崎	
第14回	生活研究と歴史⑤(食の歴史)	松崎	
第15回	まとめ(自らの生活と結びつく歴史)	松崎	
事前・事後学習	事前学習:(持っていれば中学校・高校の歴史・日本史教科書を使って)基礎的な日本史の知識を確認しておく。 事後学習:定期試験のために復習するとともに、授業で紹介した以外の(自分の居住地域に即した)素材を探す。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 14:20~16:30 研究室(西館411号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『地名の魅力』谷川彰英(白水社)、『妖怪文化入門』小松和彦(せりか書房)ほか		
成績評価基準	・授業内容に即して歴史学の方法を理解していること。 ・授業をもとに自己や社会の在り方を自分なりに考えていること。		
成績評価の方法	定期試験100%(レポートで代替する場合があります)		
GPA基準			
備考			

科目名	インターンシップ		
担当者	石田 もとな		
授業形式	演習	科目ナンバー	8
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	<p>本科目の目的は、今後参画して行く「地域社会」を実践的に体験する機会を与え、これまで得てきた知識やスキルがどの様な関連しているかを、地元企業での職業体験を通して考える機会とする。事前研修として、研修先企業研究、地域貢献、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導が、本学教員と2～3名の学外講師で実施する。講義後、夏季休業中に1～2週間インターンシップを体験。事後研修として報告書の作成に基づき体験発表会を行い職業体験の共有を図る。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 地元企業体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての自覚を持つ 2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる</p>		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンスーインターンシップとは何か	石田	
第2回	研修先地元企業概要・エントリーシート登録方法説明	石田	
第3回	エントリーシート・自己PRの書き方	石田	
第4回	一次マッチング説明・仕事の基本的心得	石田	
第5回	県内雇用環境の説明・働く意義	石田	
第6回	研修企業の研修内容説明	石田	
第7回	来客対応の基本・二次マッチング参加登録	石田	
第8回	職場の人間関係・二次マッチング調整	石田	
第9回	職場のマナー研修	石田・A	
第10回	企業のしくみとコンプライアンス	石田	
第11回	インターンシップ地元企業の業界研究・地域貢献活動	石田	
第12回	外部講師講演(県内企業の現状と課題等)	石田・B	
第13回	お礼状の書き方	石田	
第14回	インターンシップによる職業体験(1～2週間程度)	石田	
第15回	研修日誌・研修報告書等作成・提出	石田	
事前・事後学習	事前学習・・・関心ある企業について企業研究・調査を行う 事後学修・・・インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるように努める		
課題に対するフィードバックの方法	個別業界研究・企業研究など課題を課す場合、口頭もしくは文書でその報告を求めるなど個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日～金曜日 16:30～17:30 研究室(西館404号室) ※要事前連絡		
テキスト	特になし		
参考文献等	1. 講師作成プリント 2. 『インターンシップーキャリア教育としての就業体験』、古閑博美、学文社、2011年 1,800円、ISBN978-4-7620-2139-8		
成績評価基準	インターンシップ参加の報告書・プレゼンテーションの内容でシラバスに示す到達目標が理解されたものは合格とする。		
成績評価の方法	研修報告書等提出物(70%) 参加報告プレゼンテーション(30%)で総合的に判断する。		
GPA基準			
備考	学内講師:A 有馬(恵) 外部講師:B 理事長 COC関連科目 「一般教養科目『インターンシップ』実施要領」(学生便覧参照)によりインターンシップ参加要件あり		

科目名	キャリアガイダンス(一年生)		
担当者	村若 修		
授業形式	演習	科目ナンバー	9
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	卒必
単位数	1 / (2)	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	キャリアガイダンスの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を作り上げられることを目的にしています。1年前期のキャリアガイダンスでは、まず、短大生活を通してキャリアデザイン(自分の未来を描く)こと、「私」を理解することから始まります。次に職業・職場の理解を深めていきます。
-------	--

授業の到達目標	自己理解を深め、働くことや職業について理解を深める。目指す職業について理解を深める。
---------	--

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	A
第2回	短大生活と職業選択へのイメージを作る	A
第3回	自立のための生活面での情報を得る(安全な生活)	A
第4回	職業と生きがいについて身近な人から学ぶ	A
第5回	附属幼稚園の見学で、具体的な職業イメージを作る	A
第6回	幼稚園見学の振り返りと就職までの道のりを考える	A
第7回	研修によって保育実践から職業理解を深めて学ぶ	A
第8回	おとなとして生きるために、性について考える	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

事前・事後学習	事前学習: 目指す進路に向けてネットや新聞などをもとに情報を集めておく 事後学習: 自分の目指す進路に関わらせ、講義の内容を振り返る
---------	---

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、各ホーム担任が適宜対応する
------------------	---------------------------

質問・相談方法	オフィスアワーにて対応
---------	-------------

オフィスアワー	村若(責任者) 火曜日 16:00~17:00 研究室(西館410号室)
---------	--------------------------------------

テキスト	学科独自に作成した資料、就職支援ガイド(本学作成)、キャリア形成ガイドブック(鹿児島市)
------	--

参考文献等	特になし
-------	------

成績評価基準	自己理解を深め、働くことや職業の意義をふまえた上で、目指す職業について理解していること。
--------	--

成績評価の方法	受講態度(30%) レポート(70%)
---------	---------------------

GPA基準	
-------	--

備考	学科教員(A): 大村・池田・村若・新村・宇都・平嶋・松崎・井上・松元・横峯・内田・宮里・本田・赤瀬川・黒原・丸田・松下・中村・生田・藤川・渡邊 COC関連科目 担当教員ごとのオフィスアワーを、オリエンテーションで配布
----	---

科目名	英語演習 I		
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	10
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	英語で聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力や、発音・アクセントなど、幼児教育や初等教育でも活用できる英語の基礎的知識を習得する。また英語を学習を通して、異文化への理解を深める。英語の絵本、歌、ゲームなども、適時紹介する。授業内容への理解を深めるために、授業外での課題も課される。		
授業の到達目標	1. 英語での基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 2. 幼児教育や初等教育で活用できる英語の基礎的知識を習得する。 3. 英語の学習を通して異文化に触れる。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション: 語学を学ぶに当たって	生田	
第2回	"Hello!" and "How are you?"	生田	
第3回	"How many?" and "I like blue"	生田	
第4回	"What do you like?" and Alphabet (Capital letters)	生田	
第5回	"This is for you" and "What's this?"	生田	
第6回	"Who are you"	生田	
第7回	Introduce Yourself	生田	
第8回	"Hello, world!" and "let's play cards"	生田	
第9回	"I like Mondays" and "What time is it?"	生田	
第10回	"Do you have a pen?"	生田	
第11回	Alphabet (small letters)	生田	
第12回	"What do you want?"	生田	
第13回	"This is my favorite place"	生田	
第14回	"This is my day"	生田	
第15回	Introduce your day	生田	
事前・事後学習	事前: 毎回の授業には予習や復習が課され、課題内容の小テストや課題提出を毎回行う。 事後: 2年次の外国語や外国語指導法に関連する科目なので、各自で復習をよく行い、不明な点は教員に相談・質問すること。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業内で適時実施する。		
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。		
オフィスアワー	金曜 14:40～16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	『Let's Try 1』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 978-4-487-25870-3 『Let's Try 2』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 978-4-487-25871-0		
参考文献等	英語辞書		
成績評価基準	英語の基礎的なコミュニケーション能力や知識を習得し、異文化について理解すること。		
成績評価の方法	小テスト・提出物(50%)、定期試験(50%)		
GPA基準			
備考			

科目名	英語演習 I		
担当者	吉村 圭		
授業形式	演習	科目ナンバー	10
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	会話や作文に最低限必要な英文法について授業を行う。テキストを通し、文法事項の解説を行った上で、リーディング、ライティング、リスニングを行う。その際、補助教材として海外の映画や英語版のマンガを用いる。		
授業の到達目標	1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができる。 2. グループのメンバーで協力し、英訳等のクイズに取り組むことができる。 3. 自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できる。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション:語学を学ぶに当たって		吉村
第2回	英語の語順の確認□		吉村
第3回	英語の語順の確認(動詞の使いわけ)		吉村
第4回	一般動詞、過去形 規則変化		吉村
第5回	一般動詞、過去形 不規則変化 基本事項□		吉村
第6回	進行形 基本事項		吉村
第7回	進行形 否定形、尋ね方		吉村
第8回	未来形 基本事項□		吉村
第9回	未来形 否定形、尋ね方		吉村
第10回	助動詞 基本事項		吉村
第11回	助動詞 否定形、尋ね方		吉村
第12回	特殊な形の文 命令文		吉村
第13回	特殊な形の文 There is/are構文		吉村
第14回	Itの特殊な使われ方		吉村
第15回	Itの特殊な使われ方(It~to構文)		吉村
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に配布したプリントを用い、日本語訳や英訳の作業を行う。 ・授業時に紹介した映画を視聴し、会話表現の聞きとりを行う(英語字幕に切り替えると便利)。 		
課題に対するフィードバックの方法	回収した課題は添削して返却する。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 吉村研究室(西館309号室)		
テキスト	『Everyday English Grammar<Theird Edition>』 水島孝司著 南雲堂 2018年 2000円(税抜き)(ISBN: 9784523178620)		
参考文献等	『英単語ターゲット1400』等単語帳		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができること。 ・自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できること。 		
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト・提出物(10%)、グループ活動参加(30%)□		
GPA基準			
備考			

科目名	フランス語演習 I		
担当者	杉山 朱実		
授業形式	演習	科目ナンバー	11
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	各課は、「挨拶する」「紹介する」「尋ねる」といった、現実のコミュニケーションの場で体験するテーマに沿った短い会話文が中心となる。これら各課のテーマを表現するのに必要な文法事項も学び、フランス語表現の習得と共に、聞く・書く・読むといった、総合的なフランス語の運用能力を習得していく。		
授業の到達目標	1.現実のコミュニケーションの場で使える生きたフランス語の習得を目指す 2.一回の授業の中で、毎回受講生が、必ず、フランス語で会話ができることを目標とする 3.アクティブラーニングの実施をめざす		
授業計画			担当者
第1回	フランスとフランス語に親しむ		杉山
第2回	フランス語のアルファベットに親しむ		杉山
第3回	フランス語で挨拶をする		杉山
第4回	フランス語で名前を言う		杉山
第5回	フランス語で国籍を言う		杉山
第6回	フランス語で職業を言う		杉山
第7回	フランス語で年齢を言う		杉山
第8回	フランス語で家族を語る		杉山
第9回	フランス語で好きなものを言う		杉山
第10回	フランス語で友達について話す		杉山
第11回	フランス語で持ち物をいう		杉山
第12回	フランス語で尋ねてみる		杉山
第13回	フランス語で近い未来、近い過去を言う		杉山
第14回	フランス語で時間を言う		杉山
第15回	フランス語で天気を言う		杉山
事前・事後学習	事前学習…意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。 事後学習…小テストでロールプレイ等をして復習する。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、毎回チェックのうえ返却し、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日 10:25～10:35、12:05～12:15（講義室）		
テキスト	『パリのクール・ジャパン』、藤田裕二、朝日出版社、2018.1.30、2500円、ISBN978-4-255-35211-4		
参考文献等	辞書の説明など、講義の中で説明していく。		
成績評価基準	聞く・書く・読むといった運用能力を習得し、フランス語で会話ができること。		
成績評価の方法	各講義中の毎回の小テスト(50%)、授業中の平常点(50%)での総合評価		
GPA基準			
備考			

科目名	中国語演習 I		
担当者	黒川 太郎		
授業形式	演習	科目ナンバー	12
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	中国語初学者対象の授業です。簡単な挨拶表現、基本的な発音および文型を中心に教えます。日常生活に必要な語彙を身に付けることを目的に会話を中心とした授業を行います。毎回の授業では日本語との発音の違いに注意し、正確な発音の練習に時間を割き、授業の終わりには、受講者が中国語で自己紹介できることを目標とします。		
授業の到達目標	1.中国語の発音に慣れ、ローマ字ピンインで書ける。 2.中国語で自己紹介し、1～10の数を正確に言える。 3.簡単な挨拶表現ができる。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション:語学を学ぶにあたって		黒川
第2回	第1課 挨拶(1)発音(声調・短母音)・ピンイン表記「こんにちは」		黒川
第3回	第2課 挨拶(2)発音(子音・複合母音・鼻母音)「お変わりありませんか」		黒川
第4回	第3課 挨拶(3)発音と簡単な挨拶表現「お仕事は忙しいですか」		黒川
第5回	発音の矯正 自分の名前の中国語音の確認		黒川
第6回	第4課 初めて会う(1)疑問文「お名前はなんとおっしゃいますか」		黒川
第7回	第5課 初めて会う(2)動詞述語文「ちょっとご紹介します」		黒川
第8回	第1課～第5課復習(自己紹介)		黒川
第9回	第6課 尋ねる(1)名詞述語文「誕生日は何月何日ですか」		黒川
第10回	第7課 尋ねる(2)「有」文「ご家族は何人ですか」		黒川
第11回	第8課 尋ねる(3)時間の読み方「今何時ですか」		黒川
第12回	発音の矯正 疑問文の作り方		黒川
第13回	第9課 尋ねる(4)連動文「お住まいはどちらですか」		黒川
第14回	第10課 尋ねる(5)方位詞「郵便局はどこですか」		黒川
第15回	第6課～第10課復習(数を表す表現)		黒川
事前・事後学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。 ・授業前後に新出単語の学習をする。		
課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。		
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応		
オフィスアワー	月曜日 13:00～17:00 黒川研究室(西館307号室)		
テキスト	「新訳第3版 中国語会話301(上)」康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10:493131550X)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	ローマ字ピンインを正確に発音できること。自己紹介・簡単な挨拶表現ができること。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、受講態度を総合的に評価(30%)、授業内で行う会話試験(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	韓国語演習 I		
担当者	李 賢雄		
授業形式	演習	科目ナンバー	13
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	韓国語の文字(ハングル)の読み書きを身につけ、簡単な挨拶表現及び基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習を通じて、授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国語の文字(ハングル)と発音を表すことができる。 2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる。 3. 言語を通じて韓国への理解を深めることができる。 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション: 語学を学ぶに当たって		李(イ)
第2回	韓国語の文字(ハングル)と発音1(母音)		李(イ)
第3回	韓国語の文字(ハングル)と発音2(子音)		李(イ)
第4回	韓国語の文字(ハングル)と発音3(パッチム)		李(イ)
第5回	日本語のハングル表記方法		李(イ)
第6回	物事の名称についての表現1(文法)		李(イ)
第7回	物事の名称についての表現2(応用)		李(イ)
第8回	出身地について尋ねる1(文法)		李(イ)
第9回	出身地について尋ねる2(応用)		李(イ)
第10回	家族の呼び名及び紹介1(文法)		李(イ)
第11回	家族の呼び名及び紹介2(応用)		李(イ)
第12回	存在の有無を表す1(文法)		李(イ)
第13回	存在の有無を表す2(応用)		李(イ)
第14回	場所を尋ねる表現1(漢数字1/文法)		李(イ)
第15回	場所を尋ねる表現2(漢数字2/応用)		李(イ)
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを事前に読んでおくこと。 ・各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。 ・5回おきに小テストを行うので復習をすること。 		
課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日8:40~8:50、10:20~10:30(講義室)		
テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』、入佐信宏・金孝珍 共著、白帝社、2015年、2,300円(税抜き)、ISBN978-4-86398-181-2C3087		
参考文献等	「あいうえお」から始める書き込み式ハングルBOOK、栗原景 著、成美堂出版、2012年、1,000円(税抜き)、ISBN978-4-415-03030-2		
成績評価基準	ハングルの母音と子音を正確に区別でき、決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができたものは合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者が5名以下の場合開講されません。 ・韓国語を初めて学習する人が望ましい。 		

科目名	韓国語演習 I		
担当者	姜 美貞		
授業形式	演習	科目ナンバー	13
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	韓国語の文字(ハングル)の読み書きを身につけ、簡単な挨拶表現及び基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習を通じて、授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国語の文字(ハングル)と発音を表すことができる。 2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる。 3. 言語を通じて韓国への理解を深めることができる。 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション: 語学を学ぶに当たって		姜
第2回	韓国語の文字(ハングル)と発音1(母音)		姜
第3回	韓国語の文字(ハングル)と発音2(子音)		姜
第4回	韓国語の文字(ハングル)と発音3(パッチム)		姜
第5回	日本語のハングル表記方法		姜
第6回	物事の名称についての表現1(文法)		姜
第7回	物事の名称についての表現2(応用)		姜
第8回	出身地について尋ねる1(文法)		姜
第9回	出身地について尋ねる2(応用)		姜
第10回	家族の呼び名及び紹介1(文法)		姜
第11回	家族の呼び名及び紹介2(応用)		姜
第12回	存在の有無を表す1(文法)		姜
第13回	存在の有無を表す2(応用)		姜
第14回	場所を尋ねる表現1(漢数字1/文法)		姜
第15回	場所を尋ねる表現2(漢数字2/応用)		姜
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを事前に読んでおくこと。 ・各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。 ・5回おきに小テストを行うので復習をすること。 		
課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日8:40~8:50、10:20~10:30(講義室)		
テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』、入佐信宏・金孝珍 共著、白帝社、2015年、2,300円(税抜き)、ISBN978-4-86398-181-2C3087		
参考文献等	「あいうえお」から始める書き込み式ハングルBOOK、栗原景 著、成美堂出版、2012年、1,000円(税抜き)、ISBN978-4-415-03030-2		
成績評価基準	ハングルの母音と子音を正確に区別でき、決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができたものは合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者が5名以下の場合開講されません。 ・韓国語を初めて学習する人が望ましい。 		

科目名	日本語演習 I		
担当者	岩切 朋彦		
授業形式	演習	科目ナンバー	14
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	この授業では、日本語学校で勉強したN2レベルの日本語の文型をもう一度勉強し、しっかり使えるようにします。そのあと、N1レベルの文型も勉強します。短期大学の授業では、日本語学校で習ったことがない語いもたくさん覚えなければなりません。ですから、語いの勉強もします。また、漢字は書くことより読むことの方が大切ですから、読める漢字の量をふやします。		
授業の到達目標	1、JLPTのN1～N2レベルの日本語の文型をおぼえ、使えるようになる 2、短期大学の授業で使われる語いをおぼえ、理解できるようになる 3、読める漢字の量をふやす		
授業計画			担当者
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます		岩切
第2回	行為の対象 文型：～にこたえて・～をめぐる・～にかかわる 語いと漢字①		岩切
第3回	目的・手段・媒介 文型：～上で・～べく・～をもって 語いと漢字②		岩切
第4回	起点・終点・限界・範囲 文型：～をはじめ・～からして・～を限りに 語いと漢字③		岩切
第5回	時間的同時性・時間的前後関係 文型：～とともに・～と思ったら・～次第 語いと漢字④		岩切
第6回	進行・相関関係 文型：～つつある・～ようとしている・～ばかりだ 語いと漢字⑤		岩切
第7回	付帯・非付帯 文型：～つつ・～ぬきで・～をぬきにして 語いと漢字⑥		岩切
第8回	中間テスト		岩切
第9回	限定 文型：～に限り・～かぎり(は)・～かぎりでは・ただ～のみ 語いと漢字⑦		岩切
第10回	非限定・付加 文型：～に限らず・～のみならず・～にとどまらず 語いと漢字⑧		岩切
第11回	比較・程度・対比 文型：～くらいなら・～にもまして・～ないまでも 語いと漢字⑨		岩切
第12回	基準 文型：～に沿って・～に基づいて・～を踏まえて 語いと漢字⑩		岩切
第13回	関連・対応 文型：～次第では・～に応じて・～を契機に(して) 語いと漢字⑪		岩切
第14回	無関係・無視・例外 文型：～にかかわらず・～はともかく・～いかんによらず 語いと漢字⑫		岩切
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます		岩切
事前・事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強してください		
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します		
質問・相談方法	授業中に質問してもいいですし、オフィスアワーの時間に研究室(西館407)に来てもいいです		
オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 研究室(西館407号室)		
テキスト	特になし(プリントを配ります)		
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子ほか著 株式会社アルク 2013年 2500円		
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えようになったかどうかを評価の基準にします		
成績評価の方法	授業態度(20%)、中間テスト(40%)、課題レポート(40%)		
GPA基準			
備考	受講対象者 留学生のみ		

科目名	数学基礎		
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	科目ナンバー	15
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	<p>数学は、昔から様々な文化で多くの人が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う 2. 数学の有用性を認識する 3. 習得した技能を日常に応用することができる</p>		
授業計画		担当者	
第1回	数の歴史 いろいろな文化にある様々な数学	内田	
第2回	不思議な数のパターン	内田	
第3回	微分と積分 イメージすると計算できる	内田	
第4回	迷路 出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう	内田	
第5回	グラフを読む 鹿児島県の人口変動を探ろう	内田	
第6回	数値を読み解く オリンピック選手を選んでみよう	内田	
第7回	タングラム 図形を組み合わせてみると	内田	
第8回	面積 一つの知識でどれだけのが考えられるか	内田	
第9回	確率 好きな人の隣に座れる確率は	内田	
第10回	フィボナッチ数 美しいデザインの中にある秘密	内田	
第11回	価値観 数を選ぶことで、自分の価値を知る	内田	
第12回	関数 変化する先の予測	内田	
第13回	証明 どうしたら人に説明できるだろう	内田	
第14回	ベクトル 力を図示するとわかること	内田	
第15回	不完全性定理 数学はどこまで正しいのだろうか	内田	
事前・事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する		
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00(西館412号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『偏愛的数学 驚異の数』ポザマンティエ著 岩波書店 (ISBN-978-4000059817) 2200円		
成績評価基準	各単元の数学的知識の理解および問題解決力の有無		
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	理科基礎		
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	科目ナンバー	16
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんの方に興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしています。		
授業の到達目標	1.理科・科学の楽しさを実感する 2.様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う 3.疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する		
授業計画			担当者
第1回	ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう□		内田
第2回	五感で感じられることは何？ 視覚・聴覚・触覚		内田
第3回	五感で感じられることは何？ 嗅覚・味覚		内田
第4回	最先端の科学事情 今科学でできること		内田
第5回	宇宙の誕生と今、そして未来□		内田
第6回	星座物語と地球誕生		内田
第7回	生物 その進化と多様性□		内田
第8回	遺伝するもの、しないもの		内田
第9回	病気ってなんだろう？□		内田
第10回	燃えるもの、燃えないもの		内田
第11回	化学反応式はすごい こんなことまで説明できる□		内田
第12回	電化製品はどんな仕組み？ イヤホンを作ってみよう□		内田
第13回	炎色反応 金属を使って花火を作ろう□		内田
第14回	時間の流れは同じではない？ 相対性理論と量子力学		内田
第15回	科学的ってなんだろう？ 科学と疑似科学		内田
事前・事後学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る		
課題に対するフィードバックの方法	講義において教室全体に対してのコメントとしてフィードバックしていく		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00(西館412号室)		
テキスト	特になし 授業中に適宜資料を配布する		
参考文献等	科学雑誌『ニュートン』		
成績評価基準	基礎的な知識だけでなく、科学的思考力の定着度合い、さらに理科への興味関心の具合を基準とする		
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	分子からみた生物		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	科目ナンバー	17
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられる教養を身につける。		
授業の到達目標	1. 生物について基礎的な知識を習得する 2. 最近の生物における知見を学ぶ		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション	横峯	
第2回	生物と細胞	横峯	
第3回	生物の体を作っているもの(異化)	横峯	
第4回	生物の体を作っているもの(同化)	横峯	
第5回	細胞の増え方、精子と卵のでき方	横峯	
第6回	メンデルの遺伝(優性の法則、分離の法則について)	横峯	
第7回	血液型で遺伝を知ろう	横峯	
第8回	男の子、女の子の生まれる確率(伴性遺伝)	横峯	
第9回	遺伝疾患の分類	横峯	
第10回	クローン動物	横峯	
第11回	臓器移植	横峯	
第12回	生物の進化と地球環境①(生命の誕生)	横峯	
第13回	生物の進化と地球環境②(全球凍結と生命)	横峯	
第14回	生命の進化と地球環境③(大海からの離脱)	横峯	
第15回	生物の進化と地球環境④(大量絶滅)	横峯	
事前・事後学習	自ら作成した板書ノートを読み直し、次の講義へ備える		
課題に対するフィードバックの方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	金曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	休みの時間の生物学 朝倉幹晴 講談社サイエンティフィック 2376円 (ISBN978-4061557017)		
成績評価基準	本講義内において紹介・説明した生物学の一般常識を理解し、自分の言葉で説明できること		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
GPA基準			
備考			

科目名	人間と環境		
担当者	岩切 朋彦		
授業形式	講義	科目ナンバー	18
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	人間は、地球上のあらゆる場所にいます。長い歴史の中で、様々な自然環境に適応してきたのが人間です。その適応は、牙を伸ばしたり毛を増やしたりといった身体的変化ではなく、自然環境に合わせて独自の社会環境・技術環境・精神的環境を生み出すことによって行われてきました。人類学の一領域である環境人類学は、人間と環境とのこうしたかわりについて、多角的な視点から研究を行ってきた学問です。この講義では、環境人類学の基本的な理論を通して、人間と環境の様々な相互関係について概説していきます。		
授業の到達目標	1、環境人類学の基本的な理論について学び、理解する 2、人間と環境の複雑な相互関係について学び、理解する 3、自分の日常的な環境について、学んだ理論を用いて説明することができる		
授業計画			担当者
第1回	文化人類学と環境人類学に居ついて—イントロダクションとして		岩切
第2回	人間は「文化」によって環境に適応する—人間と環境との生態学的関係		岩切
第3回	飢えないために人間が編み出してきたこと—環境と生業経済		岩切
第4回	住居も「道具」のひとつである—諸民族の住居と自然環境への適応		岩切
第5回	人間は「進化」しているのか—文化生態学と多系進化論		岩切
第6回	環境は言語によって創造される—民族生態学とタクソノミー研究		岩切
第7回	シンボルによって織りなされた豊かな環境観—構造主義と「野生の思考」		岩切
第8回	宗教は生態系に影響を与える—ホメオスタシスとしての儀礼		岩切
第9回	文化によってモノはさまざまな意味をおびる—モノの意味と交換		岩切
第10回	国家もまた「環境」のひとつである—複合社会の生態学		岩切
第11回	金属は役には立つが悩みも多い—鉱物開発に伴う種々の問題		岩切
第12回	「3.11」以降の日本と原子力発電—ハザードとリスク		岩切
第13回	「人口爆発」と環境破壊—地球人口の増加と環境への影響		岩切
第14回	環境破壊によって生み出される新たな病—環境と健康		岩切
第15回	グローバル化時代における人間と環境—まとめとして		岩切
事前・事後学習	その日の授業で学んだ内容について、自分の生活環境と関連付けながら考え、復習すること。また、テレビや新聞、インターネットなどで、環境問題についてのニュースがないかチェックしておくこと。		
課題に対するフィードバックの方法	感想シートによる理解度チェックを行う		
質問・相談方法	授業中の質問、研究室(西館407)での対応		
オフィスアワー	金曜日 10:35~12:05 研究室(西館407号室)		
テキスト	特になし(プリント配布)		
参考文献等	『環境人類学を学ぶ人のために』パトリシア・K・タウンゼンド著 世界思想社 2004年 1700円 『最新研究で読む地球環境と人類史』石弘之著 洋泉社 2016年 2200円		
成績評価基準	①理論の理解度 ②人間と環境を巡る問題に対して自らの意見を言えるかどうか ③受講態度		
成績評価の方法	定期試験(80%) 受講態度(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	日本国憲法		
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	科目ナンバー	19
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「統治機構」、「人権」という憲法学の2大領域における須要事項を、日本国憲法を基底に解説してゆく。 ・日本国憲法の各条項が、わたしたちの日々の暮らしにどのように関わり合っているのかを重要判例をとおし考察する。 		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法に関する基本知識を身につけている。 ・立憲主義理念に依拠する現代憲法の意義・役割を日々の生活との関連において説明できる。 ・社会における諸課題解決のための方策を、憲法を軸に構想することができる。 		
授業計画			担当者
第1回	鷗州憲政史にみる自由権の確立		池田
第2回	人権の諸相－自由権・社会権・参政権・請求権－		池田
第3回	日本国憲法の構造		池田
第4回	立法府(国会)の権能		池田
第5回	行政府(内閣)の権能と内閣総理大臣の権限		池田
第6回	司法府(裁判所)の権能と違憲立法審査制		池田
第7回	中間まとめ		池田
第8回	人権の享有主体		池田
第9回	私人間における憲法効－3つの判例より－		池田
第10回	精神的自由権－表現の自由・信教の自由－		池田
第11回	幸福追求権－憲法13条の可能性－		池田
第12回	経済的自由権とその規制法理		池田
第13回	生存権と生活保護法		池田
第14回	子どもの発達と教育権		池田
第15回	憲法改正の論点		池田
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。 ・授業中・後に提示された課題研究に取り組むこと。 		
課題に対するフィードバックの方法	課題にたいする参考答案例の配布または解説をとおし、知識・理解の整理を図る。		
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。		
オフィスアワー	月曜16:30～17:30(研究室414)		
テキスト	『図録 日本国憲法』弘文堂 2018年 (ISBN978-4-335-35761-9)		
参考文献等	『公務員試験 スピード解説 憲法』実務教育出版 2015年		
成績評価基準	立憲主義と憲法の関係性を踏まえ、日本国憲法の重要条文の内容・意義を理解している。		
成績評価の方法	定期試験(90%)、受講意欲・態度等(10%)。なお再試は1回にかぎり実施する。		
GPA基準			
備考	上記記載の各内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。学生証不携帯による出席確認未了者は欠席扱いとします。		

科目名	海外事情		
担当者	黒川 太郎、内田 豊海		
授業形式	演習	科目ナンバー	20
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報			
授業の概要	本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養おうというものである。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性を学習したのち、協定校である台湾高雄にある樹人医護管理専科学校を拠点に、履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う。		
授業の到達目標	1. 異文化に接し、異文化への理解を深める 2. 体験的に国際感覚を養う 3. 自らの専門分野について国際比較の観点から理解を深める		
授業計画			担当者
第1回	事前説明 台湾研修の流れと台湾の国情(5月・6月)		黒川
第2回	事前指導 中国語授業:簡単な挨拶と自己紹介(7月)		黒川
第3回	1日目:台湾への移動と現地学生との交流		引率教員
第4回	2日目:樹人医護管理専科学校の学内散策		引率教員
第5回	3日目:台湾語の学習		引率教員
第6回	3日目:日本文化の紹介		引率教員
第7回	4日目:文化村訪問		引率教員
第8回	4日目:伝統工芸体験		引率教員
第9回	5日目:幼稚園・保育所訪問		引率教員
第10回	5日目:台湾の教育事情		引率教員
第11回	6日目:パイナップルケーキ調理実習		引率教員
第12回	6日目:台湾の食事情		引率教員
第13回	7日目:研修活動の合同発表		引率教員
第14回	8日目:台北散策		引率教員
第15回	研修成果の発表		黒川
事前・事後学習	インターネットやニュース、書籍を通し、台湾に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める		
課題に対するフィードバックの方法	適宜、個人個人に直接コメントしてフィードバックする		
質問・相談方法	オフィスアワーに研究室にて対応		
オフィスアワー	木曜日 10:35~12:05 西館307号室		
テキスト	特になし		
参考文献等	「地球の歩き方 ガイドブック D10 台湾 2019年~2020年版」ダイヤモンド社 2019年 1700円(税抜)ISBN:978-4-478-82314-9		
成績評価基準	国際交流に関する視野の広がり 国際理解に関する知見		
成績評価の方法	研修中の活動(60%) 研修の発表(20%) レポート(20%)		
GPA基準			
備考	1. 参加学生数や台湾の情勢により、本授業が開講されない可能性もある2. 本科目に興味を持つ学生は、初回の履修登録時に履修登録をする(後日取消可能)3. 初回の履修登録期間中に登録しない者は、原則として追加登録を認めない4. 説明会2回(5・6月)および中国語講座(7月)、事前説明会(8月)を実施予定5. 参加学生は後日研修成果を発表することが求められる 5. 参加にはパスポートが必要であるため、未取得者はパスポートの取得が求められる		

科目名	英語演習Ⅱ		
担当者	吉村 圭		
授業形式	演習	科目ナンバー	21
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	この授業では前期に引き続き、会話や英作文に最低限必要な英文法の理解を目標とする。後期の授業では特に品詞に着目し、名詞や形容詞、副詞などを正しく使い分け、文章を正しく理解することを目指す。その際、補助教材として海外の映画や英語版のマンガを用い、英語の理解を深める。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができる。 2. グループのメンバーで協力し、英訳等のクイズに取り組むことができる。 3. 自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できる。 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、英語の語順確認		吉村
第2回	名詞 基本事項		吉村
第3回	名詞 主語、目的語、補語		吉村
第4回	代名詞 人称代名詞		吉村
第5回	代名詞 注意が必要な代名詞 (other等)		吉村
第6回	前置詞 基本事項		吉村
第7回	前置詞 注意が必要な前置詞 (in, on, atの使い分け等)		吉村
第8回	形容詞 基本事項		吉村
第9回	形容詞 注意が必要な形容詞 (数量形容詞等)		吉村
第10回	副詞 基本事項		吉村
第11回	副詞 注意が必要な副詞 (強調語)		吉村
第12回	副詞 注意が必要な副詞 (準否定語)		吉村
第13回	接続詞 等位接続詞 (and, orの使い分け等)		吉村
第14回	接続詞 従属接続詞 (that+文)		吉村
第15回	接続詞 従属接続詞 (when, while, though等)		吉村
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に配布したプリントを用い、日本語訳や英訳の作業を行う。 ・授業時に紹介した映画を視聴し、会話表現の聞き取りを行う(英語字幕に切り替えると便利)。 		
課題に対するフィードバックの方法	回収した課題は添削して返却する。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		
オフィスアワー	金曜日 12:05～12:50 吉村研究室(西館309号室)		
テキスト	『Everyday English Grammar<Third Edition>』 水島孝司著 南雲堂 2018年 2000円(税抜き)(ISBN: 9784523178620)		
参考文献等	『英単語ターゲット1400』等単語帳		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができること。 ・自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できること。 		
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト・提出物(10%)、グループ活動参加(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	英語演習Ⅱ		
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	21
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	英語で聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力や、発音・アクセントなど、幼児教育や初等教育でも活用できる英語の基礎的知識を習得する。また英語を学習を通して、異文化への理解を深める。英語の絵本、歌、ゲームなども、適時紹介する。授業内容への理解を深めるために、授業外での課題も課される。		
授業の到達目標	1. 英語での基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 2. 幼児教育や初等教育で活用できる英語の基礎的知識を習得する。 3. 英語の学習を通して異文化に触れる。		
授業計画		担当者	
第1回	"Hello, everyone"	生田	
第2回	"When is your birthday?"	生田	
第3回	"What do you have on Monday?"	生田	
第4回	"What time do you get up?"	生田	
第5回	"She can run fast. He can jump high."	生田	
第6回	"I want to go to Italy"	生田	
第7回	"Where is the treasure?"	生田	
第8回	"What would you like?"	生田	
第9回	"Who is your hero?"	生田	
第10回	"This is ME!"	生田	
第11回	"Welcome to Japan"	生田	
第12回	"He is famous. She is great."	生田	
第13回	"I like my town"	生田	
第14回	"My summer vacation"	生田	
第15回	"What do you want to watch?"	生田	
事前・事後学習	事前: 毎回の授業には予習や復習が課され、課題内容の小テストや課題提出を毎回行う。 事後: 2年次の外国語や外国語指導法に関連する科目なので、復習をよく行い、不明な点は相談・質問すること。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業内で適時実施する。		
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。		
オフィスアワー	金曜日 14:40~16:10 研究室(西館408)		
テキスト	『We Can 1』 文部科学省 東京書籍 2018 389円 978-4-487-25873-4 『We Can 2』 文部科学省 東京書籍 2018 389円 978-4-487-25874-1		
参考文献等	英語辞書		
成績評価基準	英語の基礎的なコミュニケーション能力や知識を習得し、異文化について理解すること。		
成績評価の方法	小テスト・提出物(50%)、定期試験(50%)		
GPA基準			
備考			

科目名	フランス語演習Ⅱ		
担当者	杉山 朱実		
授業形式	演習	科目ナンバー	22
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	文化(フランスの映画や歌)や、フランス人の一日の行動等も含め、より多彩なフランス語表現を学んでいく。文法的に、少し難しく思えても、フランス人が日常会話の中で、使っている表現なので、毎回の授業の中で繰り返すことで、習得していただけるので、継続した授業参加を希望する。		
授業の到達目標	1.フランス語演習Ⅱに引き続き、現実のコミュニケーションの場で体験するテーマに沿った短い会話文を学んでいく 2.特にフランス語演習Ⅱでは、話すためのきく能力、フランス語を理解できる力を受講生が、習得していくことを目指していく 3.アクティヴラーニングの実施を目指す		
授業計画			担当者
第1回	フランス人の食事について考察してみる		杉山
第2回	数量表現(フランス語で独特な表現方法を知る)		杉山
第3回	紹介する(フランス語で友達・家族等)		杉山
第4回	一日を語る(フランス語動詞の代名動詞を使う)		杉山
第5回	頼む・命令する(フランス語にある3つの命令法の会話での使い分けを知る)		杉山
第6回	未来のことを語る(前期での近接未来との言い方の違いにより、語尾活用の未来形を知る)		杉山
第7回	過去のことを語るⅠ(過去に完了した行為の表現を複合過去から学ぶ)		杉山
第8回	過去のことを語るⅡ(過去の状態や習慣を半過去の表現から学ぶ)		杉山
第9回	関係代名詞を使った言い方を学び、フランス語表現での会話力を増す		杉山
第10回	強調構文や対立構文を学ぶ(買い物等で、どちらにするか迷った時に使える会話文となる)		杉山
第11回	比較級を学ぶ(買い物や、人物比較等で、使えるフランス語表現の比較級を知る)		杉山
第12回	最上級を学ぶ(フランス語会話表現の中で「もっとも。。。だ。」といった表現を学ぶ)		杉山
第13回	受け身表現・ジェロンディフの表現を学び、フランス語表現の同時性・対立・条件を学ぶ		杉山
第14回	仮定表現を学ぶ(現実には不可能な願望を仮定する表現方法がフランス語にあるのを知る)		杉山
第15回	感情を表現する(感情・願望・義務等のフランス独特の表現方法を学ぶ)		杉山
事前・事後学習	事前学習・・・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。 事後学習・・・小テストでロールプレイ等をして復習する。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、毎回チェックのうえ返却し、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日 14:30~14:40、16:10~16:20 (講義室)		
テキスト	『パリのクール・ジャパン』、藤田裕二、朝日出版社、2018.1.30、2500円、ISBN978-4-255-35211-4		
参考文献等	辞書の説明など、講義の中で説明していく。		
成績評価基準	話すためのきく能力を習得し、フランス語で会話ができること。		
成績評価の方法	各講義中の毎回の小テスト(50%)、授業中の平常点(50%)での総合評価		
GPA基準			
備考			

科目名	中国語演習Ⅱ		
担当者	黒川 太郎		
授業形式	演習	科目ナンバー	23
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	中国語演習Ⅰの履修者が受講する科目です。演習Ⅰと同じの教科書を用い、新しい表現と文法を学び、引き続き正確な発音練習を授業内で行います。また、日常生活や旅行で役立つような簡単な表現を中心に教えると同時に配布資料を通じて新たな語彙の習得を目指します。この授業の終わりには、受講者が中国語母語者を相手に簡単な受け答えができるようになることを目標としています。		
授業の到達目標	1.本文を正確に読むことできる。 2.基本的な文型を使った表現ができる。 3.日常会話で必要な単語を覚え、正確に発音できる。		
授業計画			担当者
第1回	前期の復習(1課～10課)		黒川
第2回	第11課 必要(1)語気助詞「了」「みかんを買いたいです」		黒川
第3回	第12課 必要(2)主述述語文 「セーターを買いたいです」		黒川
第4回	第13課 必要(3)能願助詞「会」「乗り換えが必要です」		黒川
第5回	旅行時の会話表現		黒川
第6回	第14課 必要(4)兼語文「両替に行きたいです」		黒川
第7回	第15課 必要(5)「是」文「写真を撮りたいです」		黒川
第8回	復習第11課～第15課		黒川
第9回	第16課 約束(1)動態助詞「?」「京劇を見たことがありますか」		黒川
第10回	第17課 約束(2)選択疑問文「動物園に行きます」		黒川
第11回	買い物での表現、お金の言い方		黒川
第12回	第18課 迎える(1)文型「要～了」「道中お疲れさまでした」		黒川
第13回	第19課 迎える(2)動量補語「歓迎いたします」		黒川
第14回	第20課 程度補語「私たちの友情のために乾杯」		黒川
第15回	復習第16課～第20課		黒川
事前・事後学習	・教科書付属のCDを聞いて声調等の発音を身につける ・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える		
課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。		
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応。		
オフィスアワー	水曜日 10:35～12:05 黒川研究室(西館307号室)		
テキスト	「新訳第3版 中国語会話301(上)」 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10:493131550X)		
参考文献等			
成績評価基準	教科書内の文章を正確に読むことできる。基本的な文型を応用した表現ができる。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、受講態度を総合的に評価(30%)、授業内で行う会話試験(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	韓国語演習Ⅱ		
担当者	李 賢雄		
授業形式	演習	科目ナンバー	24
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。各課の本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。		
授業の到達目標	1. 韓国語の基礎文法を応用することができる。 2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる。 3. 会話練習を通じてコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業計画		担当者	
第1回	習慣について尋ねる(動詞編1/文法)	李(イ)	
第2回	習慣について尋ねる(動詞編2/応用)	李(イ)	
第3回	予定について尋ねる(動詞編3/文法)	李(イ)	
第4回	予定について尋ねる(動詞編4/応用)	李(イ)	
第5回	時間を表す(固有数字)	李(イ)	
第6回	位置を表す(方向)	李(イ)	
第7回	過去の行動について表す(動詞の過去形1/文法)	李(イ)	
第8回	過去の行動について表す(動詞の過去形2/応用)	李(イ)	
第9回	電話番号を尋ねる	李(イ)	
第10回	状態や気持ちを表す(形容詞編1)	李(イ)	
第11回	相手の気持ちを尋ねる(形容詞編2)	李(イ)	
第12回	不規則形容詞と否定形(形容詞編3)	李(イ)	
第13回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形1/文法)	李(イ)	
第14回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形2/応用)	李(イ)	
第15回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形3/練習)	李(イ)	
事前・事後学習	・テキストを事前に読んでおくこと。・各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。 ・5回おきに小テストを行うので復習をすること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日14:30~14:40、16:10~16:20(講義室)		
テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』、入佐信宏・金孝珍 共著、白帝社、2015年、2,300円(税抜き)、ISBN978-4-86398-181-2C3087		
参考文献等	改訂版ハングル能力検定試験5級合格をめざして、李昌烈 著、白帝社、2012年、ISBN978-4-89174-812-8		
成績評価基準	自分や家族の名前、物事の特徴や好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて表現することができたものは合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)		
GPA基準			
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。		

科目名	韓国語演習Ⅱ		
担当者	姜 美貞		
授業形式	演習	科目ナンバー	24
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			
授業の概要	韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。各課の本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。		
授業の到達目標	1. 韓国語の基礎文法を応用することができる。 2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる。 3. 会話練習を通じてコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業計画		担当者	
第1回	習慣について尋ねる(動詞編1/文法)	姜	
第2回	習慣について尋ねる(動詞編2/応用)	姜	
第3回	予定について尋ねる(動詞編3/文法)	姜	
第4回	予定について尋ねる(動詞編4/応用)	姜	
第5回	時間を表す(固有数字)	姜	
第6回	位置を表す(方向)	姜	
第7回	過去の行動について表す(動詞の過去形1/文法)	姜	
第8回	過去の行動について表す(動詞の過去形2/応用)	姜	
第9回	電話番号を尋ねる	姜	
第10回	状態や気持ちを表す(形容詞編1)	姜	
第11回	相手の気持ちを尋ねる(形容詞編2)	姜	
第12回	不規則形容詞と否定形(形容詞編3)	姜	
第13回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形1/文法)	姜	
第14回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形2/応用)	姜	
第15回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形3/練習)	姜	
事前・事後学習	・テキストを事前に読んでおくこと。・各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。 ・5回おきに小テストを行うので復習をすること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日14:30～14:40、16:10～16:20(講義室)		
テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』、入佐信宏・金孝珍 共著、白帝社、2015年、2,300円(税抜き)、ISBN978-4-86398-181-2C3087		
参考文献等	改訂版ハングル能力検定試験5級合格をめざして、李昌烈 著、白帝社、2012年、ISBN978-4-89174-812-8		
成績評価基準	自分や家族の名前、物事の特徴や好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて表現することができたものは合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)		
GPA基準			
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。		

科目名	日本語演習Ⅱ		
担当者	岩切 朋彦		
授業形式	演習	科目ナンバー	25
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			
授業の概要	この授業では、前期の「日本語演習Ⅰ」で勉強した文型よりも、少し難しい文型を勉強します。N1レベルの文型もたくさん勉強します。また、それぞれの学科に必要な語いに分けて勉強します。漢字もさらにたくさん読めるようにします。		
授業の到達目標	1、N1～N2レベルの日本語の文型をさらに勉強し、使えるようになる 2、短期大学の授業で使われる語いをさらにおぼえ、理解できるようになる 3、読める漢字の量をさらにふやす		
授業計画			担当者
第1回	夏休みにしたことについて、発表します		岩切
第2回	例示 文型：～といった・～にせよ～にせよ～であれ～であれ 語いと漢字①		岩切
第3回	程度の強調 文型：～てこそ・～までして・～すら・～極まる 語いと漢字②		岩切
第4回	話題 文型：～といえば・～といったら・～のこととなると 語いと漢字③		岩切
第5回	逆接・譲歩 文型：～つつも・～にもかかわらず・～にせよ・～とはいえ 語いと漢字④		岩切
第6回	原因・理由 文型：～ものだから・～ばかりに・～につき 語いと漢字⑤		岩切
第7回	仮定条件・確定条件 文型：～ないことには・～ないかぎり・～なくして(は) 語いと漢字⑥		岩切
第8回	中間テスト		岩切
第9回	逆接仮定条件 文型：～にしても・～にせよ・～であろうと・～ようが～まいが 語いと漢字⑦		岩切
第10回	不可能・可能・困難・容易 文型：～がたい・～かねる・～にたえる・～にたえない 語いと漢字⑧		岩切
第11回	傾向・状態・様子 文型：～っぽい・～気味・～きらいがある・～まみれ 語いと漢字⑨		岩切
第12回	経過・結末 文型：～あげく・～末(に)・～に至って(は) 語いと漢字⑩		岩切
第13回	否定・部分否定 文型：～ことなく・～ことなしに・～までもなく 語いと漢字⑪		岩切
第14回	伝聞・推量 文型：～ということだ・～とのことだ・～とか 語いと漢字⑫		岩切
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます		岩切
事前・事後学習	・勉強した表現を、ほかの授業でたくさん使ってください ・アルバイトなど、学校の時間じゃないときにも、よく漢字を読んでください		
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します		
質問・相談方法	授業中に質問してもいいですし、オフィスアワーの時間に研究室(西館407)に来てもいいです		
オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 研究室(西館407号室)		
テキスト	特になし(プリントを配ります)		
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子ほか著 株式会社アルク 2013年 2500円		
成績評価基準	勉強した文型や語いのが使えるようになったかどうかを評価の基準にします		
成績評価の方法	授業態度(20%)、 中間テスト(40%)、 課題レポート(40%)		
GPA基準			
備考	受講対象者 留学生のみ		

1 年 次

専 門 科 目

科目名	音楽		
担当者	新村 元植、中村 礼香		
授業形式	演習	科目ナンバー	26
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数(新村およびピアノ講師10名)
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	<p>クラスを前半と後半に分け、各45分で以下の演習をする。「ピアノ弾き歌い技術および基礎的音楽理論の演習」(45分) ①グループ2名が歌唱援助者と伴奏者を分担する。②歌唱指導等の総合的な音楽援助について演習する。③歌唱指導等の演奏に必要な知識や理論について演習する。「ピアノレッスンを通して、ピアノ奏法の基礎的能力を演習する」(45分) ①各自の演奏レベルに応じたピアノ曲の個人レッスンを演習する。②ピアノ課題曲等を弾き歌いする能力を習得する。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽科教育に必要な歌唱援助および歌唱指導ができる ・基礎的音楽理論、ピアノ演奏技術を演習し理解することができる ・教育者としての基礎的な音楽に関する保育技能を高めることができる 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション 音楽理論(譜表、幹音名ほか) ピアノ(クラス分け)		A・B
第2回	音楽理論(派生音名、変化記号ほか) ピアノ テキストP29 1・2・3・4・5 (B3・4・5・6・7)		A・B
第3回	音楽理論(音符、休符等の音楽記号) ピアノ テキストP30 6・7番 (B44・11) こいぬのマーチ		A・B
第4回	音楽理論(拍子記号、小節等の音楽記号) ピアノ テキストP30・31 8・9番(B19・16) 手をたたきましょう		A・B
第5回	幼児に対する音楽的指導(幼稚園指導要領および小学校学習指導要領音楽科のねらい)ピアノ テキストP31 10番(B29)		A・B
第6回	音楽理論(幹音の音程) ピアノ テキストP34 15番(B48) きらきら星		A・B
第7回	音楽理論(派生音の音程) ピアノ テキストP35 16番(B59)		A・B
第8回	幼児および児童に対する音楽的援助(音楽的な表現) ピアノ テキストP36 17番(B66)		A・B
第9回	音楽理論(長音階の構造と作成) ピアノ 八長調スケール(テキストP40) お弁当(コード伴奏・うたとあそび伴奏)		A・B
第10回	音楽理論(長音階の構造と作成2) ピアノ ト長調スケール(テキストP45) うみ(テキストP55、コード伴奏)		A・B
第11回	幼児対および児童に対する音楽的援助(幼児および児童の音楽的能力の発達) ピアノ さよならのうた		A・B
第12回	音楽理論(関係調) ピアノ テキストP47 34番(B78)		A・B
第13回	音楽理論(関係調2) ピアノ おかえりのうた		A・B
第14回	音楽理論(総合的知識のまとめ) ピアノ 実習曲		A・B
第15回	総合的演習(保育、教育に必要な基礎的音楽知識のまとめ) ピアノ 試験曲および未履修曲		A・B
事前・事後学習	ピアノ曲等の事前練習		
課題に対するフィードバックの方法	定期試験や歌唱指導等の課題について、個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 10:00~15:00 研究室(本館603号室)		
テキスト	『うたとあそび』鹿児島私立幼稚園協会 共同音楽出版 2019 価格2000円(税抜き)『ピアノテキスト』全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円(税抜き)ISBN978-4-7609-0338-2 『ピアノ教則本』(バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等、各自のレベルに応じて)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	以下の事柄について達成できたものは合格とする。・課題曲の歌唱演習が適切に実施できたもの・基礎的音楽理論を理解し、期末試験に合格したもの・ピアノ課題幼児曲が個人レッスンで合格し、期末実技試験で適切に演奏できたもの		
成績評価の方法	音楽理論筆記試験(45%)、ピアノ実技試験(45%)、平常点(10%) :受講態度、ピアノ進度		
GPA基準			
備考	授業計画の課題曲が終了しないとピアノ実技期末試験は受験できない A 新村 B ピアノ指導 中村・窪田・蛭川・濱崎・村原・桃坂		

科目名	図画工作		
担当者	井上 周一郎、松下 茉莉香		
授業形式	演習	科目ナンバー	27
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校図画工作科の内容を中心に、その意義と指導法について講義する。幅広い課題製作に取り組むことで、造形表現の豊かさを実感できるよう促し、手を通して思考することの大切さを伝える。また、感性や創造性を育むための授業づくり(教材研究・活動設定・導入など)について解説し、現場での実践力を高める。		
授業の到達目標	1.「造形遊び」「絵や立体・工作に表す」の知識や技能を習得できる 2. 課題製作を通して、造形表現の豊かさを味わい、手を通して思考することの大切さを理解できる 3. 感性や創造性を育むための適切な授業づくりについて説明できる		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(授業の内容、美術館での鑑賞学習について)		A・B
第2回	美術の誕生と歴史について		A
第3回	児童期の造形教育について		A
第4回	モノとの出会いを楽しむ ～スライムで感性を育む～		A
第5回	感触遊びと造形遊びについて		A
第6回	“ 飛ぶ、回る、走る ”を造形で楽しむ		A
第7回	材料や技法との出会いを楽しむⅠ ～折紙で切り紙の製作～		A
第8回	材料や技法との出会いを楽しむⅡ ～切り紙で発想力を養う～		A
第9回	材料や技法との出会いを楽しむⅢ ～切り紙で画面構成や天井飾り作り～		A
第10回	児童期の造形活動と発達について		A
第11回	創造性を育むⅠ ～粘土製作の心棒づくり～		A
第12回	創造性を育むⅡ ～粘土製作の荒付け～		A
第13回	創造性を育むⅢ ～粘土製作の仕上げ～		A
第14回	「絵や立体・工作に表す」活動についての教材研究		A
第15回	感性や創造性を育む授業づくりの在り方		A
事前・事後学習	事前学習・・・意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと 事後学習・・・課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	井上:金曜日 16:25～17:55 研究室(本館609号室) 松下:月曜日 16:25～17:55 研究室(本館602号室)		
テキスト	『造形表現・図画工作』 編著 磯部錦司 建帛社 2018年3月1日 2400円 (ISBN 978-4-7679-5076-1)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること		
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)、作品評価(30%)、鑑賞学習のレポート(10%)、定期試験(40%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考	A:井上 B:松下		

科目名	社会科指導法		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	演習	科目ナンバー	28
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、社会科の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は模擬授業の作成・実施・討論・振り返りをおとして、社会科の実践力を高める。		
授業の到達目標	社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された社会科の学習内容について理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業計画			担当者
第1回	イントロダクション(本授業の目的説明、学生の社会科教育体験の振り返り)		松崎
第2回	中学年(主に第3学年)の目標及び内容と指導上の留意点		松崎
第3回	中学年(主に第4学年)の目標及び内容と指導上の留意点		松崎
第4回	第5学年の目標及び内容と指導上の留意点		松崎
第5回	第6学年の目標及び内容と指導上の留意点		松崎
第6回	社会科の学習評価の考え方		松崎
第7回	背景となる社会諸科学を踏まえた教材研究の在り方		松崎
第8回	子どもや学校、地域の実態を視野に入れた授業設計		松崎
第9回	社会科における情報機器及び教材の効果的な活用		松崎
第10回	模擬授業テーマに向けた授業設計及び学習指導案の作成		松崎
第11回	中学年(主に第3学年)の内容の模擬授業の実施と振り返り		松崎
第12回	中学年(主に第4学年)の内容の模擬授業の実施と振り返り		松崎
第13回	第5学年の内容の模擬授業の実施と振り返り		松崎
第14回	第6学年の内容の模擬授業の実施と振り返り		松崎
第15回	小学校社会科教育の全体目標を踏まえた総括		松崎
事前・事後学習	事前学習:指導要領解説にあらかじめ目を通しておく。模擬授業についてグループのメンバーと協議しながら準備する。事後学習:模擬授業に向けて授業前半部分の復習をする。模擬授業についての自己評価を行う。		
課題に対するフィードバックの方法	模擬授業については松崎より指導助言を行う。その他、課題を課した場合は求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 14:20~16:30 研究室(西館411号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』文部科学省 日本文教出版 2018年 142円(税抜き) (ISBN978-4-536-59009-9)		
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育3 初等社会科教育』井田仁康・唐木清志編著 ミネルヴァ書房 2018年 ほか		
成績評価基準	・社会科の基本的な目的や内容を理解すること。・社会科の授業を設計・実行する基本的な能力を有すること。		
成績評価の方法	定期試験80% 模擬授業20%		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目、他学科開放科目		

科目名	算数科指導法		
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	科目ナンバー	29
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	算数科教育の目標を、通時的に俯瞰するとともに、学習指導要領における学習内容を把握し、その上で学習指導における実践的な力を養うべく、理論と実践を結びつけながら、授業実践や評価の方法を学ぶ。		
授業の到達目標	算数科における教育目標、児童が獲得すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について、その背景にある数学の学問性や文化性と関連付けながら理解を深め、様々な教材観や教育方法観を踏まえて授業場面を見据えた授業設計を行う力量を育成する。		
授業計画			担当者
第1回	算数科教育の目標と学習内容の系統性		内田
第2回	学習指導要領の変遷とその要因		内田
第3回	算数科教育の学習内容と数学的背景1－数と計算		内田
第4回	算数科教育の学習内容と数学的背景2－図形		内田
第5回	算数科教育の学習内容と数学的背景3－測定および変化と関係		内田
第6回	算数科教育の学習内容と数学的背景4－データの活用		内田
第7回	算数科学習指導の基礎1－様々な教育観と学習理論		内田
第8回	算数科学習指導の基礎2－各領域における算数的活動		内田
第9回	算数科学習指導の基礎3－教材開発と授業の工夫		内田
第10回	算数科学習指導の基礎4－評価の観点と評価法		内田
第11回	算数科授業実践1－指導案の構造と作製法		内田
第12回	算数科授業実践2－模擬授業とその検討		内田
第13回	算数科授業実践3－ICTを活用した授業実践例		内田
第14回	算数科授業開発－21世紀型能力を踏まえた数学的活動の発展性		内田
第15回	算数科と他教科、他校種との連続性と可能性		内田
事前・事後学習	各時間に本時の復習課題と次時の予告をする		
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートにコメントを記入し返却する。また授業中にクラス全内に対するコメントをする		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00(西館412号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省 2017年 (ISBN978-4536590102) 文部科学省 242円		
参考文献等	『小学校教師のための算数と数学15講』溝口達也編 ミネルヴァ書房 2019年 (ISBN978-4624084289) 2376円		
成績評価基準	算数科教育に関して、単元の知識理解度合い、教授の方法修得状況、そして模擬授業の実践力、評価の方法の理解の4点に関して評価する		
成績評価の方法	定期試験(60%)、模擬授業の発表内容(20%)、小レポート(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	幼児と健康		
担当者	大村 一光、宇都 弘美		
授業形式	演習	科目ナンバー	30
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	保育所保育指針及び幼稚園教育要領に示す5領域「健康」の位置づけをもとに、遊びを通じた学習の重要性を理解する。また子どもの健康に関する現代的課題が、身体、心、運動など広範囲にわたることを理解し、健康教育のあり方について学ぶ。		
授業の到達目標	1 子どもの健康問題に関する現代的課題について学習し、教育現場の実情を理解する 2 乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など幼児の基本的な理解ができるようになる 3 子どもの健康に関するさまざまな知識を身につけ、子どもとの積極的関わりができるようになる		
授業計画			担当者
第1回	領域「健康」の位置づけ 幼稚園教育要領における「健康」内容の理解		大村
第2回	子どもの健康問題に関する現代的課題(主として体の発達、生活習慣を中心に)		大村
第3回	子どもの健康問題に関する現代的課題(主として運動発達と基礎的運動能力を中心に)		大村
第4回	子どもの遊びの発展にみる心や社会性の発達(映像資料などを利用する)		大村
第5回	遊びの分類とその特徴(学生自身の幼児期における遊びの振り返り)		大村
第6回	生活活動における安全の理解(園内生活や活動における安全管理)		大村
第7回	幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解する		宇都
第8回	学習指導案にみる「健康」教育の在り方について		大村
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	保護者や祖父母などへの聞き取りなど、必要に応じて指示する2~3回おきに小レポートを課す場合がある		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	大村: 水曜日~金曜日 12:10~12:55 研究室(体育館101号室) 宇都: 水・金曜日 16:30以降(西館311号室)		
テキスト	「幼稚園教育要領ハンドブック」、無藤隆監修、Gakken、2017、1,600、ISBN978-4-05-800810-2 「保育所保育指針ハンドブック」、汐見稔幸監修、Gakken、2017、1、700、ISBN978-4-05-800806-6 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック」、無藤隆監修、Gakken、2017、1、700、ISBN978-4-05-800811-9		
参考文献等	「すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び」、井上勝子編、建帛社、2011、2,300		
成績評価基準	子どもの健康問題に関する現代的課題及び教育現場の実情を理解する 乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など理解する		
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業での小テスト(30%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	幼児と言葉		
担当者	藤川 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	31
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について乳幼児の言葉の発達過程について学ぶ。また、幼児にとっての児童文化財についての基礎的な知識を身につけその意義を学ぶとともに、言葉に対する感覚を豊かにする実践における幼児の発達の姿についての見方を養う。		
授業の到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要とされる、乳幼児の言葉の発達過程を踏まえた言葉の意義や機能、児童文化財の意義、言語感覚を豊かにする実践に関する知識を身につける。		
授業計画			担当者
第1回	言葉の意義と機能ーコミュニケーション場面の分析を通してー		藤川
第2回	乳幼児期の言葉の発達過程ー誕生から書き言葉(文字)習得までー		藤川
第3回	幼児の言葉に関する感覚ー幼児の言い間違いを入り口にして		藤川
第4回	言葉遊びの実際ー言葉や音そのもののリズム言葉遊びー		藤川
第5回	言葉遊びの実際ー言葉の意味や使い方、文字への興味・関心を高める遊びー		藤川
第6回	絵本の鑑賞と理解ー作者の仕掛けとその効果の紹介ー		藤川
第7回	絵本以外の児童文化材の実際ー種類や保育実践の紹介ー		藤川
第8回	絵本の読み聞かせ活動の交流(模擬保育)		藤川
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	・テレビ絵本(Eテレ(教育)月～金曜日 午前 8時50分～8時55分)の番組を視聴する。あるいは、放送リストにある絵本を参考に週に1冊以上を読む。・日常生活の中で見聞きする言葉の中から面白い使い方や気になる言葉の用い方をするもの探し、収集する。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 10:40～12:30(西館405)		
テキスト	『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館 ¥240 (ISBN-10: 4577814471)		
参考文献等	『ちいさい言語学者の冒険 子どもに学ぶことばの秘密』 広瀬友紀 岩波書店 2017 ¥1,200 (ISBN-10: 4000296590) 『絵本のひみつ』 余郷裕次 徳島新聞社 2010 ¥1,000 (ISBN-10: 4861324319) 『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 2018 ¥320 (ISBN-10: 457781448X) 『幼児連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省、内閣府、厚生労働省 ¥350 フレーベル館 (ISBN-10: 4577814498)		
成績評価基準	乳幼児の言葉の発達過程を踏まえた言葉の意義や機能、児童文化財の意義、言語感覚を豊かにする実践に関する知識を身につけること。		
成績評価の方法	毎時間の授業感想ミニレポート(15%)、レポート(読み聞かせ活動の振り返り)(45%) 読み聞かせの発表内容(20%)、言葉遊びの発表内容(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	幼児と表現		
担当者	松下 茉莉香、中村 礼香、小松 恵理子		
授業形式	演習	科目ナンバー	32
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修: 幼教免・保育士証		
授業の概要	<p>幼児の遊びや生活に見られる素朴で多様な表現とその過程について、事例を基に具体的に理解し、それらを支える身体・造形・音楽表現と、それらを含めた総合的な表現について子どもの発達を中心とした基礎知識や技能を、多様な実践や考察を通して高められるよう講義する。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 領域「表現」の指導に関する、幼児の姿やその発達及びそれを促す要因について理解する。 2. 幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや、環境の構成などについての知識・技能・表現力を身につける。</p>		
授業計画			担当者
第1回	幼児の遊びや生活における表現について		中村
第2回	幼児の表現と発達について		松下
第3回	身近な素材を用いた音楽表現活動について学ぶ		中村
第4回	リズムックについて学ぶ		中村
第5回	わらべうた・伝承遊びについて学ぶ		中村
第6回	幼児の音楽表現活動について学ぶー実践VTRからー		中村
第7回	幼児の造形活動の特性について学ぶー視聴覚教材からー		松下
第8回	五感を養う感触遊びについての実践と考察		松下
第9回	身近な素材や絵の具を用いた多様な造形表現活動について学ぶ		松下
第10回	パネルシアター・ペープサートについて学ぶー実践VTRからー		松下
第11回	身体表現の生成過程について学ぶー視聴覚教材からー		小松
第12回	幼児の身体表現活動の特性について学ぶ		小松
第13回	身近な生活や素材から身体表現への展開を学ぶ		小松
第14回	身近な自然や文化的活動から身体表現への展開を学ぶ		小松
第15回	総合的な表現活動について		松下・中村・小松
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習・・・シラバスを確認し授業の見通しを立てておく。 ・事後学習・・・各時間に習得した内容について復習、整理する。 ・日頃から新聞や書籍等で幼児期の音楽・造形・身体表現に関する内容についての情報収集を積極的に行う。 		
課題に対するフィードバックの方法	課題が課された際は、求めに応じて個別に指導または授業内で課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	松下: 月曜日 16:25~17:55 研究室(本館602号室)、中村: 火曜日 14:40~16:10 研究室(本館601号室)、小松: 水曜日 12:10~12:50 非常勤講師室(本館104号室)		
テキスト	<p>※平成31年4月時点で最新のものを使用 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省) ※造形に関する講義では、テキストとして『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 平成30年11月9日 2400円 (ISBN 978-4-89347-311-0)も用います。</p>		
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価基準	多様な実践や考察を通して子どもの発達を中心とした基礎知識を理解し、表現に関する技能を高められたか。		
成績評価の方法	最終レポート各分野20%(60%) 課題提出・発表等各分野10%(30%) 授業中の討議・発表への参加態度(10%)		
GPA基準			
備考			

科目名	保育内容(言葉)の指導法		
担当者	平嶋 慶子		
授業形式	演習	科目ナンバー	33
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	幼稚園教育要領・幼保連携認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針における保育内容・領域の概念と領域「言葉」についての学びをベースに、模擬保育(グループごとの実技発表)を通して、児童文化財を用いた遊びや、保育者と幼児の関わりや援助・指導の方法を身につける。		
授業の到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容を学び、幼児の心身の発達や学びの過程を理解する。領域「言葉」に関連する具体的な保育場面を想定した指導や保育活動を構想する方法や、(言葉)に係る保育技術の一端を習得する。		
授業計画			担当者
第1回	就学前教育・保育と幼稚園・保育所: 幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解(保育内容と領域について)	平嶋	
第2回	保育内容「言葉」のねらいと内容について	平嶋	
第3回	乳幼児の心身の発達、特に言語発達と遊びの関係・重要性について	平嶋	
第4回	児童文化財と保育教材・保育技術について	平嶋	
第5回	保育と乳幼児の遊び: 保育指導案の作成について	平嶋	
第6回	乳幼児期の言葉の発達	平嶋	
第7回	遊びの発達とごっこ遊びの重要性	平嶋	
第8回	生活と遊びの中での幼児同士の関わり・模擬保育と振り返り①	平嶋	
第9回	文字や数字、記号などへの幼児の興味、関心・模擬保育と振り返り②	平嶋	
第10回	発達のつまずきや遅れのある幼児への配慮・模擬保育と振り返り③	平嶋	
第11回	保育者と幼児がつくるより良い環境とは・模擬保育と振り返り④	平嶋	
第12回	模擬保育の自己評価と他発表についての評価の検討	平嶋	
第13回	情報機器・情報端末の有用性や危険性と子どもの発達の関係・保育の場での活用法	平嶋	
第14回	保育における領域「言葉」の評価について	平嶋	
第15回	乳幼児の保育・教育における保育内容(言葉)と小学校「国語」との連関及び保育者の役割について	平嶋	
事前・事後学習	模擬保育発表のための小グループごとにお話しや指遊び・手遊びその他を調べて、発表内容を決める。発表後はレポートを作成することによって自分の発表や他発表を振り返る。		
課題に対するフィードバックの方法	模擬保育発表の後に、パフォーマンスやレジュメ内容についてフィードバックする。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワー、SMにて応じます。		
オフィスアワー	月・水・金曜の16:10~17:00 研究室(西館416号室)		
テキスト	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 『新 保育内容シリーズ[新訂] 子どもと言葉』 岡田明編 2016 萌文書林 1600円 978-4-89347-067-6 C 3037		
参考文献等	『絵本のひみつ』 余郷裕二 著 南日本新聞社 2010 など適宜授業中に紹介する		
成績評価基準	幼児の発達と保育の関係を理解した上で模擬保育を計画することができ、模擬保育発表後に自分の発表及び他の発表を評価(レポート作成)したものは合格とする。		
成績評価の方法	①模擬保育(30%)②発表資料の作成(20%)③レポート提出(模擬保育の最終発表終了後に作成する。30%)④授業中の討議・発表への参加態度(20%) ただし①②③の一つでも欠けると評価しない。		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	保育原理		
担当者	丸田 愛子		
授業形式	講義	科目ナンバー	34
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	「保育」の役割や施設保育の目的を理解し、保育の思想や歴史や制度を踏まえた上で現代保育の課題解決について学ぶ。保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭の専門性について講義する。		
授業の到達目標	1. 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2. 教育を成り立たせる子ども、教員及び家族等の相互関係を理解している。 3. 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション		丸田
第2回	「保育」の概念と意義について、養護と保育及び子どもの最善の利益の観点から学ぶ		丸田
第3回	保育所・幼稚園・認定こども園の施設保育の目的を理解する		丸田
第4回	養護と保育の一体性について学び、子どもの生活と遊び(活動)について考える		丸田
第5回	子育て支援及び地域貢献を理解し、教育・保育における相互関係について学ぶ		丸田
第6回	保育内容5領域を学び、総合的な教育・保育の在り方について検討する		丸田
第7回	発達過程をもとに、特別な支援を要する乳幼児を含め一人ひとりに応じた保育援助の方法を学ぶ		丸田
第8回	教育・保育に関する計画を理解し、ICTを用いて立案する能力を養う		丸田
第9回	教育・保育に関する評価を理解し、保育者の資質向上について考える		丸田
第10回	保育に関する計画のグループ発表及び中間まとめに取り組む		丸田
第11回	保育の歴史について基本的な知識を身につける		丸田
第12回	保育の歴史について過去から現代に至るまでの変遷について捉える		丸田
第13回	近代社会以降の教育・保育制度及び思想を学び、現代保育の課題を解決する能力を養う		丸田
第14回	現代社会以降の教育・保育制度を学び、現代保育の課題を解決する能力を養う		丸田
第15回	現代社会の教育・保育制度を理解し、自らの生活で活用する方法を考える		丸田
事前・事後学習	事前学習: 配布プリントは、資料として各自整理し学習内容を予習すること 事後学習: 学習内容を復習し、不明な点を残さないようにすること		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れる。個別に指導添削をする。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する		
オフィスアワー	丸田: 火曜日・水曜日 16:30~18:00 研究室(西館403号室)		
テキスト	・『保育の実践・原理・内容 第3版』無藤隆 編 ミネルヴァ書房 2016年 2,400円(税抜き)ISBN978-4-623-06648-3 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 平成30年 320円(税抜き)ISBN978-4-577-81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 平成30年 350円(税抜き)ISBN978-4-577-81449-9 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 平成30年 240円(税抜き)ISBN978-4-577-81447-5		
参考文献等	『保育所保育指針ハンドブック』監修汐見稔幸 学研教育みらい 2017 1,700円(税抜き)ISBN978-4058008096		
成績評価基準	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解すること		
成績評価の方法	受講態度及び課題の提出状況(20%)及び定期試験(80%)による総合評価とする		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	教職概論		
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	科目ナンバー	35
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	教員を社会的、歴史的、法的、倫理的に学ぶことを通して、教職を目指す者として知識面や人格面で今後何が必要であるのかを、自分自身を吟味しながら深めていく内容を提供する。		
授業の到達目標	現代における教員の活動は多岐にわたり、しかも極めて重要である。本講義では、教職の意義、教員の役割、教員の資質について考え、学生自らが教員としての適性を吟味し、また深める機会とする。		
授業計画			担当者
第1回	なぜ家庭でなく学校、親でなく教員なのか？—学校と教員の存在意義		山元
第2回	教職の職業的特徴と使命—教育の専門家にして全体的人間としての教員		山元
第3回	自分自身を知ること—「子どもは教員の鏡」		山元
第4回	現代の社会と教育の動き—『教育要領』、『指導要領』からの読解と教員に求められる事柄		山元
第5回	幼稚園教諭の職務内容と求められる資質		山元
第6回	小学校教諭の職務内容と求められる資質		山元
第7回	学校内での連携—教員間の連携、養護教諭や栄養教諭との連携(学校等のチーム化)		山元
第8回	小幼連携、小中連携、小保連携、地域との連携—学校等のチーム化(その2)		山元
第9回	子どもの理解を深め、教育力を上げるにはどうするか？—職員研修、生涯に渡る学習の必要性		山元
第10回	教育法規①—教育基本法		山元
第11回	教育法規②—学校教育法、学校教育法施行規則等		山元
第12回	服務規律・守秘義務について		山元
第13回	教育観・教師観の歴史的変遷と現代		山元
第14回	どんな子どもを育てたいか、どんなクラスを作りたいか？		山元
第15回	自分自身に即した教師像を求めて—教育の目的と教員の資質		山元
事前・事後学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。また、事後学習については講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。		
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00(西4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)。		
テキスト	『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』(文部科学省編)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	提出されたレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。		
成績評価の方法	最終レポート(100%)		
GPA基準			
備考			

科目名	教育制度論		
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	科目ナンバー	36
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公教育の位相は時代・社会とともに変化するという事実を、戦前戦後のわが国統治構造および公教育関係法令との対比において検証する。 ・立憲主義理念に依拠した現代公教育の規範的特質を抽出するとともに、時事的教育問題を適宜取上げ、今日の公教育に求められる機能・役割を考察する。 		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代公教育成立の社会背景を知り、その基本的枠組みについて理解している。 ・現行日本国憲法下の公教育制度の特質を、関係主要法令に基づき説明することができる。 ・公教育が直面する諸課題を認識し、課題解決に資する方策提示への視点がえられている。 		
授業計画			担当者
第1回	公教育の成立－諸外国の事例－		池田
第2回	わが国公教育の創出－明治前期の学校教育－		池田
第3回	教育勅語体制－戦前日本の公教育像－		池田
第4回	日本国憲法と教育基本法		池田
第5回	改正教育基本法(1)－改正の社会的・政治的背景－		池田
第6回	改正教育基本法(2)－その特徴と課題－		池田
第7回	学校制度の基本－学校教育法を軸に－		池田
第8回	教員養成および教員研修制度－教育職員免許法・教育公務員特例法を軸に－		池田
第9回	初等中等教育行政と教育委員会制度－地教行法を軸に－		池田
第10回	教育政策の決定過程－政党政治と文科省－		池田
第11回	学校と地域社会－近年の動静と連携制度－		池田
第12回	学校事故・事件の実相		池田
第13回	学校危機管理への視座－関連法制および取組の実際－		池田
第14回	現代公教育の課題(1)－「特別の教科」道徳の教授法・伝統日本文化教育私論－		池田
第15回	現代公教育の課題(2)－主権者教育の方向性－		池田
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。 ・授業中・後に提示された課題研究に取り組むこと。 		
課題に対するフィードバックの方法	課題にたいする参考答案例の配布・解説をとおり、知識・理解の整理を図る。		
質問・相談方法	授業時間の前後またはオフィスアワーにおいて受付ける。		
オフィスアワー	原則として月曜日 16:30～17:30 (研究室414)		
テキスト	『教育の本質と教師の学び』池田哲之ほか著 学文社 2019年 (ISBN 978-4-7620-2852-6)		
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・『教育から見る日本の社会と歴史』八千代出版 2010年 ・『日本人のしつけは衰退したか』講談社 2008年 		
成績評価基準	公教育の本質を的確に理解し、今日の学校教育をめぐる諸課題解決の方策を提示することができる。		
成績評価の方法	定期試験(90%)、受講意欲・態度等(10%)。なお再試は1回にかぎり実施する。		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目、上記記載の各内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。学生証不携帯による出席確認未了者は欠席扱いとします。		

科目名	教育心理学		
担当者	本田 和也		
授業形式	講義	科目ナンバー	37
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー		
授業の概要	<p>幼児、児童、生徒の心身の発達過程に関する代表的な理論を理解し、乳幼児期から青年期における発達の諸側面を知ること、教育における発達の理解を身に付ける。また、学習に関する基礎知識を身に付け、発達の視点をもって学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。さらに、授業は課題についての討議、グループワーク、発表などを行うとともに、情報機器の活用方法を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。 2. 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援する基礎となる考え方を理解する。</p>		
授業計画			担当者
第1回	発達に及ぼす遺伝と環境に関する考え方(初期学習を含む)を理解するとともに、発達の意味を理解する	本田	
第2回	発達に関する代表的な理論を理解する1(エリクソン、ハビガースト)	本田	
第3回	発達に関する代表的な理論を理解する2(ピアジェ)	本田	
第4回	乳児の発達の特徴を理解する	本田	
第5回	幼児の発達の特徴を理解する	本田	
第6回	児童期の発達の特徴を理解する	本田	
第7回	青年期の発達の特徴を理解する	本田	
第8回	学習意欲に関する動機づけの理論を理解する(生理的動機と社会的動機、内発的動機と外発的動機)	本田	
第9回	学習意欲に影響する理論(原因帰属、学習性無力感など)を理解する	本田	
第10回	学習理論を理解する(条件づけ理論、モデリング、認知理論)	本田	
第11回	条件づけ理論やモデリング理論を現実の学習場面で理解する	本田	
第12回	学習指導法の代表的な方法について理解する(知識や理解、メタ認知などの理論を含む)	本田	
第13回	主体的な学習(アクティブラーニング)を促すための学習指導法を理解する	本田	
第14回	学習を促す教育評価について理解する	本田	
第15回	学級集団作りと学級経営について理解する	本田	
事前・事後学習	事前指導…事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 事後指導…授業時に配布したプリントを復習しておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日16:30~18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	黒田祐二 実践につながる教育心理学 北樹出版 2012 (978-4779303258)		
参考文献等	教育心理学の最前線(荒木紀幸著、あいり出版) 問いから始める発達心理学(坂上 裕子著、有斐閣)		
成績評価基準	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解すること 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援する基礎となる考え方を理解すること		
成績評価の方法	定期試験(80%)、3回実施するレポート等課題の提出(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目、他学科開放科目		

科目名	保育の方法・技術		
担当者	本田 和也		
授業形式	講義	科目ナンバー	38
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	幼児期に育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域について、ねらいと内容を専門的領域と関連させて理解するとともに、具体的な指導をするための方法や技術を身に付ける。		
授業の到達目標	1. 幼稚園教育・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育・保育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解し、幼児期における育みたい資質・能力との関連が分かる 2. 幼児の主体的・対話的で深い学びを促す具体的な保育指導方法を身に付ける。		
授業計画			担当者
第1回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育要領の全体構造を把握する	本田	
第2回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の保育の基本を理解し、各領域の保育内容について理解する	本田	
第3回	各領域の指導内容を理解し、指導上の留意点を理解する(幼稚園)	本田	
第4回	乳児を含めた指導内容を理解し、指導上の留意点を理解する(保育所・幼保連携型認定こども園)	本田	
第5回	保育・教育の評価について理解する	本田	
第6回	領域ごとに身に付けていく内容と小学校の教科とのつながりについて理解する	本田	
第7回	乳幼児期における学びの特性について理解する	本田	
第8回	乳幼児期にふさわしい学びの方法を理解し、保育を構想する重要性を理解する	本田	
第9回	情報機器を活用し保育に生かすことができる	本田	
第10回	指導案の構造を理解する	本田	
第11回	具体的な保育を想定し、指導案を作成することができる	本田	
第12回	指導案における教師の援助について理解を深め、具体的に考えることができる	本田	
第13回	模擬保育を行い、保育を実践する力を身に付ける	本田	
第14回	模擬保育の振り返りを通して、保育の問題点を挙げて、改善すべき点が見える	本田	
第15回	保育の実践記録をから、保育の構想の向上に取り組むことができる	本田	
事前・事後学習	事後指導…授業時に配布したプリントを復習しておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合に応じて、個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館 2018年 346円 (978-4577814482) 幼稚園教育要領 文部科学省 フレーベル館 2018年 259円 (978-4577814475) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 文部科学省・内閣府・厚生労働省 フレーベル館 2018年 378円 (978-4577814499)		
参考文献等	実習の手引き(鹿児島女子短期大学作成) 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド(小櫃 智子著、わかば社) 子どもの発達と保育の本(湯汲英史著、学研)		
成績評価基準	幼稚園教育・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育・保育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解し、幼児期における育みたい資質・能力との関連が分かること 幼児の主体的・対話的で深い学びを促す具体的な保育指導方法を理解すること		
成績評価の方法	保育案の作成(40%)、2回実施するレポートの提出(30%)、模擬授業の発表(30%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目、他学科開放科目		

科目名	社会福祉		
担当者	赤瀬川 修		
授業形式	講義	科目ナンバー	39
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	社会福祉とは、個人が社会生活をしていく上で生じる障害や困難に対して、社会福祉政策、地域社会、個人などが独自にあるいは相互に協働しながら、これを解決あるいは緩和していくための活動の総体である。本科目では、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、社会福祉の制度や実施体系等、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、及び社会福祉の動向と課題の理解を目指す。□		
授業の到達目標	1. 社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する 2. 社会福祉の制度や実施体系及び社会福祉における相談援助について理解する 3. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する 4. 社会福祉の動向と課題について理解する□		
授業計画			担当者
第1回	社会福祉の理念と概念		赤瀬川
第2回	社会福祉の歴史の変遷		赤瀬川
第3回	子ども家庭支援と社会福祉		赤瀬川
第4回	社会福祉の制度と法体系		赤瀬川
第5回	子ども家庭福祉の制度と法体系		赤瀬川
第6回	社会福祉施設及び社会福祉専門職		赤瀬川
第7回	社会保障及び関連制度の概要		赤瀬川
第8回	相談援助① 理論		赤瀬川
第9回	相談援助② 意義と機能		赤瀬川
第10回	相談援助③ 対象と過程		赤瀬川
第11回	相談援助④ 方法と技術		赤瀬川
第12回	利用者保護に関わる仕組み① 情報提供と第三者評価		赤瀬川
第13回	利用者保護に関わる仕組み② 利用者の権利擁護と苦情解決		赤瀬川
第14回	現代社会の動向と課題① 少子高齢化社会における子育て支援、共生社会の実現		赤瀬川
第15回	現代社会の動向と課題② 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向		赤瀬川
事前・事後学習	・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、障害児・者福祉、子育て、児童虐待、社会保障制度等の現状や課題について調べ、理解を深める		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:25～17:55 研究室(西館409号室)		
テキスト	『社会福祉の基本体系第5版』 井村圭荘ら編 勁草書房 2017年 2000円 (9784326700974)		
参考文献等	『社会福祉小六法2018』 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房 2018年 1600円 (9784623081493) ※最新版を購入すること		
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること。		
成績評価の方法	事前・事後課題(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。		
GPA基準			
備考	COC科目		

科目名	情報機器演習		
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	科目ナンバー	40
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	コンピュータなどICT(情報通信技術)機器によるインターネット利用が広く普及している。さらに、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだり、情報メディアも多様化している。このような現在において、コンピュータやその他のICT機器操作の基礎を身につけ、教育現場でもICT機器を活用できる人を育てる。		
授業の到達目標	1.ICT(情報通信技術)機器の基本的な操作ができるようになる 2.インターネットを利用できるようになる 3.ICT機器を教育現場で活用できるようになる		
授業計画			担当者
第1回	ICTの基本的な操作		渡邊
第2回	コンピュータやインターネットの歴史		渡邊
第3回	ブラウザを使って情報を検索しよう		渡邊
第4回	Wordを使って文書を作ろう		渡邊
第5回	Excelを使って表を作ろう		渡邊
第6回	PowerPointを使ってスライドを作ろう		渡邊
第7回	電子メールを使おう		渡邊
第8回	画像や写真を載せたホームページを作ろう		渡邊
第9回	ホームページを公開しよう、情報モラル教育を知ろう		渡邊
第10回	実物投影機を使ってみよう		渡邊
第11回	タブレットPCを使ってみよう		渡邊
第12回	PowerPointを使って教材を作ろう		渡邊
第13回	最終課題(ICTを活用して教えるプランを立てよう)		渡邊
第14回	最終課題(ICTを活用して教えるプランを立てよう)		渡邊
第15回	最終課題(ICTを活用して教えよう)、まとめ		渡邊
事前・事後学習	・各回の内容について、必要に応じて事前に調べておく。・理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。		
課題に対するフィードバックの方法	・毎回のレポートについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、UNIVERSAL PASSPORTで連絡をしたり、オフィスアワーを利用したりする。		
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、UNIVERSAL PASSPORTの連絡機能で対応する。		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:25～17:55 研究室(西館417号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『30時間でマスター Office2016』実教出版編修部 実教出版 2016年 1000円 ISBN978-4-407-34018-1『保育者のためのパソコン講座』阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文書林 2018年 2000円 ISBN978-4-89347-283-0		
成績評価基準	・ICT機器の基本的な操作やインターネット利用ができること ・ICT機器の教育現場での活用法を考えられること		
成績評価の方法	・毎回のレポート(50%)と最終課題レポート(50%)で総合的に判断する。		
GPA基準			
備考	・単位互換[KRICE]提供科目 ・レポートは、UNIVERSAL PASSPORT の課題提出を用いて提出すること		

科目名	子どもと音楽 I		
担当者	新村 元植		
授業形式	演習	科目ナンバー	41
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	<p>クラスを前半と後半に分け、各45分で以下の演習をする。「幼児曲の弾き歌い技術および基礎的音楽理論の演習」(45分)①グループ2名が歌唱援助者と伴奏者を分担する。②幼児曲の総合的な音楽援助について演習する。③幼児曲演奏に必要な知識や理論について演習する。「ピアノレッスンを通して、ピアノ奏法の基礎的能力を演習する」(45分)①各自の演奏レベルに応じたピアノ曲の個人レッスンを演習する。②幼児曲を弾き歌いする能力を習得する。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育に必要な幼児曲の歌唱援助ができるようになる。 ・基礎的音楽理論を理解することができる。 ・ピアノ課題幼児曲の演奏ができるようになる。 ・保育者としての基礎的な音楽に関する保育技能を高める。 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション 音楽理論(譜表、幹音名ほか) ピアノ クラス分け		A・B
第2回	音楽理論(派生音名、変化記号ほか) ピアノ ピアノ テキストP29 1・2・3・4・5(B3・4・5・6・7)		A・B
第3回	音楽理論(音符、休符等の音楽記号) ピアノ テキストP30 6・7番(B44・11) こいぬのマーチ		A・B
第4回	音楽理論(拍子記号、小節等の音楽記号) ピアノ テキストP30・31(B19・16) 手をたたきましょう		A・B
第5回	幼児に対する音楽的援助1(幼稚園指導要領のねらい) ピアノ テキストP31 10番(B29)		A・B
第6回	音楽理論(幹音の音程) ピアノ テキストP34 15番(B48) きらきら星		A・B
第7回	音楽理論(派生音の音程) ピアノ テキストP35 16番(B59) ぶんぶんぶん		A・B
第8回	幼児に対する音楽的援助2(音楽的な表現) ピアノ テキストP36 17番(B66)		A・B
第9回	音楽理論(長音階の構造と作成) ピアノ ハ長調スケール(テキストP40) ちょうちょう(伴奏付け)		A・B
第10回	音楽理論(長音階の構造と作成2) ピアノ ト長調スケール(テキストP45) みずあそび(伴奏付け)		A・B
第11回	幼児に対する音楽的援助3(幼児の音楽的能力の発達) ピアノ ヘ長調スケール(テキストP48) チューリップ(テキストP48)		A・B
第12回	音楽理論(関係調) ピアノ ニ長調スケール(テキストP50) めだかの学校(P50)		A・B
第13回	音楽理論(関係調2) ピアノ イ短調スケール(テキストP53)		A・B
第14回	音楽理論(総合的知識のまとめ) ピアノ テキストP47 34番(B78) お弁当		A・B
第15回	総合的演習(保育に必要な基礎的音楽知識のまとめ) ピアノ 試験曲および未履修曲		A・B
事前・事後学習	ピアノ曲等の事前練習		
課題に対するフィードバックの方法	定期試験や幼児曲歌唱演習等の課題について、個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 10:00~15:00 研究室(本館603号室)		
テキスト	『うたとあそび』鹿児島私立幼稚園協会 共同音楽出版 2019 価格2000円(税抜き)『ピアノテキスト』全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円(税抜き) ISBN978-4-7609-0338-2 『ピアノ教則本』(バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等、各自のレベルに応じて)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	以下の事柄について達成できたものは合格とする。・幼児曲の歌唱演習が適切に実施できたもの・基礎的音楽理論を理解し、期末試験に合格したもの・ピアノ課題幼児曲が個人レッスンで合格し、期末実技試験で適切に演奏できたもの		
成績評価の方法	音楽理論筆記試験(45%)、ピアノ実技試験(45%)、平常点(10%) : 受講態度、ピアノ進度		
GPA基準			
備考	授業計画の課題曲が終了しないとピアノ実技期末試験は受験できない A 新村 B ピアノ指導 有満・稲森・窪田・武田・蜷川・濱崎・古川・村原・桃坂・沖・中村		

科目名	子どもと造形 I		
担当者	松下 茉莉香		
授業形式	演習	科目ナンバー	42
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	子どもの造形表現の中でも、描く活動を中心とした演習を通して、具体的な活動内容や教育的意義について明らかにする。また、乳幼児期の表現の発達過程を踏まえた上で、子どもへの適切な指導について考察できるよう解説する。さらに、多様な課題製作を行うことで描く活動の豊かさや価値を味わい、基礎的な知識や技能を身につけられるよう講義する。		
授業の到達目標	1. 描く活動を中心とした、子どもの造形表現活動について発達や支援の在り方を学ぶ。 2. 多様な課題製作を通して表現の豊かさを味わい、描く活動に関する基礎的な表現技能を習得する。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション	松下	
第2回	視聴覚教材から見る子どもの造形表現	松下	
第3回	感触遊びについて学ぶ: 絵具を用いた感触遊びの体験・実践例の紹介	松下	
第4回	色に親しむ活動①: 色の基礎知識について・三原色を用いた混色あそび	松下	
第5回	色に親しむ活動②: 混色の知識を生かして身近なものの色を表す	松下	
第6回	光・色・形に親しむ: トランスパレントを用いた製作	松下	
第7回	表現の多様性について学ぶ①: 身近な素材を用いてモダンテクニックを体験する	松下	
第8回	表現の多様性について学ぶ②: 様々な技法を用いた課題製作・総括	松下	
第9回	色形を写す活動①: スチレンボードを用いた版表現	松下	
第10回	色形を写す活動②: ローラー遊びと版表現	松下	
第11回	自然を題材とした描く活動①: 身近な自然物を観察しながら形を捉える	松下	
第12回	自然を題材とした描く活動②: にじみによる着彩・総括	松下	
第13回	様々な素材を用いた造形活動①: 自然物の造形から見立てて描く	松下	
第14回	様々な素材を用いた造形活動②: プラスチック素材による抽象的表現	松下	
第15回	描く活動・版画表現を中心とした教材研究発表	松下	
事前・事後学習	・事前学習: シラバスを確認し授業の見通しを立てておく。 ・日頃から新聞や書籍等で幼児期の造形表現に関する情報収集を積極的に行う。		
課題に対するフィードバックの方法	課題が課された際は、求めに応じて個別に指導または授業内で課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日 16:25~17:55 研究室(本館602号室)		
テキスト	授業中に便宜資料を配布する。		
参考文献等	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省) 『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 平成30年11月9日 2400円 (ISBN 978-4-89347-311-0)		
成績評価基準	子どもの造形表現活動について発達や支援の在り方を理解し、描く活動に関する基礎的な表現技能を身につけられたか。		
成績評価の方法	受講態度(10%)、作品評価(40%)、教材研究(20%)、筆記試験(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	保育の心理学		
担当者	平嶋 慶子		
授業形式	講義	科目ナンバー	43
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	人の障害の発達変化を概観し基礎理解を図る。発達の定義や原則と現代の発達理論を学ぶ。乳幼児期の発達特性と発達に応じた援助や関わり方を学ぶ。就学前保育・教育の意義と学びの過程で環境との相互作用の重要性を理解する。		
授業の到達目標	保育実践に関わる発達の基礎を理解し、発達理論を学び、人の心理的発達を捉える視点を持つ。発達心理学の理解を通して、養護と教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を深める。乳幼児期の発達と学びの過程や特性について基礎的知識を学び、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		
授業計画			担当者
第1回	人の一生にわたる発達変化と教育・保育の普遍的必要性について		平嶋
第2回	発達の定義と発達段階及び乳幼児期の特性		平嶋
第3回	発達の原則と初期経験及び発達の可塑性について		平嶋
第4回	発達の規定因と発達理論及び子ども観		平嶋
第5回	環境や人との相互的関わり的重要性		平嶋
第6回	子どもの発達:運動と身体的機能		平嶋
第7回	子どもの発達:言語とコミュニケーション能力		平嶋
第8回	子どもの発達:認知		平嶋
第9回	子どもの発達:社会情緒的能力		平嶋
第10回	乳幼児期の学びと保育の意義		平嶋
第11回	活動・遊び(学び)の原動力となる動機づけ、意欲など		平嶋
第12回	乳幼児期の学びの過程と特性		平嶋
第13回	乳幼児期の学びを支える人との関わり:友達と保育者		平嶋
第14回	乳幼児期の学びとその土台となる環境について:子どもにとって有意義な体験とは		平嶋
第15回	子どもの発達と就学前保育・教育の関係について		平嶋
事前・事後学習	配布の資料プリントは毎時間持参する。用語や熟語などその都度自分で国語辞典等で調べて意味を確実に理解しておくこと。したがって検索のための授業中のスマホ等の使用は認める。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(期末試験を含む)は求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月・水・金の16:10~17:00 研究室(西館416号室)		
テキスト	『新・プリマーズ/保育/心理 保育の心理学』河合優年/中野茂 編著 2013 ミネルヴァ書房 2000円 978-4-623-06513-4		
参考文献等	授業中適宜紹介する		
成績評価基準	発達の基礎理解と乳幼児の特性及び保育の重要性の関係について理解できたものは合格とする。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)と授業への参加態度(20%)を総合評価する。		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	子どもの保健		
担当者	宇都 弘美		
授業形式	講義	科目ナンバー	44
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	小児期の区分や子どもの発達について理解し、統計から見た子どもの健康に関する現状を確認して、それに対する母子保健施策を学ぶ。さらに、病気の予防や子どもが罹りやすい病気とその対応についても理解を深める。		
授業の到達目標	1.小児期の区分や子どもの発達について理解する 2.統計から見た健康に関する現状を知り、それに対する施策を学ぶ 3.病気の予防や子どもが罹りやすい病気とその対応を学ぶ		
授業計画			担当者
第1回	保育保健の意義・範囲、健康の概念、子どもの定義		宇都
第2回	出生前の成長と出生後の身体発育		宇都
第3回	生理機能の発達		宇都
第4回	運動機能の発達		宇都
第5回	子どもにかかわる統計		宇都
第6回	子どものための保健対策(母子保健行政)		宇都
第7回	新生児・未熟児		宇都
第8回	保健管理①(日常の健康状態の把握)□		宇都
第9回	保健管理②(健康診断)		宇都
第10回	出生前の原因による病気		宇都
第11回	病気の予防①(よい生活習慣の確立)、子どもの病気の主な症状		宇都
第12回	子どもの病気①(ウイルス性感染症)		宇都
第13回	子どもの病気②(細菌性感染症)		宇都
第14回	病気の予防②(予防接種)		宇都
第15回	子どもの病気③(感染症以外の病気)		宇都
事前・事後学習	事前学習として授業内容をシラバスで確認し、該当箇所を予習したり、授業後には事後学習として毎回約1時間程度の復習をして、授業内容の確認をすること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水・金曜日 16:30以降 (西館311号 宇都研究室)		
テキスト	『保育を学ぶ人のための 子どもの保健』:堀浩樹他編著,建帛社,2019		
参考文献等	授業中に適宜紹介する		
成績評価基準	授業の到達目標の小児期の区分や子どもの発達、統計上の子どもの健康課題やそれに対する施策、子どもの病気について、学べているかを問う課題(期末試験)に対して、6割以上の得点を合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(90分で実施)100%		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	乳児保育 I		
担当者	宇都 弘美		
授業形式	講義	科目ナンバー	45
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	乳児保育の理念や役割について学び、現状と課題について理解する。また、3歳未満児の成長・発達について学び、保育の内容や方法、計画や記録の仕方の理解を深める。家庭や地域、関係機関との連携についても学ぶ。		
授業の到達目標	1. 乳児保育の現状と課題について理解する 2. 3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学ぶ 3. 家庭や地域、関係機関との連携について学ぶ		
授業計画			担当者
第1回	乳児保育とは、乳児保育の歴史、家庭保育と集団保育		宇都
第2回	家庭生活と園生活、乳児保育が行われる場所		宇都
第3回	3歳未満児の発達の特徴と保育①(自我の発達、ビデオ)		宇都
第4回	3歳未満児の発達の特徴と保育②(言葉の発達、ビデオ)		宇都
第5回	3歳未満児の発達の特徴と保育③(保育所保育指針を用いて)		宇都
第6回	乳児保育における養護及び教育		宇都
第7回	乳児の日常生活と保育環境①(乳児期前半)		宇都
第8回	乳児の日常生活と保育環境②・遊び(乳児期後半)		宇都
第9回	日常生活と保育環境・遊び①(1歳児を中心に)		宇都
第10回	日常生活と保育環境・遊び②(2歳児を中心に)		宇都
第11回	3歳未満児の保育における配慮点		宇都
第12回	保育計画と記録①(保育課程と指導計画)		宇都
第13回	保育計画と記録②(年間・月間計画、週案など)		宇都
第14回	3歳未満児の保育における連携・協働(職員・保護者・地域の連携機関)		宇都
第15回	3歳未満児の保育を支える制度や連携と今後の課題		宇都
事前・事後学習	事前学習として授業内容をシラバスで確認し、該当箇所を予習したり、授業後には事後学習として毎回約1時間程度の復習をして、授業内容の確認をすること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水・金曜日 16:30以降 (西館311号 宇都研究室)		
テキスト	『はじめて学ぶ乳児保育 第2版』:志村聡子編著,同文書院,2019		
参考文献等	『平成30年度施行 新要領・指針サポートブック』:保育総合研究会監修,世界文化社,2018		
成績評価基準	授業の到達目標のうち、特に3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学べているかを問う課題(期末試験)に対して、6割以上の得点を合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(90分で実施)100%		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	国語科指導法		
担当者	藤川 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	46
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	学習指導要領に示された国語科の目標や内容を、実践事例の検討や教材研究を通して理解するとともに、指導上の留意点、評価の方法を学ぶ。また、学習指導案の作成及び模擬授業を通して実践力を高める。さらに、国語科を核とした様々な連携について学ぶ。		
授業の到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容の背景となる学問領域と関連させて理解を深めると共に、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業計画			担当者
第1回	ガイダンスー 小学校国語科授業の振り返りからみる国語科の目標		藤川
第2回	C「読むこと」(文学的文章)の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点		藤川
第3回	C「読むこと」(説明的文章)の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点		藤川
第4回	A「話すこと・聞くこと」の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点		藤川
第5回	B「書くこと」の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点		藤川
第6回	[知識及び技能]の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点		藤川
第7回	国語科の背景となる言語学・文学・認知心理学等の知見を活かした教材分析		藤川
第8回	模擬授業に向けた国語科学習指導案の構成の理解		藤川
第9回	模擬授業に向けた子どもの認識・思考の活性化を促す情報機器・教材の工夫		藤川
第10回	情報機器・教材を活用した国語科における学習評価の工夫		藤川
第11回	模擬授業①と振り返り(子どもの学力がみえる評価方法に向けての検討)		藤川
第12回	模擬授業②と振り返り(子どもの認識・思考を活かす教具・板書に向けての検討)		藤川
第13回	模擬授業③と振り返り(主体的・対話的で深い学びに向けての検討)		藤川
第14回	小学校入門期の国語科授業(保・幼・小連携の視点)		藤川
第15回	目指す国語科授業の構想(国語科の本質を考える)		藤川
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ことばドリル、お伝と伝じろう、わかる国語 読み書きのツボ(NHK for school)などの国語科教育に関連する番組を視聴する。 小学校で使用されている国語教科書を図書館で借り、どのような教材があるのか読む。 		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 13:00~14:25(西館405)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社 2018 ¥162 (ISBN-10: 4491034621)		
参考文献等	『国語教育指導用語辞典(第五版)』 田近洵一・井上尚美・中村和宏編 教育出版 2018 ¥4,000 (ISBN-10: 4316804618) 『あらゆる教材を「図解」する! 小学校国語科教材研究シートの活用』 「ことばの学び」を開く会・香月正登 東洋館出版社 2013 ¥1,900 (ISBN-10: 4491029563)		
成績評価基準	学習指導要領における国語科の内容を踏まえ、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けること。		
成績評価の方法	最終レポート(70%・・・模擬授業の振り返り(30%) + 改訂版指導案(40%)) 模擬授業の発表内容(15%)、毎時間ごとの授業感想ミニレポート(15%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	音楽科指導法		
担当者	新村 元植		
授業形式	演習	科目ナンバー	47
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校音楽科授業に関する演習を実施する事により、授業運営に必要な能力を習得する。①小学校音楽科における教材、指導案、学習指導要領、音楽理論、伴奏法を研究する。②指導法の研究に基づく模擬授業を実施し、授業研究を実施する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における音楽教育活動に必要な基礎的授業運営することができる ・児童の音楽を愛好する心情と感性を育てることができる・音楽活動に必要な基礎的能力を身に付けることができる ・音楽授業の設計について研究し実践できる 		
授業計画			担当者
第1回	小学校学習指導要領研究1(ねらいと目的、子どもの音楽的発達)		新村
第2回	学習指導案研究及び作成演習(指導計画の作成と領域、評価の観点・題材による主題作成)		新村
第3回	音楽科授業の指導ポイント(情報機器等を活用した学習活動過程の展開、アクティブラーニング)		新村
第4回	歌唱活動、器楽活動授業の展開について		新村
第5回	身体表現活動、創作活動授業について		新村
第6回	1・2学年の教材の取り扱い方(共通教材、身体表現、器楽活動、歌唱活動)		新村
第7回	3・4学年の教材の取り扱い方(共通教材、身体表現、器楽活動、歌唱活動)		新村
第8回	5・6学年の教材の取り扱い方(共通教材、身体表現、器楽活動、歌唱活動)		新村
第9回	模擬授業・音楽授業指導研究(1・2学年の教材)		新村
第10回	模擬授業・音楽授業指導研究(3・4学年の教材)		新村
第11回	模擬授業・音楽授業指導研究(5学年の教材)		新村
第12回	模擬授業・音楽授業指導研究(6学年の教材)		新村
第13回	コードネームによる簡易伴奏法演習①「うみ」「虫のこえ」「春の小川」		新村
第14回	コードネームによる簡易伴奏法演習②「とんび」「こいのぼり」「ふるさと」		新村
第15回	総合的演習(共通教材指導上の留意点)		新村
事前・事後学習	学習指導案作成および教材研究、授業法の研究等		
課題に対するフィードバックの方法	小学校音楽科学習指導案作成等について、求めに応じて個別に指導する。		
質問・相談方法	オフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 10:00～15:00 研究室(本館603号室)		
テキスト	『ピアノテキスト』全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円(税抜き) ISBN978-4-7609-0338-2 『小学校音楽』教科書1～6年生 教育芸術社 2019 価格1200円(税抜き) ISBN978-4-87788-592-2 『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社 2019 価格1800円(税抜き) ISBN978-4-8788-823-7		
参考文献等	小学校学習指導要領解説音楽編(平成29年6月文部科学省)		
成績評価基準	以下の事柄について適切に達成したものを合格とする。・学習指導案に基づいた基礎的授業運営ができる・音楽活動に必要な音楽能力が身についたもの・期末試験において小学校音楽科教育法を理解し合格したもの		
成績評価の方法	定期試験90分(60%)、授業課題等(40%)定期試験および授業課題		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・単位互換[KRICE]提供科目 ・小学校音楽科共通教材について弾き歌いができることが望ましい 		

科目名	図画工作科指導法		
担当者	井上 周一郎、松下 茉莉香		
授業形式	演習	科目ナンバー	48
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校図画工作科の表現領域に関する課題製作に取り組み、基礎造形に関する知識や技能の習得を図る。また、新たな学習指導要領や具体的な授業実践例について解説し、目標・内容・指導上の要点と工夫・評価の観点と方法の理解を促す。模擬授業では、教材研究・授業研究・学習指導案作成の方法を検討し、“深い学び”を実現する授業の在り方を明らかにする。		
授業の到達目標	1. 図画工作科の教育目標や学習内容を理解し、育成すべき資質・能力を説明できる 2. 様々な課題製作を通して、基礎造形の知識や技能を習得する 3. 模擬授業を通して“深い学び”を実践的に考察することで、適切な授業づくりと指導法を理解する		
授業計画			担当者
第1回	図画工作科の目標と内容(表現・鑑賞・共通事項)について		A
第2回	課題製作を通して「造形遊び」の学習内容と指導法を学ぶ		A
第3回	課題製作を通して「立体に表す」の学習内容と指導法を学ぶ		A
第4回	課題製作を通して「工作に表す」の学習内容と指導法を学ぶ		A
第5回	模擬授業に関する教材研究・授業研究・学習指導案作成について		A
第6回	「立体に表す」に関する模擬授業と振り返り		A
第7回	「工作に表す」に関する模擬授業と振り返り		A
第8回	“主体的・対話的で深い学び”を実現する授業づくり(ICTの活用を含む)や指導法について		A
第9回	視聴覚教材からみる児童期の描画表現の特徴と発達について		B
第10回	「絵に表す」「版に表す」学習の内容と指導上の留意点について		B
第11回	「絵に表す」「版に表す」学習の内容－製作を通して学ぶ－		B
第12回	「絵に表す」「版に表す」学習の指導の在り方について		B
第13回	模擬授業に関する学習の指導案作成と評価の考え方		B
第14回	低・中学年の「版に表す」内容に関する模擬授業		B
第15回	中・高学年の「絵に表す」内容に関する模擬授業と振り返り		B
事前・事後学習	事前学習・・・意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと 事後学習・・・課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	井上:金曜日 16:25～17:55 研究室(本館609号室)、松下:月曜日 16:25～17:55 研究室(本館602号室)		
テキスト	『小学校 図画工作科教育法』 編著 山口喜雄 建帛社 2018年3月30日 2400円 (ISBN 978-4-7679-2113-6)		
参考文献等	小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 図画工作編 (平成29年6月 文部科学省)		
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること		
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)、作品評価(30%)、鑑賞学習のレポート(10%)、定期試験(40%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考	A: 井上 B: 松下		

科目名	保育内容(環境)の指導法		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	演習	科目ナンバー	49
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	主に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域のねらい内容についての中身を理論的に学ぶ。また保育指導案の作成についても学び、今後の実習での実践力を高める。		
授業の到達目標	幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容5領域のうち「環境」とはどのような狙いと内容を含んでいるか、具体的に理解することを目標とする。また、自ら現場における使える知識としての学習を通して、それを理論的に検証し、保育現場で活用できるようにする。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(保育内容とは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)		横峯
第2回	5領域の内容について(自分の幼児期の遊びをもとに)		横峯
第3回	保育指導案の作成について(評価の観点を含む)		横峯
第4回	動物とのかかわり(調べ学習)		横峯
第5回	植物とのかかわり(調べ学習)		横峯
第6回	季節(地域行事)とのかかわり(調べ学習)		横峯
第7回	動物とのかかわり(子どもの中の育ち、保育者の果たすべき役割、調べ学習の振り返り)		横峯
第8回	植物とのかかわり(子どもの中の育ち、保育者の果たすべき役割、調べ学習の振り返り)		横峯
第9回	地域とのかかわり(子どもの中の育ち、保育者の果たすべき役割、調べ学習の振り返り)		横峯
第10回	ものとかかわり(シャボン玉遊びを通じた幼児理解と教材開発、模擬保育)		横峯
第11回	ものとかかわり(保育者の果たすべき役割、模擬保育の振り返り)		横峯
第12回	自然事象とのかかわり		横峯
第13回	文字・数・量・図形・情報とのかかわり(ICT活用を含む)		横峯
第14回	教育実習日誌について		横峯
第15回	小学校生活科・理科との関係について、総括		横峯
事前・事後学習	領域「環境」の捉え方を中心に講義が進んでいくことになるので、具体的な事例、教材開発についてが各自の事後学習となる		
課題に対するフィードバックの方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	金曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号)		
テキスト	幼稚園教育要領 フレーベル社 2017/05 161円 (ISBN978-4577814222) 保育所保育指針 フレーベル社 2017/05 161円 (ISBN978-4577814239) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル社 161円 2017/05 (ISBN978-4577814246)		
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する		
成績評価基準	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらい・内容について理解すること		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	保育内容(表現)の指導法		
担当者	中村 礼香、松下 茉莉香、小松 恵理子		
授業形式	演習	科目ナンバー	50
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修: 幼教免 保育士証		
授業の概要	領域「表現」のねらいや内容について理解し、音楽表現、造形表現、身体表現のそれぞれの視点から表現について捉えた上で、総合的な表現活動について理解を深める。その上で保育指導案の作成及び模擬授業により実践力を高める。		
授業の到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。 2. 幼児の発達に即した表現に関わる具体的な保育援助・指導方法を身に付ける。		
授業計画			担当者
第1回	領域「表現」と幼児の表現について		小松
第2回	領域「表現」のねらい・内容・指導上の留意点についてⅠ(音楽表現に関する内容)		中村
第3回	領域「表現」のねらい・内容・指導上の留意点についてⅡ(造形表現に関する内容)		松下
第4回	領域「表現」のねらい・内容・指導上の留意点についてⅢ(身体表現に関する内容)		小松
第5回	情報機器を活用した実践映像から見る子どもの表現活動の理解		松下
第6回	表現活動から育まれる資質・能力について		中村
第7回	幼児の表現の発達		松下
第8回	領域「表現」の指導案について		松下
第9回	模擬保育に向けた指導案作成について		小松
第10回	自然を題材とした模擬保育		中村
第11回	生活を題材とした模擬保育		松下
第12回	行事や地域文化を題材とした模擬保育		小松
第13回	模擬保育の振り返り		小松
第14回	領域「表現」と他領域との関わり及び小学校の教科等とのつながりについて		中村
第15回	国内外の保育実践例の紹介		中村
事前・事後学習	模擬保育に向けて事前に指導案を作成し、練習を行った上で臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で模擬保育についての振り返りを行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	中村: 火曜日 10:35~12:05 研究室(本館601号室) 松下: 金曜日 16:25~17:55 研究室(本館602号室) 小松: 水曜日 12:10~12:50 非常勤講師室(本館104号室)		
テキスト	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 平成30年 240円(税抜き) (ISBN978-4-577-81447-5) 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 平成30年 320円(税抜き) (ISBN978-4-577-81448-2) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 平成30年 350円(税抜き) (ISBN978-4-577-81449-9) 『表現の指導法』 田澤里喜編著 玉川大学出版部 2019年 2400円(税抜き) (ISBN978-4-472-40567-9)		
参考文献等	『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 2018年11月9日 2400円(税抜き) (ISBN 978-4-89347-311-0)		
成績評価基準	領域「表現」のねらい及び内容について理解し、模擬保育に反映させることができること。		
成績評価の方法	模擬授業(50%)、最終レポート(50%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	教育原理		
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	科目ナンバー	51
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	まず「教育とは何か？」を考え、ついで教育史から現代の教育の動向の必然性や課題を探る。同時に、過去の教育(学)者からもこの問いに向かうことになる。これらを通して、教育の理念、目的について学ぶ。		
授業の到達目標	教育の基本的な考え方と目標について個人や集団・社会を視野に収めながら、教育史や教育思想に沿って教育と教育施設の理解を深めることができる。		
授業計画			担当者
第1回	教育と個々人—成長の援助と覚醒としての教育		山元
第2回	教育と地域・社会—有意味な社会の再生産としての教育		山元
第3回	教育と文化あるいは異文化—文化の伝承と増殖としての教育		山元
第4回	児童中心主義の理念—その誕生の経緯と内容、課題		山元
第5回	近代家族の成立と学校—公教育制度の成立と世代の明確化		山元
第6回	ソクラテス・ルソー・フレーベル—産馬術・消極教育・「子どもから」		山元
第7回	ペスタロッチの「生活が陶冶する」—生活を前提とした合科教授の考え方		山元
第8回	デューイと「民主主義と教育」—現代日本の学校の理念と歴史		山元
第9回	現代の教育課題(その1)—少子化、遊び集団・学習集団の縮小化		山元
第10回	現代の教育課題(その2)—社会問題としてのいじめ(ネット化も含めて)		山元
第11回	現代の教育課題(その3)—家庭問題としての虐待(歴史的事例も含めて)		山元
第12回	子どもと教育目標としての自立・自律—物語等に見る成長課題としての自立		山元
第13回	子供の成長と教育計画—意図的教育と非意図的教育		山元
第14回	子供の成長と教員の人格—「なるべきものになっていること」		山元
第15回	将来的にあるべき教育と学校の姿—国際化(社会化)と個性化		山元
事前・事後学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。また、事後学習については講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりである。		
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00(西館4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『経験と教育』 ジョン・デューイ 講談社学術文庫、『学校と社会』 ジョン・デューイ 岩波文庫,その他、授業計画に挙げられている教育学者の著作(文庫で入手可能)		
成績評価基準	定期試験とレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。		
成績評価の方法	定期試験(80%)、2回分のレポート(各10%)		
GPA基準			
備考			

科目名	特別支援教育・保育		
担当者	本田 和也、宮里 新之介、赤瀬川 修		
授業形式	演習	科目ナンバー	52
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	特別支援教育に携わる教師等に求められる様々な障害ある子どもや特別な配慮を必要とする子どもの教育を支える制度や教育上の仕組みを理解する。また、グループディスカッション等を通して、子どもの具体的な指導・支援について学び、教師等としての指導力を身に付ける。		
授業の到達目標	1. 様々な障害等の概念について理解する 2. 特別支援教育の歴史的変遷と制度について理解する 3. 様々な障害や特別な配慮を必要とする子どもの指導・支援を理解する		
授業計画			担当者
第1回	特別支援教育の理念と制度を理解する	本田	
第2回	インクルーシブな学校等と特別な配慮を必要とする障害のない幼児児童生徒について理解する	本田	
第3回	特別支援教育の歴史について理解する	本田	
第4回	特別支援教育の教育課程について理解する	本田	
第5回	視覚障害とその教育について理解する	本田	
第6回	聴覚障害とその教育について理解する	本田	
第7回	知的障害とその教育について理解する	本田	
第8回	肢体不自由とその教育について理解する	本田	
第9回	病弱・身体虚弱とその教育について理解する	本田	
第10回	自閉症・情緒障害とその教育について理解する	宮里	
第11回	言語障害とその教育について理解する	本田	
第12回	学習障害とその教育について理解する	本田	
第13回	注意欠陥・多動性障害とその教育について理解する	宮里	
第14回	教育と福祉・医療・労働との連携について理解する	赤瀬川	
第15回	教師の専門性と研修の意義・課題について理解する	本田	
事前・事後学習	事前学習…事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 事後指導…授業時に配布したプリントを復習しておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	本田 …水曜日16:30～18:00 研究室(西館311号室) 宮里 …木曜日10:35～12:05 研究室(本館312号室) 赤瀬川…水曜日16:25～17:55 研究室(西館409号室)		
テキスト	改訂版 初めての特別支援教育―教職を目指す大学生のために― 柘植雅義他編著 有斐閣アルマ) 2160円 (978-4-641-22038-6)		
参考文献等	障害児保育―子どもとともに成長する保育者を目指して―(藤永保監修、萌文書林) 特別支援教育―共生社会の実現に向けて―(吉田武男監修、ミネルヴァ書房)		
成績評価基準	様々な障害等の概念について理解すること 特別支援教育の歴史的変遷と制度について理解すること 様々な障害や特別な配慮を必要とする子どもの指導・支援を理解すること		
成績評価の方法	定期試験(80%)、3回実施するレポート等課題の提出(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	教育の方法・技術		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	科目ナンバー	53
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	前半は古今東西の様々な理論を学び、教育方法の普遍と流行について理解を深める。中盤は具体的な教育実践の分析に基づき、教育方法の在り方を考える。後半は指導案の作成やICTの活用について学び、実践的な力を高める。		
授業の到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識並びに技能を身に付ける。		
授業計画		担当者	
第1回	イントロダクション(本授業の目的の説明)	松崎	
第2回	日本における教育方法の基礎的理論・実践(三澤勝衛らを事例に)	松崎	
第3回	世界における教育方法の基礎的理論・実践(デューイらを事例に)	松崎	
第4回	主体的・対話的で深い学びの実現等のための教育方法	松崎	
第5回	学校教育以外の教育方法を学ぶ。(NPO活動における教育実践等を通して)	松崎	
第6回	授業を構成する基礎的な要件(授業映像の分析から)	松崎	
第7回	資質・能力及び学習評価の基礎的な考え方(ルーブリックなど)	松崎	
第8回	学習過程を可視化する方法(思考ツールの活用等)	松崎	
第9回	授業を行うための基礎的な技術(1)(大瀬実践等をもとに)(主に話法)	松崎	
第10回	授業を行うための基礎的な技術(2)(鹿児島市立田上小学校の事例をもとに)(主に板書等)	松崎	
第11回	学習指導案の作成方法(鹿児島県内の小学校の学習指導案を事例に)	松崎	
第12回	学習指導案の作成(防災教育をテーマに)	松崎	
第13回	情報機器の効果的な活用方法を学ぶ。(鹿児島県の研究校(山下小)の事例をもとに)	松崎	
第14回	情報活用能力を育成するための指導法	松崎	
第15回	小学校教育にふさわしい教育方法の在り方	松崎	
事前・事後学習	事前学習:1年次前期の「教科の指導法」等について復習しておく。 事後学習:定期試験に向けて総復習を行う。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 14:20~16:30 研究室(西館411号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『教育技術MOOK 各教科・領域別 考える力を育てる学習のしつけ』田村学監修、鹿児島市立田上小学校編著 小学館 2015年ほか。		
成績評価基準	・教育の方法や技術(ICT活用を含む)に関する基礎的な知識及び技能を有している。		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目、他学科開放科目		

科目名	生徒指導・進路指導		
担当者	松元 理恵子		
授業形式	講義	科目ナンバー	54
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	「子どもの生きる力を育てる」という観点より、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性をいかせる生徒指導の教育的意義と課題について説明する。進路指導については、将来の進路を選ぶ力を育て、長期的展望を見据えた援助や指導について説明する。また、子どもの個性や能力を最大限に伸ばしていくための理解と社会的・職業的自立に向けた授業や体験活動について学び、必要な知識と素養を明らかにしながら、学校内外で組織的に生徒指導・進路指導をすすめていけるための実践力について学ぶ。		
授業の到達目標	1.教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける 2.一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを理解できるようになる 3.学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を学び、説明できる		
授業計画			担当者
第1回	生徒指導の意義と特質(生徒指導とは何かを学ぶ)		松元
第2回	学校内外の組織体制(校務分掌、チーム学校と運営及び関係法令を学ぶ)		松元
第3回	生徒指導の機能について(生徒指導の目標、集団指導及び個別指導を学ぶ)		松元
第4回	道徳教育・特別活動における生徒指導の意義と重要性(生活習慣の確立と規範意識について学ぶ)		松元
第5回	子どもの発達プロセス1(発達課題に応じたキャリア教育の指導の在り方について学ぶ)		松元
第6回	子どもの発達プロセス2(仲間関係、自己肯定感を育てる場のつくり方)		松元
第7回	心理教育プログラム(体験学習)		松元
第8回	「いじめ」の理解と対応について		松元
第9回	特別な支援、配慮が必要な児童へのかかわりについて		松元
第10回	不登校の理解と指導(定義や支援の在り方について)		松元
第11回	事例検討(「いじめ」「不登校」に関する対応の仕方を学ぶ)		松元
第12回	事例検討(「虐待、インターネット及び性」に関する対応を学ぶ)		松元
第13回	進路指導とキャリア教育上の課題について(キャリア教育の定義と全体と個別指導の在り方、ポートフォリオ活用を学ぶ)		松元
第14回	キャリア・カウンセリングの理論について(基礎的な考え方とカウンセリングとしての指導を学ぶ)		松元
第15回	進路指導の進め方の体験学習(事例検討により家庭及び関係機関との連携の仕方について学ぶ)		松元
事前・事後学習	事前学習…次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメをもとに予習をする 事後学習…レジュメを見ながら復習を行い、授業で配布した資料も参考にしながら自分なりにノートをまとめる		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室(西館305号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『はじめて学ぶ生徒指導・進路指導』 広岡義之編 ミネルヴァ書房 2016年 2,200円(税抜) (ISBN 9784623075607)		
成績評価基準	生徒指導をすすめていくために、進路指導・キャリア教育の視点にたった授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実のために必要な知識と技能を理解すること。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、講義で出した課題(レポート等)の提出状況(30%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考			

科目名	幼稚園教育実習Ⅰ指導		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	科目ナンバー	55
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修: 幼教免 選択: 小教免		
授業の概要	1年時後期に2週間実施される附属幼稚園の教育実習にかかる、事前指導・事後指導を行う。効果的な実習の展開を目指すとともに、幼稚園教諭(間接的には小学校教諭)として求められる基本的資質・能力の育成を図る。		
授業の到達目標	1. 実習準備として、幼稚園について理解を深め、心構えを持つ 2. 保育計画を立て、具体的に準備する 3. 実習を振り返り、幼児教育の理解を深める		
授業計画			担当者
第1回	実習の概要について(目的と意義)		A
第2回	実習に関する諸連絡と注意(夏休み期間の宿題の確認)		A
第3回	実習に関する諸連絡と注意(必要書類の説明と提出・態度やマナーについて)		A
第4回	附属幼稚園でのオリエンテーション(設定保育のテーマ提示)		B
第5回	附属幼稚園でのオリエンテーション(園における情報提供)		B
第6回	歌・体操・絵画製作等の指導		B
第7回	附属幼稚園でのオリエンテーション(設定保育の4案提示から1案への決定及び指導案の指導)		B
第8回	附属幼稚園でのオリエンテーション(設定保育外の決め事)		B
第9回	実習事後指導(実習Ⅰ反省、幼稚園実習Ⅱへ向けた指導)		A
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	・実習以前における附属幼稚園でのボランティア活動等を積極的に行う ・教材研究をしっかりと行いながら保育計画を考える		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワー、その他空きコマで対応する		
オフィスアワー	金曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号)		
テキスト	教育実習の手引き(本学作成)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 平成30年3月 240+税 (ISBN978-4-577-81447-5)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	・すべての実習指導への受講・諸注意をしっかりと守ること ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする		
成績評価の方法	事後指導におけるレポート(100%)		
GPA基準			
備考	A: 横峯 B: 附属幼稚園担当者		

科目名	幼稚園教育実習 I		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	実習	科目ナンバー	56
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免		
授業の概要	幼稚園教諭(小学校教諭)として必要な資質を養成するために実際の保育を経験し、さらに社会人としての基本的な勤務態度を身につける。幼稚園教諭二種免許状(小学校二種免許状)を取得するためにこの実習を実施する。		
授業の到達目標	1. 幼稚園、幼児、幼稚園教諭の活動と職務について、体験的に理解する 2. 観察や実践を通して、保育、教育技術を身につける 3. 保育観・教育観を確立し、社会人としての行動が取れるようになる		
授業計画			担当者
第1回	実習開始式、対面式(全園児と全実習生、代表挨拶)		各実習園の担当者
第2回	観察実習(園生活の流れ、環境構成、幼児の実態、教師の援助や職務)		各実習園の担当者
第3回	参加実習(担任教諭の指導のもとで、補助として保育に当たる等)(ICT活用を含む)		各実習園の担当者
第4回	指導案作成に向けた主任教諭による研修 I		各実習園の担当者
第5回	指導保育(実習作の先生による実習生への公開保育)		各実習園の担当者
第6回	保育研究会(指導保育について、実習生が学んだことを班毎に発表する)		各実習園の担当者
第7回	園長による講話、主任教諭による研修 II		各実習園の担当者
第8回	担当保育実習に向けた取り組み① 保育指導案の作成		各実習園の担当者
第9回	担当保育実習に向けた取り組み② 保育指導案の検討		各実習園の担当者
第10回	担当保育実習の実施		各実習園の担当者
第11回	担当保育実習の振り返り		各実習園の担当者
第12回	お別れ会(全園児と全実習生、代表挨拶、歌など)		各実習園の担当者
第13回	クラスお別れ会(出し物、歌、プレゼントなど)		各実習園の担当者
第14回	実習総反省会		各実習園の担当者
第15回	実習終了式		各実習園の担当者
事前・事後学習	事前指導等で指示された内容をしっかりと学習すること		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	実習前後の空きコマやオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	金曜日 16:30~18:00 研究室(西館 401号室)		
テキスト	教育実習の手引き(本学作成)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 平成30年3月 240+税 (ISBN978-4-577-81447-5)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標にあげた項目を理解し、身につけること		
成績評価の方法	1. 実習記録に関わるもの:主に日誌の書き方や内容が評価される 2. 保育の実践に関わるもの:教材の研究、指導案の作成、保育技術、幼児の理解などが評価される3. 実習態度に関わるもの:実習に対する意欲、事務処理、実習態度などが評価される 上記を総合的に評価(100%)		
GPA基準			
備考	1. 幼稚園教育実習 I 指導にすべて参加すること 2. 実習に参加するためには、学生便覧に示された実習参加要件をすべて満たすこと 3. 横峯の指示の下、短大教員も園を訪問して指導を行う		

科目名	子どもと人権		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	科目ナンバー	57
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	人権教育・保育で育成することが求められる力(セルフ・エスティームやコミュニケーション能力、正しい知識理解など)について、具体的な事例を通して学ぶ。その内容を踏まえて、実際にどのような実践が行われているかを学び、自信が教師・保育者となったときにどのような実践を行うかについて考える。		
授業の到達目標	1. 人権教育・保育を実践するための知識や技能を習得する 2. 人権に対する配慮をもって子どもとかかわる意識を高める。		
授業計画			担当者
第1回	人権教育・保育の目的を学ぶ		松崎
第2回	多文化教育・保育の在り方を考える。(アイヌ学習を事例に)		松崎
第3回	ノーマライゼーションと教育・保育(障がい者の姿に学ぶ)		松崎
第4回	よりよい社会づくりのための発信について考える		松崎
第5回	社会教育と人権教育・保育との関係を考える		松崎
第6回	世界の子どもの人権をめぐる状況を学ぶ		松崎
第7回	人権教育・保育の教材開発について考える		松崎
第8回	まとめ(自分なりの人権教育を考える)		松崎
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	事前学習:幼稚園教育要領や小学校学習指導要領等の人権教育に関する部分を確認する。 事後学習:人権教育に有用な絵本等を探す。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	火曜日 14:20~16:30 研究室(西館411号室)		
テキスト	特になし。		
参考文献等	『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻 ~人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ~』国際協力機構中部国際センター 東信堂 2006年 ほか		
成績評価基準	・人権教育や保育を実践するために必要な基本的な知識・技能を有し、実践に生かそうとする意識をもっていること。		
成績評価の方法	最終レポート100%		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目、他学科開放科目		

科目名	子どもと音楽Ⅱ		
担当者	新村 元植		
授業形式	演習	科目ナンバー	58
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	クラスを2グループに分け、前半と後半で以下の演習を実施する ①幼児曲を使用した歌唱援助及びコードネームを主とした基礎的音楽理論の演習(45分)②指定されたバイエル96番までの課題曲及び幼児曲の弾き歌いピアノ演習(45分)③課題曲を終了した学生は選択曲を演習し、評価に加える		
授業の到達目標	1. 幼児教育に必要な音楽の基礎理論についてさらに理解することができる 2. 歌唱援助や弾き歌いについてさらに演習し実践できる 3. 音楽の一般的能力を獲得することができる		
授業計画			担当者
第1回	音楽理論(音名、音階および前期復習)ピアノ テキストP39 19番(B86) サンタクロース	A・B	
第2回	音楽理論(メジャーコード)ピアノ テキストP44 29番(B90) 大きな栗の木の下で	A・B	
第3回	音楽理論(マイナーコード)ピアノ テキストP49 39番(B96) まつぼっくり	A・B	
第4回	音楽理論(デミニッシュコード)ピアノ テキストP52 44番(B80) さようならのうた	A・B	
第5回	音楽理論(オーグメントコード)ピアノ テキストP54 46番(B91) おかえりのうた	A・B	
第6回	音楽理論(セブンスコード)ピアノ B95番 うれしいひなまつり	A・B	
第7回	音楽理論(コード作成演習)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第8回	音楽理論(コード作成演習2)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第9回	音楽理論(コード進行1)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第10回	音楽理論(コード進行2)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第11回	音楽理論(前期復習1)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第12回	音楽理論(前期復習2)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第13回	音楽理論(幼児曲のコード分析1)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第14回	音楽理論(幼児曲のコード分析2)ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B	
第15回	音楽理論(総合的演習)ピアノ 試験曲、未履修曲	A・B	
事前・事後学習	ピアノ課題曲等練習		
課題に対するフィードバックの方法	定期試験や幼児曲歌唱演習等の課題について、個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 10:00～15:00 研究室(603号)		
テキスト	『うたとあそび』鹿児島私立幼稚園協会 共同音楽出版 2019 価格2000円(税抜き) 『ピアノテキスト』全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円(税抜き) ISBN978-4-7609-0338-2 『ピアノ教則本』(バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等、各自のレベルに応じて)		
参考文献等	なし		
成績評価基準	以下の事柄について達成できたものは合格とする。・幼児曲の歌唱演習が適切に実施できたもの・基礎的音楽理論を理解し、期末試験に合格したもの・ピアノ課題幼児曲が個人レッスンで合格し、期末実技試験で適切に演奏できたもの		
成績評価の方法	音楽理論筆記試験(45%)、ピアノ実技試験(45%)、平常点(10%): 受講態度、ピアノ進度		
GPA基準			
備考	授業計画の課題曲が終了しないとピアノ実技期末試験は受験できない A 新村 B ピアノ指導 中村・有満・稲森・窪田・高取・武田・蜷川・濱崎・古川・村原・桃坂		

科目名	子ども家庭福祉		
担当者	赤瀬川 修		
授業形式	講義	科目ナンバー	59
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	保育士は、児童福祉専門職として位置付けられており、児童家庭福祉の歴史の変遷と理念について理解し、児童の権利に関する条約などで示されている児童の権利についての深い理解に基づく実践が求められている。本授業では、これらの理論に関する理解を深めるとともに、子ども家庭福祉に関する制度や法体系、実施体系、福祉施設などについて理解を深める。また、現状や課題及び現在の動向や今後の展望、あり方などについて学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する 2. 子どもの人権擁護について理解する 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する 4. 子ども家庭福祉の現状と課題、及び動向と展望について理解する 		
授業計画			担当者
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念		赤瀬川
第2回	子ども家庭福祉の歴史の変遷		赤瀬川
第3回	子どもの人権擁護① 歴史の変遷、児童の権利に関する条約		赤瀬川
第4回	子どもの人権擁護② 子どもの人権擁護と現代社会における課題		赤瀬川
第5回	子ども家庭福祉の制度と法体系		赤瀬川
第6回	子ども家庭福祉福祉の実施体系		赤瀬川
第7回	児童福祉施設と児童福祉専門職		赤瀬川
第8回	少子化と地域子育て支援		赤瀬川
第9回	母子保健と子どもの健全育成		赤瀬川
第10回	多様な保育ニーズへの対応		赤瀬川
第11回	子ども虐待、DVとその防止及び社会的養護		赤瀬川
第12回	障害のある子どもへの対応		赤瀬川
第13回	少年非行、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への支援		赤瀬川
第14回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進		赤瀬川
第15回	地域における連携・協働とネットワーク		赤瀬川
事前・事後学習	・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、障害児福祉、子育て、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:25～17:55 研究室(西館409号室)		
テキスト	『三訂 子ども福祉』 松本峰雄ら編 みらい 2017年 2100円 (978-4-7679-5052-5)		
参考文献等	『最新保育資料集2018』 大豆生田啓友ら編 ミネルヴァ書房 2018年 2000円 (9784623081677) ※最新版を購入すること		
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること。		
成績評価の方法	事前・事後課題(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。		
GPA基準			
備考	COC科目		

科目名	保育者論		
担当者	丸田 愛子		
授業形式	講義	科目ナンバー	60
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	保育士という専門職の役割や責務及び倫理を理解した上で、保育者のあり方について学ぶ。また保育士の職務内容を理解し、教育・保育の現場において必要な知識を講義する。学びの総括として保育者像についてまとめ、成長・自己発揮していけるような人材の育成について講義する。		
授業の到達目標	1. 保育士の責務や倫理, 社会的役割を理解している 2. 乳幼児の発達の特徴及び保育のポイントを把握している 3. 保育の現場で専門性を発揮し, 自ら成長する心構えがある		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション:資質と専門性について考える	丸田	
第2回	指針や要領をもとに, 制度と資格, 責務, 倫理など保育者の役割について学ぶ	丸田	
第3回	保育者の仕事について整理し, 職務の理解をはかる	丸田	
第4回	保育における基本姿勢(1):子ども理解を深める	丸田	
第5回	保育における基本姿勢(2):保育者としての在り方を考える	丸田	
第6回	保育の計画として, 指導計画と保育記録に取り組み, 情報機器及び教材を活用してまとめる	丸田	
第7回	保育援助(1):0歳児から1歳児の生活と身体及び認知発達についてレポートにまとめる	丸田	
第8回	保育援助(2):2歳児から3歳児の生活・遊び・人間関係における援助のポイントを整理する	丸田	
第9回	保育援助(3):4歳児から5歳児について, 集団での育ちを整理し, クラスづくりのポイントを整理する	丸田	
第10回	情報機器及び教材を活用した保育実践を学び, 保育技術向上を目指す	丸田	
第11回	保育における協働(1):情報機器及び教材を活用し, 家庭への子育て支援について整理する	丸田	
第12回	保育における協働(2):情報機器及び教材を活用し, 職員間と地域社会の連携について整理する	丸田	
第13回	振り返り, 評価, 改善に取り組み保育者としての成長を目指す	丸田	
第14回	保育者の専門性について考えをまとめ, グループ毎に発表, 評価, 改善を実施する	丸田	
第15回	自らが望む保育者像を捉え, 実習における抱負と課題につなげる	丸田	
事前・事後学習	事前学習:配布プリントは, 資料として各自整理し学習内容を予習すること 事後学習:学習内容を復習し, 不明な点を残さないようにすること		
課題に対するフィードバックの方法	課題については, 授業内で課題の要点を解説する。指導計画案及び保育記録作成にあたっては, 個別に指導・添削をする。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する		
オフィスアワー	丸田:火曜日・水曜日 16:30~18:00 研究室(西館403号室)		
テキスト	・『保育の実践・原理・内容 第3版』無藤隆 編 ミネルヴァ書房 2016年 2,400円(税抜き)ISBN978-4-623-06648-3 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 平成30年 320円(税抜き)ISBN978-4-577-81448-2		
参考文献等	・『0~6歳子どもの発達と保育の本第2版』河原紀子監修 学研プラス 2018 1,836円ISBN9978-4058008676 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 平成30年 350円(税抜き)ISBN978-4-577-81449-9 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 平成30年 240円(税抜き)ISBN978-4-577-81447-5		
成績評価基準	保育士の責務や倫理, 社会的役割を理解し, 自ら成長する心構えを身につける		
成績評価の方法	レポート等の提出課題の達成(80%)及び授業中の討議・発表への参加(20%)による総合評価とする		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	社会的養護 I		
担当者	赤瀬川 修		
授業形式	講義	科目ナンバー	61
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	社会的養護は、保護者の身体的、経済的、心理的要因による児童の養育環境の悪化や児童本人の心身状況から保護者による養育困難などにより、施設、里親などによって養育を行うことである。本科目では、現代社会における社会的養護の制度や実施体系等、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等、および社会的養護の現状と課題について理解することを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する 3. 社会的養護の制度や実施体、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する 4. 社会的養護の現状と課題について理解する 		
授業計画		担当者	
第1回	社会的養護の理念と概念	赤瀬川	
第2回	社会的養護の歴史の変遷	赤瀬川	
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護	赤瀬川	
第4回	社会的養護の基本原則	赤瀬川	
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務	赤瀬川	
第6回	社会的養護の制度と法体系	赤瀬川	
第7回	社会的養護の仕組みと実施体系	赤瀬川	
第8回	社会的養護の対象	赤瀬川	
第9回	家庭養護と施設養護	赤瀬川	
第10回	社会的養護に関する専門職	赤瀬川	
第11回	社会的養護に関する社会的状況	赤瀬川	
第12回	施設等の運営管理	赤瀬川	
第13回	被措置児童等の虐待防止	赤瀬川	
第14回	社会的養護と地域福祉	赤瀬川	
第15回	これからの社会的養護	赤瀬川	
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める 		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:25～17:55 研究室(西館409号室)□		
テキスト	『改訂 子どもの養護—社会的養護の基本と内容—』松本峰雄・和田上貴昭編 2018年 2000円 978-4-7679-5073-0		
参考文献等	『やさしくわかる社会的養護 シリーズ1～7』相澤仁編集代表 明石出版 2012年～2014年 各2400円 9784750337197(1巻)□		
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること		
成績評価の方法	事前・事後課題(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考			

科目名	子どもの健康と安全		
担当者	宇都 弘美		
授業形式	演習	科目ナンバー	62
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	卒業選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	子どもの健康管理に必要な技術及び安全に係る保健活動について、子どもの心身の不調に対応するための観察ポイントや処置、事故を予防するための環境管理を具体的に理解する。さらに、実習に向けて、保育者としての自身の健康管理や地域の資源の活用についても学ぶ。		
授業の到達目標	1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動のしくみを学ぶ 2. 子どもの心身観察ポイントや処置、事故とその予防を学ぶ 3. 実習に向けて、自身の健康管理や地域の資源の活用について学ぶ		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス、班分け、保健活動の考え方	宇都	
第2回	健康状態の観察と方法(バイタルサインの観察)	宇都	
第3回	衛生管理と感染予防・手洗い	宇都	
第4回	感染症発生時と罹患後の対応	宇都	
第5回	事故と対策、事故防止グッズの紹介	宇都	
第6回	応急処置、ケガの手当て	宇都	
第7回	運搬法	宇都	
第8回	危機管理、災害への備え	宇都	
第9回	心肺蘇生法	宇都	
第10回	個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患・アレルギー疾患等)	宇都	
第11回	障害のある子どもへの対応	宇都	
第12回	健康及び安全管理	宇都	
第13回	保健活動における家庭との連携	宇都	
第14回	母子保健・地域保健における連携と協働	宇都	
第15回	保健計画と保健活動及び評価	宇都	
事前・事後学習	事前学習として授業内容をシラバスで確認し、該当箇所を予習したり、授業後には事後学習として毎回約1時間程度の復習をして、授業内容の確認をすること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月・金曜日の昼休み時間(西館311号 宇都研究室)		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献等	『子どもの保健実習』:兼松百合子他編著,同文書院 を新カリ科目対応に改訂中		
成績評価基準	授業の到達目標の子どもに対する保健活動の仕組みや健康観察ポイント、事故について、学べているかを問う課題(小テスト)と応急処置の技術試験および演習への参加態度を総合的に評価し、6割以上の得点を合格とする。		
成績評価の方法	演習への取り組み状況(授業態度)(20%) 技術試験(30%) 期末試験(50%)		
GPA基準			
備考			

科目名	子どもの理解と援助		
担当者	平嶋 慶子		
授業形式	演習	科目ナンバー	63
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	保育実践において、乳幼児を理解し実態を把握する意味を考え、様々な子どもの姿から多様な子ども理解の視点を学ぶ。子どもを理解の方法を学ぶ。子ども一人ひとりの育ちの援助のあり方と、子どものありのままの姿を受け入れる態度を理解する。		
授業の到達目標	子ども一人ひとりの心身の発達や学びを、実態に応じて把握することが保育実践にいて重要であること及びその意義を理解する。子どもが体験したり、学ぶ過程において子どもを理解するための基本的な考え方を理解する。子どもを理解するための具体的方法を知り、それに基づく保育者の援助や態度の基本を理解する。		
授業計画			担当者
第1回	集団の保育の実践場面における子どもの育ちと、一人ひとりを理解することの意味について	平嶋	
第2回	養護と教育が一体となった保育と子どもの育ち	平嶋	
第3回	子どもに対する共感的理解が子どもとの良好な関係を築くこと	平嶋	
第4回	子どもを理解する視点:生活と遊び	平嶋	
第5回	子どもを理解する視点:人的環境としての保育者・子どもにとっての有意義な環境とは	平嶋	
第6回	子どもを理解する視点:子ども相互の関わりや子ども集団における経験と育ち	平嶋	
第7回	子どもを理解する視点:葛藤やつまずき、喧嘩やトラブルを通して育つもの	平嶋	
第8回	子どもを理解する方法:心理的手法と具体的実践的方法について	平嶋	
第9回	子どもを理解する方法:観察と記録	平嶋	
第10回	子どもを理解する方法:子どもの観察・記録から何を読み取れば良いか(省察・評価の考え方)	平嶋	
第11回	子どもを理解する方法:職員間の連携及び保護者との情報共有の必要性	平嶋	
第12回	発達dんかいと発達段階を踏まえた援助のあり方:乳児期・幼児期前期	平嶋	
第13回	発達段階と発達課題を踏まえた援助のあり方:幼児期以降(認知・言語・社会性)	平嶋	
第14回	発達のつまずきや遅れ発達障がいを持った子どもの理解と援助のあり方	平嶋	
第15回	子どもと保育者の相互的関わりを促す基本の態度・発達の連続性を保障するための小学校就学支援	平嶋	
事前・事後学習	テキストの学習後にワークシートや自己調べの課題をすることによって理解を深めることができる。		
課題に対するフィードバックの方法	ワークシートや自己調べのレポートについて授業中全体的にフィードバックする。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月・水・金の16:10~17:00 研究室(西館416号室)		
テキスト	『よくわかる!保育士エクササイズ4 保育の心理学演習ブック』 松本峰雄 監修 2016 ミネルヴァ書房 2200円 978-4-623-07703-8		
参考文献等	授業中に適宜紹介する。		
成績評価基準	前期の学習や幼稚園実習Iにおける幼児の実際の観察経験から子どもを理解する多様な方法や視点を学べたものを合格とする。		
成績評価の方法	4回のワークシート提出(80%)と授業への参加態度(20%)を総合評価する。		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	乳児保育Ⅱ		
担当者	宇都 弘美		
授業形式	演習	科目ナンバー	64
配当年次	1	科目群	専門科目(教員免許)
開講期	後期	卒業の選択・必修	卒業選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。また、乳児保育における配慮の実際について、具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	1. 3歳未満児の発達特性を踏まえた援助や関わりを学ぶ 2. 3歳未満児の生活や援助を具体的に理解する 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に学ぶ		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス、班分け、日課と保育環境	宇都	
第2回	3歳未満児の生活の援助①(乳児の抱き方・寝かせ方)	宇都	
第3回	3歳未満児の生活の援助②(調乳、授乳の仕方)	宇都	
第4回	3歳未満児の生活の援助③(離乳食の食事介助)	宇都	
第5回	3歳未満児の生活の援助④(歯磨きの指導、仕上げ磨き)	宇都	
第6回	3歳未満児のあそびと援助①(触れ合い遊び、ビデオ視聴)	宇都	
第7回	3歳未満児のあそびと援助②(模倣遊びなど)	宇都	
第8回	乳児保育における配慮	宇都	
第9回	乳児保育における安全管理の実際	宇都	
第10回	個別的な指導計画と集団の指導計画	宇都	
第11回	指導計画作成演習	宇都	
第12回	3歳未満児の生活の援助⑤(おむつ交換)	宇都	
第13回	3歳未満児の生活の援助⑥(清拭)	宇都	
第14回	3歳未満児の生活の援助⑦(沐浴)	宇都	
第15回	演習のまとめと保育実習に向けて	宇都	
事前・事後学習	事前学習:シラバスを用いて授業内容を確認し、テキストの該当の所を事前に読んで予習をすること。 事後学習:乳児モデルを用いた演習後は、次の授業までに理論の復習と実技の復習をして、技術の定着に務めること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月・金曜日の昼休み時間(西館311号 宇都研究室)		
テキスト	前期に使用した『はじめて学ぶ乳児保育 第2版』:志村聡子編著,同文書院,2019		
参考文献等	『乳児の生活と保育《改訂版》』:松本園子編著,ななみ書房,2018		
成績評価基準	授業の到達目標の3歳未満児の生活や援助の理解の中の清潔援助の技術試験および演習への参加態度を総合的に評価し、6割以上の得点を合格とする。		
成績評価の方法	演習への取り組み状況(授業態度)(30%) 技術試験(70%)		
GPA基準			
備考			

科目名	保育所実習 I 指導		
担当者	丸田 愛子、宇都 弘美、藤川 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	65
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	保育所実習 I に向けて保育実習の意義・目的および内容を理解する。子どもの人権と最善の利益を確認し、子どもの生活や保育士の仕事について学ぶ。実習目標や自己課題の設定など心構えと準備について講義する。実習内容として、観察・援助の仕方や実習記録・指導案の書き方、実習後の自己評価と今後の学習目標について学習する。		
授業の到達目標	1. 子どもの人権や生活、保育士の仕事等を十分理解している 2. 保育者としての責任感、使命感を有している 3. 実習に必要な知識を有し、実習準備・学習が行えている		
授業計画			担当者
第1回	保育実習の目的と内容、保育所実習までの流れ		A
第2回	子どもの人権と最善の利益、保育所の一日		B
第3回	実習に向けての準備と心構え		B
第4回	保育における観察・援助の方法		B
第5回	保育記録及び指導案の作成		B
第6回	事前訪問について		A
第7回	実習目標、自己課題と実習計画の立て方		A
第8回	腸内細菌検査について		B
第9回	検査結果配布と実習準備の確認		B
第10回	実習事後指導、レポート提出		A
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	・事前学習として、授業内容をシラバスやテキストで確認し予習を行う ・授業後は復習をし、計画的な実習準備を行うことが望ましい		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れる。保育記録と指導案の作成については、必要に応じて個別に指導添削をする。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する		
オフィスアワー	丸田: 火曜日・水曜日 10:30～18:00 研究室(西館403号室) 藤川: 水曜日 10:35～14:25 研究室(西館405号室) 宇都: 日曜日 16:30～18:00 全曜日 12:05～12:55(西館306号室)		
テキスト	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)		
参考文献等	『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子(編者) 同文書院 2018年 2,000円(税抜き) ISBN-13: 978-4810314755		
成績評価基準	実習に必要な知識を有し、実習準備・学習が達成されたものは合格とする		
成績評価の方法	実習の取り組み(50%)とレポート(実習終了報告書)(50%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考	A:丸田愛子、宇都弘美、藤川和也 B:丸田愛子		

科目名	保育所実習 I		
担当者	丸田 愛子、宇都 弘美、藤川 和也		
授業形式	実習	科目ナンバー	66
配当年次	1	科目群	専門科目(保育士証)
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	児童福祉施設としての保育所の機能、保育士の仕事や職業倫理について学び、実際に子どもや保育士の姿に触れることを通して、子どもの生活や発達及び保育者の援助について理解を深める。既習の理論や技能を実践し観察・参加実習を通して保育技術の体験的理解をはかる。自身の知識や技能が及ばないところに関しては自己課題と捉え習得を目指す。保育士を目指す動機や必要な資質、社会人としての責任ある行動について確認し向上心を養う。		
授業の到達目標	1. 保育所の機能・役割・生活や保育士の仕事を理解している 2. 乳幼児の発達や保育援助について、具体的に学習している 3. 担当保育等を通して、実践力を身につける		
授業計画			担当者
第1回	保育所の目的・役割・機能		A
第2回	保育所における乳幼児の一日の生活や遊び		A
第3回	保育士の援助・かかわり方(保育活動)		A
第4回	一人ひとりの子ども・集団の姿やその発達		A
第5回	環境構成		A
第6回	保育課程と保育計画		A
第7回	保育士とその他職員の仕事・役割、職員間の連携		A
第8回	保育所と家庭・地域との関係		A
第9回	保育参加(0歳児クラス)		A
第10回	保育参加(1歳児クラス)		A
第11回	保育参加(2歳児クラス)		A
第12回	保育参加(3歳児クラス)		A
第13回	保育参加(4歳児クラス)		A
第14回	保育参加(5歳児クラス)		A
第15回	実習のまとめ		A
事前・事後学習	・「保育所実習 I 指導」の授業と並行して計画的に実習準備を進める ・実習後は振り返りをし、自己課題を明確にする		
課題に対するフィードバックの方法	実習施設から課題を出された場合、個別に指導添削を受ける。		
質問・相談方法	実習時間の前後に電話連絡で対応する		
オフィスアワー	丸田: 火曜日・水曜日 16:30～18:00 研究室(四館403号室) 宇都: 月曜日 16:30～18:00、金曜日 12:05～12:55(西館306号室) 藤川: 水曜日 10:35～14:25 研究室(西館405号室)		
テキスト	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)		
参考文献等	『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子(編者) 同文書院 2018年 2,000円(税抜き) ISBN-13: 978-4810314755		
成績評価基準	保育所の機能・役割、保育士の仕事や乳幼児の発達や保育援助について具体的に学習すること		
成績評価の方法	本学の定めた評価表に従って、①実習の態度②保育・援助の実践③実習の記録の観点から、各実習先が評価する(100%)		
GPA基準			
備考	A:実習施設担当者		

2 年 次

一般教養科目

科目名	体育講義		
担当者	黒原 貴仁		
授業形式	講義	科目ナンバー	101
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免・幼教免・保育士証		
授業の概要	短大生活において充実した生活を送り、さらに生涯に渡って豊かな人生を送るために、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義ではスポーツ及び健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。		
授業の到達目標	1. スポーツについての基礎的な理解を深めることができる 2. 健康についての基礎的な理解を深めることができる 3. スポーツと健康における相互関係の理解を深めることができる		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション(スポーツ及び健康についての概念)	黒原	
第2回	スポーツと国際理解	黒原	
第3回	運動と健康を考える①(有酸素運動と筋力トレーニング)	黒原	
第4回	運動と健康を考える②(運動処方と生活習慣病)	黒原	
第5回	運動と栄養を考える①(運動習慣と効果的なダイエット法)	黒原	
第6回	運動と栄養を考える②(運動種目とスポーツ栄養学)	黒原	
第7回	スポーツをめぐる現状と今日的課題	黒原	
第8回	総括・まとめ	黒原	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	参考資料等を熟読する、講義内容を振り返る。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応		
オフィスアワー	水曜日 10:35~12:55 研究室(体育館202号室)		
テキスト	適宜資料を配布する		
参考文献等	『これからの健康とスポーツの科学 第4版』 KSスポーツ医科学書		
成績評価基準	健康に関する理解と積極的に健康管理に関われるようにする		
成績評価の方法	定期試験(70%)、受講態度(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	体育実技		
担当者	大村 一光、黒原 貴仁		
授業形式	実技	科目ナンバー	102
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証		
授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加(関わり)し、健康・体力の保持・増進ができるようにする。		
授業の到達目標	1. スポーツ活動の楽しさを理解する 2. 積極的に健康管理に関われるようにする		
授業計画			担当者
第1回	前半活動オリエンテーション、活動種目(バドミントン、バレーボール、卓球)の決定		大村・黒原
第2回	種目別活動I ルール説明、簡易ゲーム		大村・黒原
第3回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム		大村・黒原
第4回	種目別活動III ダブルス戦等(チーム内ゲーム)		大村・黒原
第5回	種目別活動IV ダブルス戦等(対抗戦)		大村・黒原
第6回	種目別活動V ダブルス戦等(対抗戦 2回戦)		大村・黒原
第7回	種目別活動VI シングル戦等(チーム内ゲーム)		大村・黒原
第8回	種目別活動VII 団体戦等		大村・黒原
第9回	後半活動オリエンテーション、活動種目(バドミントン、バレーボール、卓球)の決定、活動		大村・黒原
第10回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム		大村・黒原
第11回	種目別活動III ダブルス戦等(チーム内ゲーム)		大村・黒原
第12回	種目別活動IV ダブルス戦等(対抗戦)		大村・黒原
第13回	種目別活動V シングル戦等(チーム内ゲーム)		大村・黒原
第14回	種目別活動VI シングル戦等(入れ替え戦)		大村・黒原
第15回	種目別活動VII 団体戦等		大村・黒原
事前・事後学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする		
課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	大村:水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室) 黒原:水曜日 10:35～12:55 研究室(体育館202号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること		
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする		
成績評価の方法	受講態度等(60%) 技術・技能点(40%)		
GPA基準			
備考			

科目名	WE LOVE 鹿児島!		
担当者	大村 一光		
授業形式	演習	科目ナンバー	103
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報			
授業の概要	学生を鹿児島再発見の旅へと導き、自分の中の地域を見つめ、地域の中に自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」の自覚を促し、それを「生きる力」とする。同時に、本学COC活動の「すこやか教育」の核となる科目として意欲的に地域課題に取り組み、社会に貢献する実践力を身につけて、卒業後は「地域活性化の担い手」として地域貢献できる人材となることを目指す。		
授業の到達目標	1. 「ローカル・アイデンティティ」を自覚し、「生きる力」とする 2. 地域課題への取り組みを通して、社会貢献の実践力を体得する 3. 意欲的な「地域活性化の担い手」としての基礎を固める		
授業計画		担当者	
第1回	全体オリエンテーション、分野の希望調査	A	
第2回	分野別オリエンテーション	分野担当者	
第3回	分野別活動①	分野担当者	
第4回	分野別活動②	分野担当者	
第5回	分野別活動③	分野担当者	
第6回	分野別活動④	分野担当者	
第7回	分野別活動⑤	分野担当者	
第8回	分野別活動⑥	分野担当者	
第9回	分野別活動⑦	分野担当者	
第10回	プレゼンテーションについての指導	渡邊	
第11回	プレゼンテーションの準備①(活動の振り返りと内容の企画)	分野担当者	
第12回	プレゼンテーションの準備②(内容の検討)	分野担当者	
第13回	プレゼンテーションの準備③(内容の完成と分野内での交流)	分野担当者	
第14回	各分野の活動報告会①(前半グループ)	A	
第15回	各分野の活動報告会②(後半グループ)	A	
事前・事後学習	各分野の課題への取り組み(準備物の作成、プレゼンテーションの準備など) 各分野の課題への取り組み(レポート作成、振り返りなど)		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(プレゼン試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後や各分野の担当がオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	大村(責任者) 水・金曜日 12:10~12:55 体育館(101号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	各分野で必要となる資料について、適宜紹介する。		
成績評価基準	分野毎に異なるため、分野別オリエンテーション時に説明する。		
成績評価の方法	活動状況(60%)、プレゼンテーション等(40%)による総合評価		
GPA基準			
備考	COC関連科目 授業計画について、変更される可能性があります。 学科教員(A):大村・池田・村若・宇都・平嶋・松崎・井上・松元・横峯・内田・宮里・本田・赤瀬川・丸田・松下・中村・生田・藤川・渡邊・新村・黒原 分野によって、木曜5・6時限目以外で開講されることもある。 分野別活動①~⑦の内容については、分野別オリエンテーション時に説明する。		

科目名	キャリアガイダンス(二年生)		
担当者	大村 一光		
授業形式	演習	科目ナンバー	104
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	(1) / 2	担当形態	複数
免許・資格情報			
授業の概要	キャリアガイダンスの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を作り上げられることを目的にしています。2年後期のキャリアガイダンスでは、実習体験や就職活動を通して、職業人としての自分自身の生き方を考えていきます。		
授業の到達目標	就職活動や実習を通して自己理解を深め、職業選択に生かし、卒業後の職業生活について理解する		
授業計画		担当者	
第1回	保育者のキャリア形成について	A	
第2回	実習の振り返り(1年生へ伝える)	A	
第3回	就職ガイダンス①	A	
第4回	就職についての個別面談①	A	
第5回	就職についての個別面談②	A	
第6回	働くための法律	A	
第7回	多様なキャリア形成	A	
第8回	就職ガイダンス②	A	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	1年次の生活・学習内容・実習を振り返り、将来の進路について情報を集める 自分の目指す進路に関わらせ、講義の内容を振り返る		
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては、ホーム担任が適宜対応する		
質問・相談方法	オフィスアワーにて対応		
オフィスアワー	大村(責任者) 水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室)		
テキスト	学科独自に作成した資料 就職支援ガイド(本学作成) キャリア形成ガイドブック(鹿児島市)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	自己理解を深め、働くことや職業の意義をふまえた上で、目指す職業について理解し、準備を進めていること。		
成績評価の方法	受講態度(30%) レポート(70%)		
GPA基準			
備考	COC関連科目 学科教員(A):大村・池田・村若・宇都・平嶋・松崎・井上・松元・横峯・内田・宮里・本田・赤瀬川・丸田 松下・中村・生田・藤川・渡邊・新村・黒原 担当教員ごとのオフィスアワーを、オリエンテーションで配布		

2 年 次

専 門 科 目

科目名	国語(書写を含む)		
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	科目ナンバー	105
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校国語科で扱われる教材について国語学、国文学などの学問的視点から分析し、グループ討議などを踏まえて、それらの教材がどのような価値を持っているかについて理解することを目指します。また、学年、発達段階も踏まえて、それらの教材を授業化する視点について身に付けることを目指します。		
授業の到達目標	1. 小学校国語科の各領域・各事項及び書写の目的・内容の学習価値を理解する 2. 学習内容にふさわしい国語科の教材開発ができる 3. 教材の持つ価値について、保・幼・小連携の視点から分析できる		
授業計画			担当者
第1回	ガイダンスー 保育内容「言葉」から小学校国語科へ		藤川
第2回	「読むこと」に関する教材分析ー文学的文章		藤川
第3回	「読むこと」に関する教材分析ー説明的文章		藤川
第4回	「読むこと」に関する学習活動の紹介ー読書指導・音読など		藤川
第5回	「話すこと・聞くこと」に関する教材分析ー話すこと		藤川
第6回	「話すこと・聞くこと」に関する教材分析ー聞くこと		藤川
第7回	「話すこと・聞くこと」に関する教材分析ー話し合うこと		藤川
第8回	「書くこと」に関する教材分析ー日記・記録文		藤川
第9回	「書くこと」に関する教材分析ー報告文・手紙文		藤川
第10回	「書くこと」に関する教材分析ー詩・物語		藤川
第11回	書写に関する学習活動の紹介		藤川
第12回	[知識及び技能](1)言葉の特徴や使い方に関する事項に関する教材分析		藤川
第13回	[知識及び技能](2)情報の扱い方に関する事項の教材分析		藤川
第14回	[知識及び技能](3)我が国の言語文化に関する事項の教材分析		藤川
第15回	総括 国語科教材研究の在り方を考える		藤川
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ことばドリル、お伝と伝じろう、わかる国語 読み書きのツボ(NHK for school)などの国語科教育に関連する番組を視聴する。 小学校で使用されている国語教科書を図書館で借り、どのような教材があるのか読む。 授業内容の振り返りと感想をまとめる 		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する		
オフィスアワー	月曜日 15:00~16:00 研究室(西館405号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編』文部科学省 東洋館出版社 2018 ¥162 (ISBN-10: 4491034621)		
参考文献等	『国語教育指導用語辞典(第五版)』田近洵一・井上尚美・中村和宏編 教育出版 2018 ¥4,000 (ISBN-10: 4316804618) 『あらゆる教材を「図解」する! 小学校国語科教材研究シートの活用』「ことばの学び」を開く会・香月正登 東洋館出版社 2013 ¥1,900 (ISBN-10: 4491029563)		
成績評価基準	小学校国語科の各領域・各事項及び書写の目的・内容の学習価値を理解したうえで、学習内容にふさわしい国語科の教材について、保・幼・小連携の視点から分析できる。		
成績評価の方法	毎時間ごとの授業感想ミニレポート(60%)、最終レポート(40%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	社会		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	科目ナンバー	106
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免		
授業の概要	社会科教育法で学んだ基礎的な理論等を踏まえ、地域や子どもの実態に応じて社会科の具体的な教材開発ができることを目的とする。「実践研究・教材開発」では様々なテーマと提示し、その実践事例について検討するとともに、自分ならどのような実践を行うか考える。「フィールドワーク」では、県や市町村の産業についての学習で対象となりうる場へ赴き、地域と教育の関係を理解する。		
授業の到達目標	1. 様々な教材の有用性を理解している 2. 体験をとおりて地域と教育の関係を理解している 3. 授業内容を応用して自分なりの教材を構想できる		
授業計画			担当者
第1回	イントロダクション(本科目の目的の理解)		松崎
第2回	実践研究・教材開発①(マンガの教材化)		松崎
第3回	実践研究・教材開発②(恋愛の教材化)		松崎
第4回	実践研究・教材開発③(CMの教材化)		松崎
第5回	実践研究・教材開発④(食育と社会科)		松崎
第6回	実践研究・教材開発⑤(法教育)		松崎
第7回	実践研究・教材開発⑥(地名教育)		松崎
第8回	実践研究・教材開発⑦(地域の歴史教材)		松崎
第9回	調べ学習・見学体験学習の実践研究		松崎
第10回	フィールドワーク実施地域の地域性理解		松崎
第11回	フィールドワーク①(鹿児島県内の農業)		松崎
第12回	フィールドワーク②(鹿児島県内の水産業)		松崎
第13回	フィールドワーク③(鹿児島県内の地域学習)		松崎
第14回	フィールドワークの振り返りと授業構想		松崎
第15回	総括		松崎
事前・事後学習	指導要領解説の該当部分を読んでおくこと。 各テーマに応じた教材探しを指示するので、収集すること。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日 14:30~16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』 文部科学省 日本文教出版 2018年 142円(税抜き) (ISBN978-4-536-59009-9)		
参考文献等	『日韓交流授業と社会科教育』 谷川彰英編著 明石書店 2005年 (ISBN:9784750321615) ほか		
成績評価基準	・様々な教材の有用性を理解できていること。 ・授業内容を応用して自分なりの教材を構想し発表できること。		
成績評価の方法	最終レポート(50%) 発表(20%) ミニレポート(30%)		
GPA基準			
備考	COC科目 フィールドワークは日曜日または祝日を使い、一日かけて行う。5000円程度の費用を要する。		

科目名	算数		
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	科目ナンバー	107
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	子どもは生まれながらにして(遺伝的に)数学能力を有しています。この授業では、それがいかに発達し、教育によっていかに伸びるのかを知ることをスタートとします。子どもの内にある能力を、外の世界の出来事と結びつけ、深めることで子どもはどのように数学的能力を身に付けるかを、実際に、主体的にアクティブラーニングを用いた数学的活動やICTの活用を通し体験・学習しながら考察していきます。最終的には、幼児期での学習が、小学校以降、どのように発展するかを見据えながら、子どもの成長に携うことを目指します。		
授業の到達目標	1. 幼少期における算数教育の意義を理解する 2. 算数的活動を通して、その楽しさと深さ、意義を知る		
授業計画			担当者
第1回	ガイダンス	内田	
第2回	算数を学習することの意義	内田	
第3回	子どもの発達と算数の関係	内田	
第4回	身の回りにあふれる「形」の世界	内田	
第5回	ものを頭の中で分解しよう 展開図	内田	
第6回	数を用いた遊びを通して計算してみよう	内田	
第7回	式を使わずに計算してみよう	内田	
第8回	測れないものの測り方	内田	
第9回	時間について考えてみる	内田	
第10回	身に染み付いている数感覚	内田	
第11回	数える力 どうしたら上手に早く数えられるか	内田	
第12回	パターンを見つけてみよう	内田	
第13回	無限について考えてみる	内田	
第14回	算数を使って、ものを選んでみよう	内田	
第15回	算数を勉強することの意義の再検討	内田	
事前・事後学習	対象単元の指導要領を予め精読する 授業内容に即した教材開発をする		
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	月曜日 13:00~16:00 研究室(西館412号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『小学校教師のための算数と数学15講』溝口達也編 ミネルヴァ書房 2019年 2376円 (ISBN:978-4624084289)		
成績評価基準	各単元についての知識 算数的問題解決能力の習熟度愛		
成績評価の方法	最終レポート(70%) 小レポート(30%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	理科		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	科目ナンバー	108
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免		
授業の概要	小学校学習指導要領に示されている理科の目標を理解し、各学年における目標、それに対応する学習内容について理解を深めることを目的とする。また、理科指導法で深めた知識をもとにここに教材研究をしてもらう。		
授業の到達目標	1. 小学校理科の目標・内容を理解する 2. ものづくりを模擬授業を通して考え、実践力を養う		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション	横峯	
第2回	小学校理科の全体目標	横峯	
第3回	小学校理科の単元	横峯	
第4回	学習指導案の作成について(小学校教科書をもとに)	横峯	
第5回	小学校理科の基本的な考え方 物理編	横峯	
第6回	小学校理科の基本的な考え方 化学編	横峯	
第7回	小学校理科の基本的な考え方 生物編	横峯	
第8回	小学校理科の基本的な考え方 地学編	横峯	
第9回	小学校理科の基本的な考え方 総括	横峯	
第10回	ものづくりについて考える(仮説実験授業とは)	横峯	
第11回	各々の教材研究について(思案)	横峯	
第12回	各々の教材研究について(試行錯誤)	横峯	
第13回	各々の教材研究について(提示)	横峯	
第14回	各々の教材研究について(評価)	横峯	
第15回	総括	横峯	
事前・事後学習	理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である。その点を踏まえて事前に勉強してよくと良い。ものづくりのための教材研究を学年ごとに考える努力をしてもらいたい。講義毎に行う実験の理論について、児童に説明するとしたらという趣味レーションをしてほしい		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領』 文部科学省 平成29年3月 201円 (ISBN:978-4-491-03460-7) 『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省 平成29年3月 111円 (ISBN978-4-491-03463-8) 『ものづくりハンドブック1~10「楽しい授業」編集委員会(仮説社)		
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する		
成績評価基準	ものづくりについてしっかりと教材研究を行う		
成績評価の方法	講義中に課す課題の達成によって評価する(100%)		
GPA基準			
備考			

科目名	生活		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	科目ナンバー	109
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	生活科の「学習材開発」にスポットを当て、フィールドワークも含め体験的に学ぶことを目指す。また、地域や環境を生かした「遊びを通した学び」を実践できることを目指す。		
授業の到達目標	1. 生活科を実践できる知識・技能を習得する 2. 地域を見つめ、環境を教育に生かそうとする意識をもつ		
授業計画		担当者	
第1回	イントロダクション(学習材開発の観点)	松崎	
第2回	「学校と生活」の学習材開発	松崎	
第3回	「家庭と生活」の学習材開発	松崎	
第4回	「地域と生活」の学習材開発	松崎	
第5回	「公共物や公共施設の利用」の学習材開発	松崎	
第6回	「季節の変化と生活」の学習材開発	松崎	
第7回	「自然や物を使った遊び」の学習材開発	松崎	
第8回	「動植物の飼育・栽培」の学習材開発	松崎	
第9回	「生活や出来事の伝え合い」の学習材開発	松崎	
第10回	「自分の成長」の学習材開発	松崎	
第11回	「まち探検」の実践(短大周辺を歩く)	松崎	
第12回	自然体験・食育体験①(自然を生かした活動の実際)	松崎	
第13回	自然体験・食育体験②(野菜の観察の実際)	松崎	
第14回	自然体験・食育体験③(食育の体験的理解)	松崎	
第15回	総括(生活科の学習材開発の在り方)	松崎	
事前・事後学習	学習指導要領解説の該当部分を読んでおく。 レポート作成に向けて総復習を行う。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	月曜日 14:30～16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』 文部科学省 東洋館出版社 2018年 134円(税抜き) (ISBN:978-4-491-03464-5)		
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育10 初等生活科教育』 片平克弘・唐木清志編著 ミネルヴァ書房 2018年 ほか		
成績評価基準	・生活科を実践できる基本的な知識・技能を有している。		
成績評価の方法	授業テーマごとに課すミニレポート(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目 授業計画⑫～⑭の体験学習は日曜日又は祝日を一日使って実施する。(数千円の費用がかかる。)		

科目名	家庭		
担当者	山崎 歌織		
授業形式	講義	科目ナンバー	110
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免		

授業の概要	家庭科の目標・内容を基に科学的な根拠や実践的・体験的な活動を考慮し、多様化する家庭生活に対応できるよう、基礎的内容を中心に学習を進める。主に下記授業計画に示した内容について学習し、生活者としてよりよい家庭生活が送れるように問題や課題を主体的に発見、解決することを目標とする。また、家族の協力により柔軟に楽しく家庭生活を送ることができることを理解し、指導にいかせるよう導く。実習での指導法や注意点について検討するために実際に調理実習を行う。
授業の到達目標	1. 家庭生活に必要な基礎知識や指導法を習得する 2. 家庭生活の変容を認識し、環境に合わせた指導法について考える 3. 基本的な調理操作を行うことにより、注意への意識を高めた授業計画を作成できる

授業計画		担当者
第1回	家庭科の目標と内容について	山崎
第2回	日常の食事と調理の基礎:栄養・食品に関する指導	山崎
第3回	日常の食事と調理の基礎:調理・献立に関する指導	山崎
第4回	日常の食事と調理の基礎:食生活に関する指導	山崎
第5回	日常の食事と調理の基礎:食生活指針について	山崎
第6回	日常の食事と調理の基礎:調理実習の注意	山崎
第7回	快適な衣服:衣服の着方・手入れに関する指導	山崎
第8回	快適な衣服:被服材料に関する指導	山崎
第9回	快適な衣服:被服制作に関する指導	山崎
第10回	快適な衣服:被服制作	山崎
第11回	快適な住まい方に関する指導	山崎
第12回	物の選び方・購入に関する指導	山崎
第13回	環境と生活に関する指導	山崎
第14回	調理実習(調理の基本)	山崎
第15回	総まとめ・補足説明等	山崎

事前・事後学習	次回の授業範囲についてテキストを読む 日頃から家庭生活を自主的に営み、快適な家庭生活とは何か考える ワークシートへの記入やレポート提出をすることで、授業の復習をおこなう
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題に対し評価し、可能であれば早めに返却する。
質問・相談方法	毎時授業時に質問票を配布し、その用紙に記入してもらう。相談は、オフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	水曜日 15:00~17:00 研究室(西館 308号室)

テキスト	『小学校家庭科の指導』 中間美佐子、多々納道子 建帛社 2010年 2,200円 (ISBN:978-4-7679-2098-6) 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 文部科学省 株式会社東洋館出版社 最新版 90円 (ISBN:978-4-491-02374-8)
参考文献等	適宜プリントを配布
成績評価基準	家庭生活に必要な基礎的知識や指導法を習得し、より快適な家庭生活を送る方法を積極的に考え、的確な指導ができると判断された場合は、合格とする。
成績評価の方法	定期試験(60%)や課題レポート(30%)、受講態度(10%)により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	体育		
担当者	黒原 貴仁		
授業形式	演習	科目ナンバー	111
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	<p>幼児期および児童の発育発達に即した運動の内容について、実技を通じて理解を深める。また、実践力と指導および援助の能力を培う。取り扱う内容は、小学校学習指導要領の体育科の内容として示されている内容を中心とし、主に種々の運動遊びや、体づくり運動、器械運動系、陸上運動系、表現運動系、ボール運動系などから取り扱う。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動遊びや運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。 2. グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。 3. 運動遊びや各種運動の基礎的な技能を身につけることができる。 4. 運動遊びや運動の指導法について理解を深めることができる。 		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション(体育および運動遊びの意義について)	黒原	
第2回	実技演習1(幼児期の運動遊び)	黒原	
第3回	実技演習2(体づくり運動:体ほぐしの運動)	黒原	
第4回	実技演習3(体づくり運動:多様な動きをつくる運動)	黒原	
第5回	実技演習4(器械運動系:マット運動)	黒原	
第6回	実技演習5(器械運動系:跳び箱運動)	黒原	
第7回	実技演習6(陸上運動系)	黒原	
第8回	ボールゲームの理解(対決状況に着目して)	黒原	
第9回	実技演習7(ボール運動系:ボールゲーム、鬼遊び)	黒原	
第10回	実技演習8(ボール運動系:ゴール型ゲーム)	黒原	
第11回	実技演習9(ボール運動系:ネット型ゲーム)	黒原	
第12回	実技演習10(ボール運動系:ネット型連携プレイによる簡易化されたゲーム)	黒原	
第13回	実技演習11(ボール運動系:ベースボール型)	黒原	
第14回	実技演習12(表現運動系)	黒原	
第15回	総括・まとめ	黒原	
事前・事後学習	参考資料等を熟読する 講義内容を振り返る		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応		
オフィスアワー	水曜日 10:35~12:55 研究室(体育館202号室)		
テキスト	小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年6月 文部科学省) 新版 体育科教育学入門(高橋健夫編著、大修館書店)		
参考文献等	誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり(鈴木直樹他著、教育出版)		
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動遊びや運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。 2. グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。 3. 運動遊びや各種運動の基礎的な技能を身につけることができる。 4. 運動や運動遊びの指導法について理解を深めることができる。 		
成績評価の方法	定期試験(80%)、受講態度(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	外国語		
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	112
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校の外国語活動および外国語の授業を担当するための英語運用能力を理論と実践を通して高める。特に英語の各技能については毎回の課題、実践、小テストや発表のサイクルを用いて定着を図る。また言語習得や異文化コミュニケーションなどに関する基本的知識を習得し、実際に授業において活用できるようになる。授業外学習でHi, FriendsとWe Canの内容を理解し、課題を提出する。		
授業の到達目標	小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語の聞く力、話す力(やり取り・発表)、読む力、書く力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法等)、第二言語習得の基本的な理論、児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)の収集法や活用法、異文化理解の理論などについて理解する。		
授業計画			担当者
第1回	目標設定とCan-Doリストの作成	生田	
第2回	英語の基本的な知識(音声、語彙)	生田	
第3回	英語の基本的な知識(文構造、文法、正著等)	生田	
第4回	授業実践に必要な聞く力、話す力	生田	
第5回	授業実践に必要な読む力、書く力	生田	
第6回	児童と言語習得理論	生田	
第7回	言語習得の順序	生田	
第8回	言語習得理論を活かした授業計画	生田	
第9回	英語のゲーム等の収集と活用法	生田	
第10回	英語ゲームを用いた活動	生田	
第11回	英語の絵本、歌、詩等の収集と活用法	生田	
第12回	英語絵本を用いた活動	生田	
第13回	異文化理解の基礎的知識	生田	
第14回	授業への文化的アプローチ	生田	
第15回	授業の振り返りとCan-Doリストを用いた自己評価	生田	
事前・事後学習	外国語の教科書に用いられる英語表現について学習をする。また外国語に関する各種の事前課題に取り組む。 外国語に関する事後課題に取り組む。授業内容をふりかえり、外国語に関する知識を整理する。		
課題に対するフィードバックの方法	コメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。		
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。		
オフィスアワー	金曜日 14:40~16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 東洋館出版社 2018 201円 (ISBN:978-4-304-05168-5) 『Let's Try 1』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 (ISBN:978-4-487-25870-3) 『Let's Try 2』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 (ISBN:978-4-487-25871-0) 『New Horizon Elementary Course 5』 東京書籍 2019 金額未定 ISBN未定 『New Horizon Elementary Course 6』 東京書籍 2019 金額未定 ISBN未定		
参考文献等	小学校学習指導要領平成29年告示解説 外国語活動・外国語編 開隆堂 2018 128円 (ISBN:978-4304051685)		
成績評価基準	外国語活動、外国語科目に関する基礎的な知識を習得すること。		
成績評価の方法	定期試験(50%)、毎時間ごとの課題(50%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	理科指導法		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	演習	科目ナンバー	113
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	学習指導要領に示された各学年の目標・内容。指導上の留意点、評価の方法を学ぶ。また、学習指導案の作成及び模擬授業を通して実践力を高める。		
授業の到達目標	1. 小学校理科の教育目標、それぞれの区分における育てるべき資質・能力を理解することができる。 2. 見通しを持った観察や実験を行う段階で、児童の学習への構造化の一貫性を考慮した授業内容について理解する。 3. 模擬授業を通して授業改善の視点について理解する。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション(小学校理科の全体目標)	横峯	
第2回	小学校の各学年の目標(小学校理科教科書を用いて)	横峯	
第3回	小学校理科の区分(A区分、B区分の取り扱い)	横峯	
第4回	学習指導案の作成について	横峯	
第5回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例 物理編	横峯	
第6回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例 化学編	横峯	
第7回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例 生物編	横峯	
第8回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例 地学編	横峯	
第9回	小学校理科の導入について(提示)	横峯	
第10回	小学校理科の導入について(考察)	横峯	
第11回	第3学年の内容の模擬授業の実施	横峯	
第12回	第4学年の内容の模擬授業の実施	横峯	
第13回	第5学年の内容の模擬授業の実施	横峯	
第14回	第6学年の内容の模擬授業の実施	横峯	
第15回	総括(中学校理科への接続について)	横峯	
事前・事後学習	小学校「理科」の教科書及び学習指導要領に目を通し、内容を振り返ってもらいたい。 講義毎に配布する資料に目を通し、内容理解に努めてほしい。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領』(平成29年3月公示 文部科学省) 『小学校学習指導要領解説 理科編』(平成29年6月 文部科学省)		
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する		
成績評価基準	授業中に配布した資料内容をふまえた指導案作成ができていますか		
成績評価の方法	最終レポート課題 小学校理科学習指導案の作成(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	生活科指導法		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	演習	科目ナンバー	114
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、生活科の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は模擬授業の作成・実施・討論・振り返りをとおして、生活科の実践力を高める。		
授業の到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業計画		担当者	
第1回	イントロダクション(本授業の目的説明、学生在生活科教育体験の振り返り。)		松崎
第2回	「学校、家庭及び地域の生活に関わること」の目標及び内容と指導上の留意点		松崎
第3回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の目標及び内容と指導上の留意点(指導要領(4)～(6)の内容)		松崎
第4回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の目標及び内容と指導上の留意点(指導要領(7)～(8)の内容)		松崎
第5回	「自分自身を見つめること」の目標及び内容と指導上の留意点		松崎
第6回	生活科の学習評価の考え方		松崎
第7回	背景となる心理学や人文・社会・自然諸科学を踏まえた教材研究の在り方		松崎
第8回	子どもや学校、地域の実態を視野に入れた授業設計		松崎
第9回	生活科における情報機器及び教材の効果的な活用		松崎
第10回	模擬授業テーマに向けた授業設計及び学習指導案の作成		松崎
第11回	「学校、家庭及び地域の生活に関わること」の模擬授業の実施と振り返り		松崎
第12回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の模擬授業の実施と振り返り①(主に指導要領(4)～(6)の内容)		松崎
第13回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の模擬授業の実施と振り返り②(主に指導要領(7)・(8)の内容)		松崎
第14回	「自分自身を見つめること」の模擬授業の実施と振り返り		松崎
第15回	生活科教育の全体目標を踏まえた総括		松崎
事前・事後学習	指導要領解説の該当部分を読んでおくこと。 定期試験に向けて総復習を行うこと。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日 14:30～16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』 文部科学省 東洋館出版社 2018年 134円(税抜き) (ISBN:978-4-491-03464-5)		
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育10 初等生活科教育』 片平克弘・唐木清志編著 ミネルヴァ書房 2018年 ほか		
成績評価基準	・生活科の目標や内容を理解している。・生活科の授業設計及び実践をできる基礎的な能力を有している。		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	家庭科指導法		
担当者	大倉 洋代		
授業形式	演習	科目ナンバー	115
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	家庭科の独自性を踏まえ、総合的性格を持つ「生活」を対象とする教科のため、「課題を解決するために工夫し創造できる能力」と「実践的態度」の育成を重視する。さらに他教科との学習状況を十分把握して、関連付けながら学習を進める。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭科教育の変遷を辿り、時代による家庭科教育の内容や特徴を理解する。 2. 児童の生活をより良くしようとする実践的な態度を育てるための指導力を育成する。 3. 生活を科学的にみつめる生活知と科学知を育成する。 4. 家族や地域社会の人々と共生できる人間像を養う。 5. 教師としての基本的資質、使命感、教育的情熱を育成する。 		
授業計画			担当者
第1回	学校家庭科の歴史の変遷(男女共に学ぶ教科としての展開まで)		大倉
第2回	小学校家庭科の特徴(児童の発達段階と関連して)		大倉
第3回	小学校家庭科の学習指導要領		大倉
第4回	小学校家庭科の指導案作成について指導案の書き方		大倉
第5回	小学校家庭科の指導内容1(家庭生活と家族で家族をどのように教えるか)		大倉
第6回	小学校家庭科の指導内容2(身近な消費生活と環境において目指す持続可能な社会とは)		大倉
第7回	小学校家庭科の指導方法(児童の活動を主体とした授業展開及びICTの活用)		大倉
第8回	指導方法(生活に必要な知識と技能の定着について)		大倉
第9回	小学校家庭科の指導案作成教材研究の方法(教材研究のための資料収集)		大倉
第10回	模擬授業1(日常の食事と調理の基礎を事例に)		大倉
第11回	模擬授業2(快適な衣服と住まい作りを事例に)		大倉
第12回	小学校家庭科の評価(真正な教科を行うために、自己評価の活用)		大倉
第13回	授業改善の方法(反省的に実践することについてカリキュラム評価、授業評価の視点から)		大倉
第14回	家庭科をとりまく課題(食育、金銭教育、環境教育との関連など)		大倉
第15回	まとめ・小学校家庭科を教えるために他の教科との関連、体験的な活動の重要性について理解する		大倉
事前・事後学習	日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。		
課題に対するフィードバックの方法	授業と生活の結合、理論と実践の統一、具体性の原理、わかりやすさの原理、知識・能力の定着化の原理など、授業改善の視点として参考にする。		
質問・相談方法	個人指導の実施		
オフィスアワー	金曜日 16:15~18:10 非常勤講師室及び講義室(本館402号室)		
テキスト	『小学校指導要領解説 家庭編』 文部科学省 東洋館出版社 2018年 (ISBN-13: 978-4491034669) 『わたしたちの家庭科 小学校5・6』 開隆堂 (ISBN-13: 978-4304080647)		
参考文献等	『小学校家庭科の指導』 中間美佐子・多々納道子著 建帛社 (ISBN-13: 978-4767920986)		
成績評価基準	実践的・体験的な学習活動で「知識・理解」、「関心・意欲・態度」、「相違・工夫」等の観点を見取ることにより、学習への関心の高まりや思考の深まりができたことと理解し、評価において6割以上の得点を合格とする。		
成績評価の方法	定期試験60分(40%)、毎時間の課題レポート(40%)、授業中の討議、発表への参加態度等(20%)による総合評価		
GPA基準			
備考			

科目名	体育科指導法		
担当者	黒原 貴仁		
授業形式	演習	科目ナンバー	116
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校体育授業を行う上での基礎となる理論に裏付けられた実践を通して、体育科の学習指導の在り方について自らの課題を持ち教師としての資質向上を目指す。また、体育科教育の学問的性格及び体育科の目標論、内容論、方法論、評価論などについて概括的理解を目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における体育科の目標及び内容並びに全体構造を理解している。 2. 体育の基礎理論及び体育科独自の教師像を理解することができる。 3. 学習指導要領解説体育編に示された運動領域について理解することができる。 4. 各運動領域の内容及び機能的特性・構造的特性・効果的的特性を理解することができる。 5. 体育の授業づくりの視点を明確にし児童の実態に即した単元計画を立案し、指導案の作成ができる。 6. 模擬授業を行い自らの実践を省察することができる。 		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション・体育科教育で学ぶこと	黒原	
第2回	学校体育の史的変遷	黒原	
第3回	体育科の目標論及び内容論	黒原	
第4回	体育科の学習形態論と学習過程論	黒原	
第5回	体育科の評価論	黒原	
第6回	体育科教師に求められる運動観察の観点	黒原	
第7回	体育科の内容論及び運動の特性	黒原	
第8回	体育におけるカリキュラム編成と授業マネジメント	黒原	
第9回	体育授業における教材及び教具について(ICTの活用を含む)	黒原	
第10回	体育科の指導案づくりの基礎知識	黒原	
第11回	模擬授業と振り返り①: 体づくり運動系	黒原	
第12回	模擬授業と振り返り②: 器械運動系・表現運動系	黒原	
第13回	模擬授業と振り返り③: 陸上運動系・ボール運動系(ベースボール型)	黒原	
第14回	模擬授業と振り返り④: ボール運動系(ゴール型)	黒原	
第15回	模擬授業と振り返り⑤: ボール運動系(ネット型)	黒原	
事前・事後学習	参考資料等を熟読する 講義内容を振り返る		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応		
オフィスアワー	火曜日 12:05～12:30 講義室(405号室)		
テキスト	小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年6月 文部科学省) 新版 体育科教育学入門(高橋健夫編著、大修館書店)		
参考文献等	『誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり』 鈴木直樹他著 教育出版 1,800円(税抜き) (ISBN:978-4-316-80232-9)		
成績評価基準	体育科の目標及び内容を理解し、体育の基礎理論及び体育科独自の教師像を理解することができる。 授業づくりの視点を明確にした単元計画を立案し、指導案の作成及び模擬授業で自らの実践を省察することができる。		
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業途中のレポート(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	外国語指導法		
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	117
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	小学校の外国語教育の背景、小中連携、外国語の指導環境などについて理解を深めた上で、それらの知識を活かした授業観察や授業体験から指導技術を学び、模擬授業や振り返りを通して授業造りの知識・技術を習得する。また授業内の短時間学習と授業外課題でクラスルームイングリッシュを習得する。		
授業の到達目標	小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。また児童への語りかけ方、児童の発話の引き出し方、文字言語の合わせ方など、実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。最終的には教材研究、指導案作成、ICTの活用、学習状況の評価などを踏まえた模擬授業と振り返りを通し、実際の授業作りに必要な知識・技術を身に付ける。		
授業計画		担当者	
第1回	ミニ模擬授業と振り返り	生田	
第2回	授業観察と他教科との連携	生田	
第3回	授業体験とICT活用	生田	
第4回	小学校外国語の授業に必要な技能と目標設定	生田	
第5回	外国語教育の背景と概要	生田	
第6回	指導環境、児童、学校などの多様性と事例紹介	生田	
第7回	小中高の外国語および小中連携	生田	
第8回	チームティーチングと学習評価	生田	
第9回	主教材と教材研究	生田	
第10回	学習目標の設定と指導計画作り	生田	
第11回	発話とやり取りの工夫	生田	
第12回	外国語活動の模擬授業と振り返り	生田	
第13回	書くことへの指導	生田	
第14回	外国語科目の模擬授業と振り返り	生田	
第15回	授業の振り返りとCan-Doリストを用いた自己評価	生田	
事前・事後学習	外国語の教科書に用いられる英語表現について学習をする。また外国語に関する各種の事前課題に取り組む。外国語に関する事後課題に取り組む。授業内容をふりかえり、外国語に関する知識を整理する。		
課題に対するフィードバックの方法	コメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。		
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。		
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年3月公示)解説 外国語活動・外国語編』開隆堂 2018 128円 (ISBN:978-4-304-05168-5) 『Let's Try 1』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 (ISBN:978-4-487-25870-3) 『Let's Try 2』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 (ISBN:978-4-487-25871-0) 『New Horizon Elementary Course 5』 東京書籍 2020 金額未定 ISBN未定 『New Horizon Elementary Course 6』 東京書籍 2020 金額未定 ISBN未定		
参考文献等	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック(文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 外国語編 (平成29年6月 文部科学省)		
成績評価基準	外国語を教えるための基礎的な知識を習得し、実際に模擬授業を通して外国語の授業を実施し、振り返りができること。		
成績評価の方法	最終レポート(50%)、毎時間ごとの課題(50%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	幼児と人間関係		
担当者	本田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	118
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	1. 乳幼児をとりまく現代的問題とその背景を説明する。 2. 人間関係の発達および社会性の発達について心理学的な理論を説明する。		
授業の到達目標	1. 乳幼児期の重要性を理解するとともに、現代の乳幼児の人間関係に関わる諸問題を理解し、それに対する幼稚園・保育所・認定こども園の役割について説明できる 2. 乳幼児期の大人との関係性及び仲間関係の重要性について説明できる 3. 自己の発達とともに、社会性の発達を促す仲間関係の影響について説明できる 4. 家族や地域との関わりにおける人間関係の発達とその意味を説明できる なお授業では、課題の達成のために、討議、グループワーク、発表などの活動を取り入れ、情報機器による情報検索や保育での活用方法を学ぶ		
授業計画			担当者
第1回	領域「人間関係」のねらいと内容について理解する		本田
第2回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達について理解する		本田
第3回	遊びの中の人とのかかわりの育ちについて理解する		本田
第4回	人とのかかわりを支える保育者の役割について理解する		本田
第5回	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」について理解する		本田
第6回	インリアル・アプローチを通して「ちょっと気になる子ども」の具体的なかかわりについて理解する		本田
第7回	人とのかかわりを支え広げる実践について理解する		本田
第8回	領域「人間関係」における今日的課題について理解する		本田
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日16:30～18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』 菊池篤子 みらい 2018年 2,200円(税抜き) (ISBN:978-4-86015-466-0) 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 240円(税抜き) (ISBN:978-4577814475) 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 2018年 320円(税抜き) (ISBN:978-4577814482) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円(税抜き) (ISBN:978-4577814499)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	幼児期の大人との関係性や中間関係の重要性を理解すること 自己の発達とともに社会性の発達を促す仲間関係の影響について理解すること 家族や地域との関わりにおける人間関係の発達を理解すること		
成績評価の方法	定期試験(80%)、ミニレポート提出及び授業参加態度(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	幼児と環境		
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	演習	科目ナンバー	119
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	主に保育内容(環境)の理論を行うことができるように実践力を高める。とくに実際の環境を見ながら自ら幼児の環境について考えることができるようにする。		
授業の到達目標	保育内容(環境)において一般的な幼児の育ちの姿、保育者の果たすべき役目について学んだことを踏まえて、幼児期の環境として保育者が考えなければならないことを想定し実践できるようになる。また、保育者として現代の幼児の取り巻く環境としての問題点について説明することができる。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(保育内容(環境)で学んだこと)		横峯
第2回	現代社会の中における幼児の環境とその課題について		横峯
第3回	幼児に身近ないきもの(動物、植物)の栽培・飼育方法としての事例と実際		横峯
第4回	身近な自然物を用いた制作活動(春・夏)		横峯
第5回	身近な自然物を用いた制作活動(秋・冬)		横峯
第6回	大学近辺に存在する、幼児にとって身近な標識・文字		横峯
第7回	大学近辺に存在する地域施設とそこにおける幼児の体験の想定		横峯
第8回	現代社会の中における幼児の環境とその課題について考察する		横峯
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	講義を参考に関連する絵本を図書館などで探して読むこと。 講義を踏まえて教材研究等を行ってほしい。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号室)		
テキスト	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『保育所保育指針』(平成29年3月公示 厚生労働省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省)		
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する		
成績評価基準	レポート課題の内容が講義内容に則したものになっているか		
成績評価の方法	毎回授業後に実施するレポート課題(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	保育内容総論		
担当者	丸田 愛子		
授業形式	演習	科目ナンバー	120
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免・保育士証		
授業の概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領を概説し、子どもの発達を捉える。近年の教育・保育実践の動向を踏まえた上で、各領域の特性を考慮した保育の方法の工夫について明らかにする。情報機器等を用いた保育実践を示し、保育指導計画案の作成、実践、評価、改善について講義する。これらの学習をとおして、教育・保育構想の向上に努めることができるようにする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達の特性を保育内容の観点から捉え、保育実践の動向を踏まえた指導法を構築できる 2. 実践的な活動を通して、教育・保育指導計画案作成による構造の理解及び評価、改善について探求できる 3. 情報機器及び教材を活用した教育・保育の実践を工夫することができる 		
授業計画		担当者	
第1回	保育施設の目的及び保育の基本的な考え方について学ぶ	丸田	
第2回	指針と要領をもとに、資質能力及び保育のねらいと内容を整理する	丸田	
第3回	乳児保育、1, 2歳児の保育、3, 4, 5歳児の保育の内容について整理する	丸田	
第4回	教育課程及び全体的な計画の役割について学習する	丸田	
第5回	保育施設におけるカリキュラム・マネジメント及び小学校への接続を理解し、保育の質の向上を捉える	丸田	
第6回	特別な配慮を必要とする乳幼児の就学への接続を踏まえ、一人ひとりに応じた対応を学ぶ	丸田	
第7回	保育の健康及び安全について理解する	丸田	
第8回	長期指導計画及び短期指導計画について学習する	丸田	
第9回	教育・保育実習の概要をまとめ、実習記録と観察記録について学習する	丸田	
第10回	各領域の実践の動向を調べ、情報機器及び教材を活用した実践を学び、保育指導案作成に活かす	丸田	
第11回	情報機器及び教材を活用した実践をまとめ、保育計画(指導案)の記載事項とねらいの書き方を学ぶ	丸田	
第12回	保育計画(指導案)の中心的活動及び日課と保育者の援助、環境構成の書き方を学ぶ	丸田	
第13回	情報機器及び教材を活用し、保育計画(指導案)を立案に取り組む	丸田	
第14回	保育計画に基づき模擬保育をし実施し、主体的・対話的な深い学びを実現する	丸田	
第15回	模擬保育の体験を学びの共有を意識しながら自己評価及び改善しまとめる	丸田	
事前・事後学習	参考資料等を熟読する 配布資料を整理する 毎授業後にはレポートを提出すること		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れる。個別に指導添削をする。		
質問・相談方法	授業前後の時間及びオフィスアワーに質問・相談に応じる		
オフィスアワー	火曜日 14:40～17:55 研究室(西館403号室)		
テキスト	『保育の原理・内容・実践』 無藤 隆編 ミネルヴァ書房 2014 『幼稚園教育要領解説』(平成29年3月告示 文部科学省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省) 『保育所保育指針』(平成29年3月告示 厚生労働省)		
参考文献等	0～6歳子どもの発達と保育の本(河原紀子監修、2011、学研プラス) 鹿児島女子短期大学児童教育学科教育実習の手引 実習指導案・実習日誌・附属幼稚園教育課程・配布資料		
成績評価基準	教育・保育の指導法、指導計画立案を理解し、教育・保育の実践を工夫する		
成績評価の方法	レポート等の提出課題の達成(80%)、授業中の討議・発表への参加(20%)による総合評価とする		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	保育内容(健康)の指導法		
担当者	大村 一光		
授業形式	演習	科目ナンバー	121
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	領域「健康」での学びや、幼稚園教育要領に示す5領域「健康」の位置づけについて再確認し、子どもの発育や、運動、遊びを通しての学習の重要性を理解する。その際、これまで実施してきた教育実習での学びとともに、学生間のグループ学習や情報交換を通して、より実践的な保育指導のあり方を学ぶ。		
授業の到達目標	幼稚園教育要領に示された健康領域のねらい及び内容について理解を深めることで、乳幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、乳幼児の発達について、主体的学びができるようにするとともに、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けられるようにする。		
授業計画			担当者
第1回	領域「健康」のねらいの確認と保育内容「健康」の内容		大村
第2回	子どもの健康問題に関する課題(実習からみえる体の発達、生活習慣の気づき)		大村
第3回	子どもの健康問題に関する課題(実習からみえる運動発達と基礎的運動能力の気づき)		大村
第4回	子どもの健康問題に関する課題(まとめと関連サイト紹介及び活用の仕方)		大村
第5回	子どもの運動能力の発達と小学校体育との関連性		大村
第6回	運動の発達とその評価(実習での観察を参考にして)		大村
第7回	保育計画における健康の留意点(春、夏編)		大村
第8回	保育計画における健康の留意点(秋、冬編)		大村
第9回	ICT(ビデオ視聴など)を用いた「健康」の捉え方と指導案作成		大村
第10回	小型遊具を中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)		大村
第11回	大型遊具を中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)		大村
第12回	素材遊びを中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)		大村
第13回	伝承遊びを中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)		大村
第14回	安全対策(リスクとハザードについて実習園をもとに考察)		大村
第15回	保育指導案にみる「健康」教育のまとめ(各自の実習時の指導案をもとにまとめ)		大村
事前・事後学習	これまでの実習のふり振り返りから健康領域について整理する 健康のとらえ方や、グループ学習から保育の構想を再考する		
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室)		
テキスト	『すこやかな子どもの心と体を育む第2版』井上勝子編 建帛社 2010 2,350円 (ISBN10: 4767932688)		
参考文献等	幼稚園教育要領解説(平成29年3月 文部科学省) 保育所保育指針ハンドブック(汐見稔幸監修、Gakken) 幼保連携型認定こども園教育・ほいく要領ハンドブック(無藤隆監修、Gakken)		
成績評価基準	子どもの健康問題に関する現代的課題及び教育現場の実情を踏まえ、発展的思考ができるようにする		
成績評価の方法	定期試験(60%)、授業中のディスカッション内容(40%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	保育内容(人間関係)の指導法		
担当者	本田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	122
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免・保育士証		
授業の概要	<p>1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、各内容を乳幼児が身に付けるための、指導・援助について説明する。</p> <p>2. 領域「人間関係」のねらいと内容と、育みたい資質能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を説明する。</p> <p>3. 子どもの発達段階に沿った指導をするための具体的な保育を想定した、観察記録や指導案の作成の仕方を講義する。</p> <p>なお授業では、課題の達成のために、討議、グループワーク、発表などの活動を取り入れ、情報機器による情報検索や保育での活用方法を講義する。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を説明できる</p> <p>2. 幼児の発達に即して、領域「人間関係」の内容の取扱いに基づき、具体的な場面を想定した保育を行う力を身に付ける</p> <p>3. 育みたい資質能力について理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮した保育を説明できる</p>		
授業計画		担当者	
第1回	育みたい資質能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と「人間関係」を関係づけて理解する	本田	
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容について全体構造を理解する	本田	
第3回	自律性と自立の発達を促す、指導法とその留意点を理解する	本田	
第4回	友達とかかわりを深め、共感性の発達や他者理解を促す指導やその留意点を理解する	本田	
第5回	いざこざや葛藤の指導と協働的遊びを促す指導とその留意点を理解する	本田	
第6回	道徳性の発達を促す指導やその留意点を理解する	本田	
第7回	公共性や規則きまりの大切さに気付き、守ろうとする態度を育てる指導法や留意点を理解する	本田	
第8回	地域の人々に親しみを持つための指導法やその留意点について理解する。	本田	
第9回	小学校との接続を進めるための保育案が作成できる	本田	
第10回	教材の研究を行い保育に生かすことができる	本田	
第11回	領域「人間関係」に関わる指導案の構造を理解し、作成することができる	本田	
第12回	模擬保育やロールプレイなどを通して、保育の課題と改善の方法を身に付ける	本田	
第13回	保育現場における情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる	本田	
第14回	保育実践の資料を読み、現代的な問題とその動向と研究について、自分の保育に生かすことができる	本田	
第15回	「人間関係」に関する保育の評価の考え方を理解する	本田	
事前・事後学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	『新版 実践保育内容シリーズ2 人間関係』 谷田眞監督 一藝社 2018年 2,000円(税抜き) (ISBN:978-4-86359-157-8) 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 240円(税抜き) (ISBN:978-4577814475) 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 2018年 320円(税抜き) (ISBN:978-4577814482) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円(税抜き) (ISBN:978-4577814499)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解すること 幼児の発達に即して、具体的な保育の在り方について理解すること 育みたい資質能力について理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮した保育を理解すること		
成績評価の方法	定期試験(80%)、ミニレポート提出及び授業参加態度(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	教育課程・保育計画の意義と編成・評価		
担当者	丸田 愛子		
授業形式	講義	科目ナンバー	123
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免・幼教免・保育士証		
授業の概要	教育課程と保育課程の目的及び社会的背景を踏まえた変遷を捉え、編成の基本的な考え方を学ぶ。教科や領域を超えた学校全体の教育課程の重要性を理解し、カリキュラム評価の基本的な考え方を習得する。		
授業の到達目標	1、教育課程と保育計画、各指導計画の意義、種類、構成など基本的な知識を習得する 2、乳幼児期から児童期に関する長期短期的な指導計画を立案する力を養う 3、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性を理解する		
授業計画		担当者	
第1回	カリキュラムの基礎理論	丸田	
第2回	教育課程と保育の全体的な計画の意義	丸田	
第3回	学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷と教育・保育の社会背景や思想	丸田	
第4回	学習指導要領にみる学校教育における計画の必要性	丸田	
第5回	幼稚園教育要領にみる幼稚園教育における計画の必要性	丸田	
第6回	保育所保育指針にみる保育所保育における計画の必要性	丸田	
第7回	サンプル分析を通じた教育課程の編成	丸田	
第8回	サンプル分析を通じた保育の全体的な計画	丸田	
第9回	教育・保育における教育課程・保育の全体的な計画の評価と改善	丸田	
第10回	長期・短期的な教育・保育計画の作成	丸田	
第11回	特別な配慮を必要とする乳幼児・児童についての支援計画	丸田	
第12回	教育課程をもとにICTを活用した教育の計画について作成と検討	丸田	
第13回	保育の全体的な計画をもとにICTを活用した保育の計画について作成と検討	丸田	
第14回	学校教育及び幼稚園教育における教育課程のカリキュラム・マネジメントの意義と重要性	丸田	
第15回	学校教育課程及び保育の全体的な計画のカリキュラム・マネジメントをすることの意義	丸田	
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 配布プリントは、資料として整理し学習内容を予習する 各保育施設の実習における保育記録及び指導計画案について課題点をまとめる 授業後はまとめシートを提出する 		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で要点を解説する。指導計画立案及び保育記録の作成は、個別に添削指導をする。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する		
オフィスアワー	火曜日 14:40～17:55 研究室(西館403号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領』(平成29年3月 文部科学省)、『保育所保育指針』(平成29年3月公示 厚生労働省)、『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示 文部科学省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省)、『保育の原理・内容・実践』(無藤 隆編、ミネルヴァ書房、2014)		
参考文献等	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科(編) 『教育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)		
成績評価基準	教育課程と保育計画、各指導計画の基本的な知識を習得し、カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育・保育の計画を立案できる		
成績評価の方法	定期試験(60%)、第9回と第12回の課題提出状況(40%) による総合評価		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	道徳教育の指導法		
担当者	村若 修		
授業形式	演習	科目ナンバー	124
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	前半では、学習指導要領の理解と学習指導案の作成、模擬授業の実施を通じて、道徳教育の指導力を養成し、実習に備える。後半では、日本の道徳教育の歴史や課題、道徳性発達の理論、道徳理論(倫理学)を学び、道徳性と道徳教育の本質について考え、認識を深める。		
授業の到達目標	学校における道徳教育の目標、そのために必要な資質と能力を理解し、学習指導要領に示された内容と指導法について実践能力を培うとともに、教育史や倫理学、心理学の知識を補うことにより、道徳性と道徳教育の本質について考え、認識を深める。		
授業計画			担当者
第1回	「特別の教科 道徳」の目標及び内容		村若
第2回	学校の教育活動全体を通じた道徳教育とその指導計画		村若
第3回	道徳科の指導方法と教材の多様性(情報機器の活用を含む)		村若
第4回	道徳科の学習指導案作成・道徳科の評価		村若
第5回	模擬授業と振り返り(主として自分自身に関する事)		村若
第6回	模擬授業と振り返り(主として人との関わりに関する事)		村若
第7回	模擬授業と振り返り(主として集団や社会との関わりに関する事)		村若
第8回	模擬授業と振り返り(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事)		村若
第9回	小学校教育実習の振り返り(実習校での道徳教育の取り組みについて)		村若
第10回	日本の道徳教育の歴史		村若
第11回	現代の道徳教育の課題(いじめや情報モラルを中心に)		村若
第12回	子どもの道徳性の発達		村若
第13回	倫理学と道徳教育(カント倫理学と功利主義を中心に)		村若
第14回	倫理学と道徳教育(徳倫理学とケア倫理学を中心に)		村若
第15回	「道徳教育」の本質再考		村若
事前・事後学習	模擬授業の準備等、事前課題 振り返りレポートの作成等、事後課題		
課題に対するフィードバックの方法	ミニツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニツペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。		
オフィスアワー	火曜日 15:00~17:00 研究室(西館410号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領解説』特別の教科道徳編(平成29年6月 文部科学省)		
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する		
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること		
成績評価の方法	定期試験(80%)、模擬授業の発表内容及び第5回から第8回の振り返りレポート(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	総合的な学習の時間の指導法		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	演習	科目ナンバー	125
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は指導計画の作成・討論・振り返りをとおして、総合的な学習の時間の単元を構成する力を高める。		
授業の到達目標	総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。		
授業計画			担当者
第1回	イントロダクション(本授業の目的についての説明、小学校等の実践の振り返り)		松崎
第2回	総合的な学習の時間の目標と意義		松崎
第3回	総合的な学習の時間を踏まえたカリキュラム・マネジメント		松崎
第4回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(1)(横断的・総合的な課題)		松崎
第5回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(2)(地域や学校の特色に応じた課題)		松崎
第6回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(3)(児童の興味・関心に基づく課題)		松崎
第7回	総合的な学習の時間における体験活動の意義		松崎
第8回	総合的な学習の時間におけるICTの活用		松崎
第9回	総合的な学習の時間における施設等の活用		松崎
第10回	探究的な学習の過程		松崎
第11回	総合的な学習の時間の評価		松崎
第12回	総合的な学習の時間の年間指導計画の事例		松崎
第13回	総合的な学習の時間の単元計画の作成		松崎
第14回	単元計画の発表と討論		松崎
第15回	これからの総合的な学習の時間の在り方		松崎
事前・事後学習	指導要領解説の指定部分を読んでおく 図書館等で参考文献を探し、単元計画作成に備える 定期試験に向けて総復習を行う		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日 14:30~16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』文部科学省 東洋館出版社 2018年 126円(税抜き) (ISBN:978-4-491-03468-3)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	総合的な学習の時間の目標や内容を理解している。 指導計画作成、実践のための基礎的な能力を有している。		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	特別活動の指導法		
担当者	山元 有一		
授業形式	演習	科目ナンバー	126
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	何より小学校における特別活動の内容、その目的を概略し、特に学級活動について具体的な授業実践について考えていく。		
授業の到達目標	特別活動は「なすことによって学ぶ」を前提としており、学級や学校の生活作りの共同作業を通して、より個性的でより社会的な成長を促進するものである。特に求められているのは、コミュニケーションの力、社会への積極的な関与の意思、生涯にわたる子どもの自己実現の意欲である。そのためには学生自身がそうした者にあらかじめなっていないなければならない。本講義では以上のことを、指導の在り方や方法を含めた特別活動の具体的な内容に沿って進めていく。		
授業計画		担当者	
第1回	特別活動の意義、目的——学校における生活作りとしての特活	山元	
第2回	特別活動の内容——小中の学習指導要領を用いて	山元	
第3回	学級活動(話し合い活動、係活動)	山元	
第4回	学級活動(図書館、食育)——教員のチーム化も踏まえて	山元	
第5回	児童会活動——学校における自治組織の在り方	山元	
第6回	クラブ活動——学外にまで達する異年齢交流の観点も含めて	山元	
第7回	学校行事——5種類の学校行事とその意義	山元	
第8回	特別活動と他の教科との関連性——特別教科道徳との関連性を踏まえて	山元	
第9回	特別活動の具体的な指導法(学級活動)——合意形成はいかにして可能か?	山元	
第10回	特別活動の具体的な指導法(学級活動を除く)——他の教科の指導法との関連で	山元	
第11回	特別活動での子どもたちの取組みに教員はいかに関わり、それをいかに評価するか?	山元	
第12回	個性の伸長と集団の一員の自覚——社会性の捉え直し、民主主義の理解	山元	
第13回	特別活動と家庭・地域(郷土)・社会——外部にフィードバックされる特活	山元	
第14回	日本人としての自覚と特別活動	山元	
第15回	特別活動の新しい実践的課題について——国際的視点から見て	山元	
事前・事後学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。		
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く 15:00～17:00(西館4階406号室) 要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)		
テキスト	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』(平成29年6月 文部科学省)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	講義期間中に小学校教育実習があるので、それを踏まえること		
成績評価の方法	レポートにより評価する(100%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	幼児理解		
担当者	宮里 新之介		
授業形式	講義	科目ナンバー	127
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修: 幼教免、保育士証		
授業の概要	幼児期の発達に関する知識と臨床心理学をベースに、幼児期に現れる様々な問題行動(つまづきの表れ)への基礎的理解を深める。また事例問題を通して、問題行動を呈している幼児やその保護者にどのように対応するかを根拠に基づいて考えるワークを行う。		
授業の到達目標	幼児期のつまづきの表れとしての問題行動について学び、幼児の呈している問題の背景を考え、仮説を立て、幼児及び保護者への対応方法を考える基礎を身につける。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション／保育臨床とは		宮里
第2回	現代社会の子どもの育ちと親の傾向		宮里
第3回	幼児期の発達と遊び		宮里
第4回	臨床心理学的視点とは何か		宮里
第5回	観察と記録(個別的視点と集団的視点)		宮里
第6回	子どものつまづきの理解(反社会的行動)		宮里
第7回	子どものつまづきの理解(非社会的行動)		宮里
第8回	子どものつまづきの理解(神経症的行動)		宮里
第9回	子どものつまづきの理解(生活習慣に表れる問題行動)		宮里
第10回	様々なつまづきへの対応を考える(事例の検討: 反社会的行動と非社会的行動)		宮里
第11回	様々なつまづきへの対応を考える(事例の検討: 神経症的行動と生活習慣上の問題行動)		宮里
第12回	保護者への支援(育児不安と児童虐待)		宮里
第13回	保護者への支援(教育相談: 共感的理解と受容・傾聴)		宮里
第14回	現場でぶつかる諸問題		宮里
第15回	全授業を通しての質疑・応答		宮里
事前・事後学習	参考資料等を熟読する 前回の授業の理解度をチェックするためのミニテストを実施することがあるので授業の復習を行うこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。		
オフィスアワー	木曜日 10:35～12:05 研究室(本館312号室)		
テキスト	『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育臨床相談』小田豊他著 北大路書房 2018年 1700円(税別) (ISBN:978-4-7628-2658-0)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	幼児期のつまづきの表れである“問題行動、の背景に、どのような原因が考えられるのか、その基礎的知識に基づいて対応の仕方を考えることができること。		
成績評価の方法	定期試験(80%)、毎時間の課題レポート(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	教育相談		
担当者	松元 理恵子		
授業形式	講義	科目ナンバー	128
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー		
授業の概要	子どもの心の問題を理解しどのように対応していけばよいか、自己理解、他者理解を深め、成長をしていくことを支援する教育相談の基礎的な理論と具体的な方法について説明する。また、家庭の教育や地域社会の機能低下等を概観し、教師として子ども、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのか、基礎的な知識や理論および技法について学び、発達の状況に応じた相談活動の在り方を身につけることを目指す。		
授業の到達目標	1. 自己理解を深めながら、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動について学ぶ 2. 発達の状況に即しつつ、適切に捉えた個々の心理的特質や教育的課題について説明できる。 3. 支援に必要な基礎的な知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む)を身につける		
授業計画			担当者
第1回	教育相談の理論と方法(教育相談の意義と課題について学ぶ)	松元	
第2回	幼児、児童の行動の意味を理解する(不適応や問題行動について)	松元	
第3回	カウンセリングマインドについて(学校での教育相談の具体的すすめ方)	松元	
第4回	発達理解と相談・支援1(乳児期・幼児期への対応、保護者に対する教育相談の在り方)	松元	
第5回	発達理解と相談・支援2(学童期・思春期への対応、保護者に対する教育相談の在り方)	松元	
第6回	いじめに対する教育相談(事例検討)	松元	
第7回	不登校・不登園に対する教育相談(事例検討)	松元	
第8回	虐待、非行等に対する教育相談(事例検討)	松元	
第9回	保護者対応(保護者支援と方針の立て方、「親育ち」のための発達支援)	松元	
第10回	特別な支援、配慮が必要な子どもと保護者へのかかわり	松元	
第11回	危機に直面した子どもの心のケア(緊急時の対応)	松元	
第12回	発達段階にあわせた教育相談の計画の作成(職種や校務分掌に応じた教育相談の目標の立て方と進め方)	松元	
第13回	教育相談の具体的技法(受容、傾聴、共感的理解等)	松元	
第14回	社会資源の活用(校内体制、関係機関を学ぶ)	松元	
第15回	事例検討(子どものシグナルに気づき、アセスメントを学ぶ)	松元	
事前・事後学習	次の授業でとりあげるテーマについて、配布されたレジュメをもとに用語等を調べる 配布された資料やワークシートをレジュメと照合しながら整理する		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05~12:55 研究室(西館305号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011年 2,200円(税抜) (ISBN: 9784623959621) 『絶対役立つ教育相談 学校現場の今に向き合う』藤田哲也監修 ミネルヴァ書房 2017年 2,200円(税抜) (ISBN: 9784623081097)		
成績評価基準	教育相談に必要な基礎的な知識や発達状況に応じた相談活動の在り方を理解すること。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、講義で出した課題(レポート等)の提出状況(30%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	小学校教育実習指導		
担当者	松崎 康弘、内田 豊海		
授業形式	講義	科目ナンバー	129
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	
免許・資格情報	必修:小教免 選択必修:幼教免		
授業の概要	小学校教育実習の目的・意義や展開について学び、実際にどのようなことを行うかを理解して、実習に臨む意欲を高める。また、既習事項の復習や過去の実習事例の検討を通して、授業参観のポイントの理解や授業づくりに必要な技能の獲得を目指す。学習指導と同じく重要な柱である生活指導等についても理解を図る。さらに、実習に必要な手続きやマナー等についても理解し、実行できるようにする。		
授業の到達目標	1. 小学校教育実習の意義を理解し、実習に臨む意欲をもつ 2. 実習に必要な観察力や技能を習得する 3. 実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつ		
授業計画		担当者	
第1回	小学校教育実習の目的と意義を学ぶ	松崎・内田	
第2回	小学校教育実習の準備(書類作成等)	松崎	
第3回	小学校教育実習の展開(実施内容等)について学ぶ	松崎	
第4回	授業実習に伴う学習指導案の作成について学ぶ	内田	
第5回	授業実習における授業方法等について学ぶ	内田	
第6回	生活指導等への取り組み方について学ぶ	松崎	
第7回	教育実習生としてのマナー等について学ぶ	松崎	
第8回	事後指導(小学校教育実習を振り返る)	松崎・内田	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	授業実習で担当しそうな教科や生徒指導等について既習事項の復習を行う。 授業内容を確認する(事前指導) 最終レポートを課すため、実習記録等を見直す(事後指導)		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	松崎(責任者) 月曜日 14:30~16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』(非売品)		
参考文献等	『教育技術MOOK 小学校・中学校・高校対応 教育実習まるわかり』小泉博明ほか 小学館 2007年 ほか		
成績評価基準	・実習に必要な基本的な観察力や技能を習得すること。 ・実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつこと。		
成績評価の方法	最終レポート(90%) 受講態度(10%)		
GPA基準			
備考	・出席を怠ると小学校教育実習に参加できないことがある。		

科目名	小学校教育実習		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	実習	科目ナンバー	130
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	
免許・資格情報	必修:小教免 選択必修:幼教免		
授業の概要	小学校で10日間の教育実習を行うことによって、小学校教師の職務や責任等について学び、自分なりの教師観を構築する。具体的には、授業実習・参観を通じて授業に必要な知識・技能を習得する。また、学級活動や休み時間等における児童との活動をとおり、子ども観を構築する。さらに、講話の聴講等をとおり、小学校教育についての理解を深める。なお、実際の授業計画は原則として実習校の計画に従うが、下記の計画の内容が含まれるよう実習校には依頼する。		
授業の到達目標	1. 小学校教師の責任ややりがいを理解する 2. 教師の職務に必要な知識や技能を習得する 3. 児童と接する中で子ども観を構築できる		
授業計画		担当者	
第1回	実習校の教育目標や教育課程について学ぶ	(実習校教員)	
第2回	実習校における教師の職務について学ぶ	(実習校教員)	
第3回	実習校における児童の実態について学ぶ	(実習校教員)	
第4回	実習校における生活指導・安全指導について学ぶ	(実習校教員)	
第5回	実習校における保健指導・給食指導について学ぶ	(実習校教員)	
第6回	実習校における特別支援教育について学ぶ	(実習校教員)	
第7回	配属学級を中心に学級経営について学ぶ	(実習校教員)	
第8回	実習校教員の授業技術(ICTの活用を含む)について学ぶ	(実習校教員)	
第9回	授業実習に向けて教材研究を行う	(実習校教員)	
第10回	授業実習に向けて学習指導案を作成する	(実習校教員)	
第11回	評価授業の前に別の授業実習を行う	(実習校教員)	
第12回	⑩について改善点を探り、児童にふさわしい授業を考察する	(実習校教員)	
第13回	上記の学びを踏まえ評価授業を行う	(実習校教員)	
第14回	評価授業の反省会を行い、成果と課題を見つける	(実習校教員)	
第15回	教育実習全体を振り返り、小学校教育観を確立する	(実習校教員)	
事前・事後学習	「小学校教育実習指導」の内容や実習校からの指示を確認・実行する。 実習記録等の記述を通して実習における学びを振り返る。		
課題に対するフィードバックの方法	実習校教員または松崎が求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	原則として、実習校教員が適宜対応する。実習期間中、松崎も毎日18時以降を目安に電話やメール等による相談を受け付ける。		
オフィスアワー	月曜日 14:30～16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』(非売品)		
参考文献等	・2年次の小学校授業参観で入手する公開研究会学習指導案集 ・実習校で配布される資料		
成績評価基準	1. 実習に意欲的に取り組みふさわしい態度で臨むことができた 2. 学習指導において、実習生としてふさわしい実践ができた 3. 生活指導等において、実習生としてふさわしい実践ができた 4. 講話等の内容や児童の見取り、課題意識等を実習記録において記述できた		
成績評価の方法	実習校が評価授業や実習記録等から上記4観点をを用いて総合的に評価した結果に基づき、担当教員としての松崎が最終評価をする(100%)		
GPA基準			
備考	・前年度の実習参加資格審査に合格しないと、小学校教育実習には参加できない。参加要件については学生便覧等で確認しておくこと。 ・小学校教育実習指導を無断欠席等した場合、実習に参加できないことがある。		

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ指導		
担当者	井上 周一郎、松崎 康弘、大村 一光		
授業形式	講義	科目ナンバー	131
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	
免許・資格情報	選択必修: 幼教免		
授業の概要	2年次に行われる幼稚園教育実習Ⅱにおける事前・事後指導を行う。1年次の基本実習をベースに各自が実習に向けての意欲や課題意識を高めるとともに、教材研究、指導案作成に新たな観点を加えることができるよう解説する。		
授業の到達目標	1. 実習の事前事後学習で、幼稚園教諭や保育教諭としての資質・技能を形成する		
授業計画			担当者
第1回	実習先へ送るハガキの指導		A
第2回	幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的		A
第3回	事前訪問の時期と内容		A
第4回	指導案の書き方		A
第5回	指導案作成の留意点		A
第6回	幼稚園についての復習と現状の把握		A
第7回	実習日誌の書き方と事前のまとめ		A
第8回	事後指導: 実習のまとめ		A
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	配布資料を読み込み、実習に向けての準備につなげること 8回目、実習に関するレポートを課すので実習先の内容を復習しておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	レポートに関しては、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	井上: 金曜日 16:25～17:55 研究室(本館609号室) 松崎: 火曜日 14:30～16:20 研究室(西館411号室) 大村: 水曜日～金曜日 12:10～55 研究室(体育館101号室)		
テキスト	本学作成の『実習の手引き』 配布プリント(幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領など)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること		
成績評価の方法	レポート(100%)ただし幼稚園教育実習Ⅱの成績とも関連づける		
GPA基準			
備考	授業計画以外にも追加の補講を行うので、掲示板に注意 A: 井上・松崎・大村		

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ		
担当者	井上 周一郎、松崎 康弘		
授業形式	実習	科目ナンバー	132
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	
免許・資格情報	選択必修: 幼教免		
授業の概要	基本実習を踏まえ、実習先では以下の発展的内容の習得を目指す。1. 子どもたちとの遊びや触れ合いを通して子どもを知る 2. クラスの運営を踏まえ、子どもとの関わり方を学ぶ 3. 保育の実践技術・技能を高める 4. 職員間のチームワークを理解する 5. 保育の専門家としての資質を高める 6. 近年の幼稚園を取り巻く状況や社会的な保育ニーズについて理解する		
授業の到達目標	実践現場での実習を通して、以下の内容を目的とする。 1. 子ども理解を深める 2. 保育観を形成する 3. 保育技術を高める		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(設置機関、園児数、組構成、設備など)	A	
第2回	実習園の教育方針や教育目標を理解する	A	
第3回	実習園の保育内容や形態を理解する	A	
第4回	実習園の保育のねらいや計画を理解する	A	
第5回	配属クラスのデイリープログラムを把握する	A	
第6回	観察実習をはじめ、参加実習で保育者の指導・援助に理解を深める	A	
第7回	保育参加で実践的技能を高める(3歳児クラス)	A	
第8回	保育参加で実践的技能を高める(4歳児クラス)	A	
第9回	保育参加で実践的技能を高める(5歳児クラス)	A	
第10回	指導計画の作成・実践・評価	A	
第11回	職員とのチームワークや地域社会との連携を理解する	A	
第12回	保育を取り巻く今日的な課題を理解する(多様化するニーズ、認定こども園)	A	
第13回	幼稚園教育および幼稚園教諭についての理解を深める	A	
第14回	実習の振り返り	A	
第15回	実習のまとめ	A	
事前・事後学習	実習園を定期的に訪問し、必要な打ち合わせをしておくこと 実習の課題を整理し、その後の実習に生かすこと		
課題に対するフィードバックの方法	実習園担当者が実習生の求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	井上: 金曜日 16:30~18:00 研究室(本館609号室) 松崎: 火曜日 14:30~16:20 研究室(西館411号室) 大村: 水曜日~金曜日 12:10~12:55 研究室(体育館101号室)		
テキスト	本学作成の『実習の手引き』、幼稚園教育実習Ⅱ指導で配布するプリント『幼稚園教育要領』 文部科学省 平成29年3月 251円 (ISBN: 9784827815634) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府 文部科学省 厚生労働省 平成29年3月 149円 (ISBN: 9784577814246)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること		
成績評価の方法	各実習園が本学所定の項目(実習態度など)について評価を行い、それを基に本学が単位認定する(100%)		
GPA基準			
備考	・守秘義務を必ず守ること(ブログやツイッターなど一見個人的な場でも発言は控える) ・実習参加資格審査に合格しないと実習に参加できない。要件は学生便覧等で確認すること A: 実習園担当者		

科目名	保育・教職実践演習		
担当者	松崎康弘ほか(児童教育学科教員18名)		
授業形式	演習	科目ナンバー	133
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	
免許・資格情報	必修: 幼教免・保育士証		
授業の概要	実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「保育者の職務内容」「子ども理解」「保育指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、「地域」も意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。また、模擬保育等を実施し、実習での学生自身の経験と照らし合わせることで実践力を高めるとともに、保育者や保育の在り方について考える。さらに、本演習も含めた短大での学びを総括し、自分なりの保育者観・保育観を構築する。		
授業の到達目標	1. 講義・討論等をおして子ども理解や保育理解を深化する 2. 模擬保育等をおして保育職としての実践力を高める 3. 自分なりの保育者観・保育観を確立できる		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーションと実習のふりかえり	松崎	
第2回	講義①(保育者の職務内容について学ぶ)	A	
第3回	討論①(保育者の職務内容について討論を行う)	B	
第4回	講義②(子ども理解について学ぶ)	C	
第5回	討論②(子ども理解について討論を行う)	B	
第6回	講義③(保育指導力について学ぶ)	D	
第7回	討論③(保育指導力について討論を行う)	B	
第8回	ロールプレイ(既習事項を用いて役割演技)	B	
第9回	模擬保育①(模擬保育の計画づくり)	B	
第10回	模擬保育②(模擬保育の教材製作等)	B	
第11回	模擬保育③(地域の子どもに対する模擬保育の実行)	B	
第12回	模擬保育④(模擬保育の反省的検討)	B	
第13回	講義④(保育の意義について学ぶ)	E	
第14回	討論④(保育の意義について討論を行う)	B	
第15回	総括(演習のふりかえりと保育者観の確立)	B	
事前・事後学習	講義に基づいた討論や、模擬保育の準備を計画的に行う 履修カルテのを記入する 討論の結果や模擬保育の成果を自分なりにまとめ、最終レポートに備える		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後や各教員のオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	松崎(責任者) 月曜日 14:30~16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力』 小原敏郎ほか編著 建帛社		
成績評価基準	・子ども理解や保育の意義についての理解を深められている。 ・保育者としての基礎的な実践力が高まっている。 ・自分なりの保育者観を確立している。		
成績評価の方法	レポート(100%)		
GPA基準			
備考	1組 (A=松崎、B=松崎・内田、C=内田、D=内田、E=松崎) 2組 (A=藤川、B=横峯・藤川、C=横峯、D=藤川、E=横峯) 3組 (A=村若、B=村若・宇都・本田・内田、C=本田、D=内田、E=宇都) 4組 (A=丸田、B=大村・井上・丸田・赤瀬川、C=大村、D=井上、E=赤瀬川) 5組 (A=松下、B=松下・生田・新村・黒原、C=生田、D=黒原、E=新村) 6組 (A=渡邊、B=池田・平嶋・中村・渡邊、C=平嶋、D=中村、E=池田) COC関連科目		

科目名	小学校教職実践演習		
担当者	松崎 康弘・内田 豊海・横峯 孝昭・藤川 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	134
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け(複数)
免許・資格情報	必修:小教免		
授業の概要	<p>実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「小学校教師の職務内容」「児童理解」「教科の指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、「地域」も意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。また、小学校の公開授業の参観や現職教員による指導を通して、ICT活用も踏まえた授業の在り方や教師の在り方について理解する。さらに、壁新聞製作等の形を通して短大での学びを総括し、自分なりの教師観・教育観を構築する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義・討論を通して児童や教職の意義等について理解する。 2. 授業参観や現職教員の指導を通して、実践力向上を図る。 3. 自分なりの教師観・教育観を確立できる。 		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション	松崎	
第2回	小学校教師の職務内容について講義	松崎・藤川	
第3回	小学校教師の職務内容について討論	A・B	
第4回	現職教員による指導(山下小参観に向けて)	松崎・C	
第5回	公開授業参観(山下小学校)	A・B	
第6回	公開授業参観の振り返り・討論	A・B	
第7回	児童理解について講義	松崎・横峯	
第8回	児童理解について討論	A・B	
第9回	教科の指導力について講義	内田・横峯・C	
第10回	教科の指導力について討論	A・B	
第11回	2年間の学びの振り返り①(壁新聞製作の企画)	A・B	
第12回	2年間の学びの振り返り②(壁新聞製作)	A・B	
第13回	2年間の学びの振り返り③(壁新聞のプレゼンテーション)	A・B	
第14回	教職の意義について講義・討論	A・B	
第15回	まとめ(教師観の確立)	A・B	
事前・事後学習	<p>実習をはじめ2年前期までの既習事項を履修カルテ記入等を通して振り返っておく。 講義と討論が連動するので、講義内容を復習しておく。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。</p>		
質問・相談方法	<p>授業の前後やオフィスアワー等で対応する。</p>		
オフィスアワー	<p>松崎(責任者) 月曜日 14:40~16:20 研究室(西館411号室)</p>		
テキスト	<p>特になし。</p>		
参考文献等	<p>『改訂 これからの教師』 谷川彰英ほか編著(松崎康弘ほか著) 建帛社 2007年 『教育の情報化に関する手引』 文部科学省 2019年(文部科学省ホームページ)ほか</p>		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解や教職の意義についての理解を深められている。 ・小学校教師としての基礎的な実践力が高まっている。 ・自分なりの教師観を確立している。 		
成績評価の方法	<p>レポート(90%) 受講態度:討論や壁新聞製作等における積極性等(10%)</p>		
GPA基準			
備考	<p>A:松崎・内田(主に1組を担当) B:横峯・藤川(主に2組を担当) C:ゲストティーチャー 2年次前期及び後期の開始時に履修カルテの記入と担当教員への提出を求める。 原則として、1組と2組が別教室に分かれて討論等を行うが、ゲストティーチャーによる指導等は1・2組合同で行う場合がある。 COC科目</p>		

科目名	教師と法		
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	科目ナンバー	135
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免		
授業の概要	社会全体の法化現象がすすむなか、いじめへの対応や「特別な教科 道徳」の指導その他教師としての職務は法知識の活用なしに遂行することができなくなっている。本講義では、学校教育(公教育)と法令のかかわりを理解しながら、重要教育法令に関する実際的な運用能力を養ってゆく。		
授業の到達目標	1. 現代教育法令の体系を知る。 2. 学校現場と法令の関わりの実際を知る。 3. 教員採用試験に対応しうる法令知識を習得する。		
授業計画			担当者
第1回	日本国憲法の基本理念		池田
第2回	教育権と学習権		池田
第3回	旧教育基本法の基本精神		池田
第4回	新教育基本法の骨子		池田
第5回	学校教育法の理解		池田
第6回	学校教育法施行令・施行規則の理解		池田
第7回	これまでの授業を踏まえ自由討議		池田
第8回	教育公務員の義務・責任		池田
第9回	教育公務員の分限・懲戒		池田
第10回	教育委員会－制度の概要－		池田
第11回	教員の養成		池田
第12回	教員の研修		池田
第13回	教育職員免許状の更新		池田
第14回	教育関係諸法令の解説		池田
第15回	総括		池田
事前・事後学習	日頃より教育問題に関心をもち、新聞等における教育関連記事を読むよう努める 六法やICTの活用をとおし、法令検索の習慣をつける		
課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストの参考解答例の解説または配布をとおし、知識・理解の整理を図る。		
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。		
オフィスアワー	原則として 水曜日曜 16:30～17:30 研究室(西館414号室)		
テキスト	『必携 教職六法 2018年度版』若井彌一監修 協同出版 (ISBN-13: 978-4319641185)		
参考文献等	『切抜き速報シリーズ 教育版』ニホン・ミック		
成績評価基準	教育法令の体系的俯瞰に基づき、学校教育活動と法令の関連性を説明することができる。		
成績評価の方法	レポート(70%) 受講姿勢・意欲(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	環境教育演習		
担当者	松崎 康弘		
授業形式	演習	科目ナンバー	136
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免		
授業の概要	豊かな自然環境をもつ鹿児島で環境教育の実践を行えるための専門的な知識や技能を習得するために、既習事項の見直しや実践事例の検討を行う。また、屋久島環境文化研修センターにおける合宿研修をとおして、自然環境を諸感覚を用いて感じ取るセンスを磨き、豊かな自然環境を教材化し実践に生かそうとする意識を高める。さらに、環境教育や環境保護に従事する人々との交流を通じて、教育者や社会人としてふさわしい意識を構築する。		
授業の到達目標	1. 環境教育の実践ができる専門的な知識や技能を習得できる 2. 地域の環境を教材化する意識を高める 3. 環境教育や環境保護に従事する人々の意識を学びとる		
授業計画		担当者	
第1回	イントロダクションで本演習のねらいを理解する	松崎	
第2回	屋久島の地域性について学ぶ	松崎	
第3回	(合宿)環境を生かした製作を学ぶ	松崎	
第4回	(合宿)環境を生かした産業を学ぶ	松崎	
第5回	(合宿)ナイトハイクで諸感覚を研ぎ澄ます	松崎	
第6回	(合宿)自然観察を通して教材化を考える	松崎	
第7回	(合宿)環境を生かした実践を実践者から学ぶ	松崎	
第8回	屋久島合宿での学びをふりかえり、まとめる	松崎	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	保育内容(環境)や社会科教育法等の復習を行い、環境教育に対する課題意識をもって参加することを強く求める 合宿の成果を踏まえ、指導案作成等の応用を行う		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日 14:30~16:20 研究室(西館411号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『むすんでみよう子どもと自然 保育現場での環境教育実践ガイド』井上美智子ほか編著 北大路書房 2010年 『環境教育指導資料[幼稚園・小学校編]』国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2014年ほか		
成績評価基準	環境教育を実践するための基本的な知識・技能・意識を有していること		
成績評価の方法	レポート(100%)		
GPA基準			
備考	原則として受講者は小・幼・保コース学生に限る。2万円程度の合宿参加費が必要となる。 天候等により合宿先が変更となる場合がある。		

科目名	カウンセリング入門		
担当者	松元 理恵子		
授業形式	講義	科目ナンバー	137
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー		
授業の概要	悩みを抱えた心に触れ、耳を傾け、理解しようとするときには、自分の心を見つめることを含んだ包括的な視点を持つことが大切になる。自分自身の心を見つめ直し、自己理解を深めながら、他者理解をしていく過程を「聴く」練習やワークを通してその視点を説明する。そして、心の課題にともに向き合い、日常生活の中でも実践していけるカウンセリングの演習体験を通し、人間性の尊重を軸とした心理的援助について理解することを旨とする。		
授業の到達目標	1. カウンセリングの基礎的理論を理解する 2. カウンセリングにおける「みため」を理解する 3. 援助に必要な相談・面接技法を習得する		
授業計画		担当者	
第1回	エンカウンターについて(体験学習)	松元	
第2回	カウンセリングの理論1(精神分析、自己理論)	松元	
第3回	カウンセリングの理論2(行動療法、論理療法他)	松元	
第4回	カウンセリングの技法1(受容、繰り返し、明確化)	松元	
第5回	カウンセリングの技法2(支持、質問)	松元	
第6回	カウンセリングの非言語的技法(体験学習)	松元	
第7回	対話上の諸問題への対処法(ロールプレイング)	松元	
第8回	青年期の課題(グループワーク、ロールプレイング)	松元	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	専門用語や次に取り上げるテーマについて、テキストを読んで確認しておく 配布されたレジュメとテキストを照合しながら読み直す		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際は質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスパワー等で対応する。		
オフィスパワー	火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室(西館305号室)		
テキスト	『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化 2010年 1,500円(税抜き) (ISBN: 9784810013436)		
参考文献等	『ピアヘルパーワークブック』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化 2011年 1,500円(税抜き) (ISBN: 9784810023862)		
成績評価基準	カウンセリングの基礎的知識や相談・面接のすすめ方を理解すること。		
成績評価の方法	レポート提出(60%) 講義で出された課題(レポート等)の提出状況(30%) 受講および演習態度(10%)		
GPA基準			
備考			

科目名	生涯学習論		
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	科目ナンバー	138
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免		

授業の概要	生涯学習は1960年代から、余暇と労働の関係の変容を背景に成立してきたものだが、それは同時に知識のあり方の変容をも含んでいる。本講義では「生涯に渡って学ぶこと」の意義を知るとともに、それを他者にどのように伝えていくかを探る。
授業の到達目標	科目の性質上、すべてが事前事後の学習であり、そうした自覚で単に講義の時間ばかりでなく、すべてに対して興味関心を持つようお願いしたい。

授業計画		担当者
第1回	知るとは、あるいは学ぶとは？——他者教育と自己教育	山元
第2回	承前——高等教育機関における学びと生涯学習	山元
第3回	承前——職業生活における学びと生涯学習	山元
第4回	承前——老年期における学びと生涯学習	山元
第5回	生涯学習の歴史と展開——労働と余暇の関係で	山元
第6回	承前——生涯学習支援施設とその活動内容	山元
第7回	事例①——音楽や絵画は楽しむものか？	山元
第8回	事例②——自然科学は解くものか？	山元
第9回	事例③——歴史は覚えるものか？	山元
第10回	事例④——ロックや映画は気休めか？	山元
第11回	事例⑤——美食家は生涯学習をしているのか？	山元
第12回	事例⑥——読書しているだけで生涯学習をしていることになるのか？	山元
第13回	生涯学習の限界？——人的資源論と配分論を越えるために	山元
第14回	生涯学習と政治問題及び倫理問題	山元
第15回	総括——生涯学習を教えることは可能か？	山元

事前・事後学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。 講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日の講義以外の12:55～17:00研究室(西館406号室)

テキスト	特になし(テキストは使用しないので、丹念にノートを取る)
参考文献等	講義中に有益な図書や映画など紹介するので、是非挑戦してもらいたい
成績評価基準	提出されたレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	家族関係論		
担当者	倉重 加代		
授業形式	講義	科目ナンバー	139
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免・幼教免・保育士証		
授業の概要	一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉え、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す。そこから、家族のありようは普遍的なものではなく多様で、また社会や時代とともに変化することを学ぶ。さらに、子どもの社会化や少子化・子育て支援など、子どもをめぐる家族関係や社会情勢などを学習するとともに、教育・保育施設での参与観察を通して、教育者や保育者としての資質を高めたい。		
授業の到達目標	1. 社会の動きにともなう家族の変化を理解する 2. 家族を多角的に捉える視点を身につける 3. 教育・保育現場で多様な状況に対応できる柔軟性を身につける		
授業計画		担当者	
第1回	家族とは何か—学問的定義とアンケートから考察する	倉重	
第2回	家族の特性と機能について学ぶ	倉重	
第3回	家族の類型と世帯について学ぶ	倉重	
第4回	家族と全体社会の関係について学ぶ	倉重	
第5回	家族変動の諸側面について学ぶ	倉重	
第6回	産業化と戦後家族の変動について学ぶ	倉重	
第7回	配偶者選択のメカニズムについて学ぶ	倉重	
第8回	結婚の機能について理解する	倉重	
第9回	未婚化と少子化について学ぶ	倉重	
第10回	子どもの社会化と親子関係について学ぶ	倉重	
第11回	子どもの社会化と社会関係について学ぶ	倉重	
第12回	教育・保育現場で子どもの実態を観察する	倉重	
第13回	観察結果をもとに子どもの社会化について議論する	倉重	
第14回	観察の振り返りをし、子どもの実情の理解を深める	倉重	
第15回	子育てのあり方について議論・発表する	倉重	
事前・事後学習	家族に関する各種資料等を入手したり新聞を読んだりして家族に関する問題や動きに関心を持つ 定期試験のために授業内容の復習をしておくこと		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスパワー等で対応する。		
オフィスパワー	火曜日 16:30～18:00 研究室(西館312号室)		
テキスト	『第3版 家族社会学—基礎と応用—』 木下謙治監修、園井ゆり・浅利宙編 九州大学出版会 2016年 2,000円 (ISBN:978-4-7985-0189-5)		
参考文献等	『21世紀家族へ——家族の戦後体制の見かた・超えかた(第4版)』 落合恵美子 有斐閣 2019 1,900円 (ISBN: 978-4-641-28146-2) 『少子化社会対策白書』 {少子化社会対策白書,https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/index.html} 総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介		
成績評価基準	到達目標の1～3は相互に関連し、1を理解することが2や3の獲得につながることから、到達目標1に掲げている「社会の動きにともなう家族の変化を理解する」を成績評価基準とする。		
成績評価の方法	定期試験(90%) 毎時間のコメントシート(10%)		
GPA基準			
備考			

科目名	子どもと音楽Ⅲ		
担当者	中村 礼香、稲森 奈津子		
授業形式	演習	科目ナンバー	140
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	保育・教育現場で必要な音楽活動の指導法や実践技術についての理論の理解を深めるとともに、実践力を高める。また、コードネームを用いた幼児曲の伴奏法や、簡易伴奏の作成方法などについて学び、現場で活用できるようにする。		
授業の到達目標	1. コードネームを用いた伴奏法を習得する。 2. 保育・教育現場における音楽活動について理解し、活用できるようになる。 3. 幼児曲の弾き歌いの技術を高める。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション／ピアノレッスン		A・B
第2回	歌唱法・4月のうた／ピアノレッスン		A・B
第3回	5月・6月のうた／ピアノレッスン		A・B
第4回	簡易楽器奏法・2, 3歳児器楽合奏／ピアノレッスン		A・B
第5回	4, 5歳児器楽合奏／ピアノレッスン		A・B
第6回	7月・8月のうた／ピアノレッスン		A・B
第7回	9月・10月のうた／ピアノレッスン		A・B
第8回	保育・教育現場における音楽活動についての討論及び発表／ピアノレッスン		A・B
第9回	11月・12月のうた／ピアノレッスン		A・B
第10回	コードネーム／ピアノレッスン		A・B
第11回	簡易伴奏作成法／ピアノレッスン		A・B
第12回	幼児曲伴奏法／ピアノレッスン		A・B
第13回	1月・2月・3月のうた／ピアノレッスン		A・B
第14回	ポディーパーカッション・生活のうた／ピアノレッスン		A・B
第15回	弾き歌い実技試験／ピアノレッスン		A・B
事前・事後学習	ピアノレッスン時に合格できるように、事前に練習をした上で授業に臨むこと。 ピアノレッスンで注意されたところは復習すること。		
課題に対するフィードバックの方法	ピアノレッスンについては、授業時間内で課題をクリアすることが望ましいが、初心者の学生については個別に対応する。また、講義において小テストや課題を課した場合は返却後に個別に指導を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	中村: 水曜日 10:35～12:05 研究室(本館601号室) 稲森: 月曜日 12:05～12:55 ピアノ講師室(本館6階)		
テキスト	・『うたとあそび～「うた」をきっかけに広がる保育のために』鹿児島市私立幼稚園協会編 共同音楽出版社 2019年 2,000円(税抜き)(ISBN:978-4-7785-0416-8) ・各自のピアノレベルに応じたピアノ教則本及び楽譜集		
参考文献等	特に指定せず、適宜資料を配布する。		
成績評価基準	・ピアノ課題曲を全て合格すること。 ・伴奏法、簡易伴奏作成法について理解し、実践に活用することができること。		
成績評価の方法	簡易伴奏作成の課題(30%)、講義の平常点(10%)、ピアノの平常点(10%)、弾き歌い実技試験(25%)、クラシック実技試験(25%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考	A:45分演習、B:45分ピアノレッスンで授業を構成する。 A: 中村(1組・2組・3組・4組)・稲森(5組・6組) B:ピアノ指導(有満・窪田・沖・武田・蜷川・濱崎・古川・村原・桃坂)		

科目名	子どもと音楽Ⅳ		
担当者	中村 礼香		
授業形式	演習	科目ナンバー	141
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	保育・教育現場で行われている様々な音楽活動を紹介する。それらの音楽活動を実際に体験する場を設け、理論を解説することにより、表現活動についての理解を深め、現場での実践力・指導力を高める。		
授業の到達目標	1. 保育・教育現場で行われる音楽活動を実践する技術を習得する。 2. 幼児曲の弾き歌いの技術を高める。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション／ピアノレッスン		A・B
第2回	リズム遊び／ピアノレッスン		A・B
第3回	リトミックⅠ(リズム・拍・拍子)／ピアノレッスン		A・B
第4回	リトミックⅡ(フレーズ・強弱)／ピアノレッスン		A・B
第5回	リトミックⅢ(絵本・ストーリー)／ピアノレッスン		A・B
第6回	わたべうたⅠ(調べ学習)／ピアノレッスン		A・B
第7回	わらべうたⅡ(指導案作成)／ピアノレッスン		A・B
第8回	わらべうたⅢ(模擬保育)／ピアノレッスン		A・B
第9回	歌から遊びへの展開Ⅰ(講義)／ピアノレッスン		A・B
第10回	歌から遊びへの展開Ⅱ(指導案作成)／ピアノレッスン		A・B
第11回	歌から遊びへの展開Ⅲ(模擬保育)／ピアノレッスン		A・B
第12回	ハンドベルⅠ(基礎奏法)／ピアノレッスン		A・B
第13回	ハンドベルⅡ(合奏)／ピアノレッスン		A・B
第14回	器楽合奏／ピアノレッスン		A・B
第15回	弾き歌い実技試験／ピアノレッスン		A・B
事前・事後学習	ピアノレッスン時に合格できるように、事前に練習をした上で授業に臨むこと。 模擬保育の際は事前に準備を行うこと。 ピアノレッスンで注意されたところは復習すること。		
課題に対するフィードバックの方法	ピアノレッスンについては、授業時間内で課題をクリアすることが望ましいが、初心者の学生については個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	月曜日 12:55～14:25 研究室(本館601号室)		
テキスト	『うたとあそび～「うた」をきっかけに広がる保育のために』鹿児島市私立幼稚園協会編 共同音楽出版社 2019年 2,000円(税抜き)(ISBN:978-4-7785-0416-8) ・各自のピアノレベルに応じたピアノ教則本及び楽譜集		
参考文献等	特に指定せず、適宜資料を配布する。		
成績評価基準	・ピアノ課題曲を全て合格すること。 ・子どもの音楽遊び、音遊びについて理解すること。		
成績評価の方法	レポート(20%) 模擬保育(20%) 講義の平常点(10%) ピアノ平常点(10%) 弾き歌い実技試験(20%) クラシック実技試験(20%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考	A:45分演習、B:45分ピアノレッスンで授業を構成する。 A:中村 B:ピアノ指導(有満・窪田・高取・武田・蜷川・濱崎・古川・村原・桃坂)		

科目名	子どもと造形Ⅱ		
担当者	井上 周一郎		
授業形式	演習	科目ナンバー	142
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	<p>本科目は「子どもと造形Ⅰ」「保育内容(表現)の指導法」の発展的な科目として位置づけるものである。ここでは、幼児が夢中になる“つくる”活動を主題に、適切な保育の内容と方法を解説する。様々な製作実習にも取り組み、保育者として必要な資質と技能の習得を図りながら、手や身体を通して思考することの大切さについて理解を促す。併せて、幼児の感性や創造性を養うための製作活動の在り方(教材研究、環境構成、導入等)について考察を深め、現場での実践力を高める。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期における“つくる”活動の目的や内容を理解する 2. 幼児期における“つくる”活動の発達過程等を習得し、保育の方法を理解する 3. “つくる”活動を中心に、幅広い工作活動の基本的な知識や技能を習得する 4. 製作実習を通して、感性を育み創造する喜びを味わう 		
授業計画		担当者	
第1回	“美術”という言葉	井上	
第2回	幼児と造形(かく・つくる)	井上	
第3回	グループワークで“感触遊び”を体感する	井上	
第4回	多様な“感触遊び”の内容とねらい、方法を学ぶ	井上	
第5回	3歳児の製作活動を学ぶ	井上	
第6回	4歳児の製作活動を学ぶ	井上	
第7回	児童文化財(パネルシアター・ペープサート)の特徴や種類、演じ方について学びを深める	井上	
第8回	5歳児の製作活動を学ぶ	井上	
第9回	～切り紙による製作実習Ⅰ(基本的な作り方と多様な図柄を学ぶ)～	井上	
第10回	～切り紙による製作実習Ⅱ(応用的な作り方を学ぶ)～	井上	
第11回	～切り紙による製作実習Ⅲ(テーマに基づく画面構成を学ぶ)～	井上	
第12回	～ダンボール等による製作実習～	井上	
第13回	～紙粘土による製作実習Ⅰ(混色による粘土遊び)～	井上	
第14回	～紙粘土による製作実習Ⅱ(粘土の種類や特徴を知る)～	井上	
第15回	幼児が夢中になる“つくる”活動の在り方について発表(教材研究、環境構成、導入、援助、言葉がけ等)	井上	
事前・事後学習	意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと 課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと		
課題に対するフィードバックの方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	金曜日 16:30～18:00 研究室(本館609号室)		
テキスト	『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 2018年11月9日 2400円 (ISBN:978-4-89347-311-0 C3037)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること		
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)、作品評価(30%)、鑑賞学習のレポート(10%)、定期試験(40%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考			

科目名	子どもと身体表現		
担当者	小松 恵理子		
授業形式	演習	科目ナンバー	143
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	本授業では、幼児の「自発性・好奇心」を重視した遊びや体験活動を取り入れた運動による表現活動を通して、領域「表現」において目的とされる「幼児の豊かな感性や創造性」を培う方法について学ぶ。また、VTRや教科書を通じて、身体表現指導の基礎的理論を学び、発達過程に沿った日常の保育から発表会・運動会までの模擬保育や現場での観察・実践体験を通じ、保育実践力の向上を図る。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの身体表現について発達過程に沿った基礎的理論や指導技術を身につけることができる。 2. 子どもの身体表現のカリキュラム作成やオリジナル保育案の作成ができる 3. 子どもの身体表現の効果的な保育実践力を身につける 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション/身体表現の基礎理論①表現の定義・表現の発達		小松
第2回	身体表現の基礎理論②豊かな表現へ導く環境について(実践映像視聴)		小松
第3回	保育現場での身体表実践観察(3歳未満児)		小松
第4回	保育現場での身体表実践観察(3歳以上児)		小松
第5回	保育指導技術の習得①手遊び・歌遊び・身近な素材から身体表現へ		小松
第6回	保育指導技術の習得②言葉のリズムから身体表現へ(絵本を使って)		小松
第7回	保育指導技術の習得③生活・季節や行事・日本文化から身体表現へ		小松
第8回	保育指導技術の習得④空想・物語から表現へ(ストーリーのある絵本を使って)		小松
第9回	年齢に応じた年間保育計画・保育案の作成について(0～1歳児)		小松
第10回	年齢に応じた年間保育計画・保育案の作成について(2～3歳児)		小松
第11回	年齢に応じた年間保育計画・保育案の作成について(4～5歳児)		小松
第12回	保育現場での身体表現指導実践(0～1歳児)		小松
第13回	保育現場での身体表現指導実践(2～3歳児)		小松
第14回	保育現場での身体表現指導実践(4～5歳児)		小松
第15回	身体表現保育への振り返り		小松
事前・事後学習	毎週、授業以前に1時間の予習を行う。 (担当保育前には、時間を追加する。) 毎週、授業以後に1時間の復習を行う。 (担当保育後には、時間を追加する。)		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別やグループ別に対応する。		
質問・相談方法	授業時間前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水・金曜日 授業終了後 非常勤室(本館104号室)		
テキスト	『乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び』 井上勝子編著 ぎょうせい		
参考文献等	『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
成績評価基準	到達目標の3点について理解した上での実践活動を行い、その評価において6割以上の得たものを合格とする。		
成績評価の方法	レポート(30%) 年間保育計画・保育案作成(30%) 保育実践(30%) その他、授業への積極的参加態度(10%)		
GPA基準			
備考	※授業においては以下の内容を実施する。それに従い、授業時間の変更を含む。 1) 保育現場での身体表現活動の実際を、卒業生の勤務する園にて見学する。 2) 保育現場の協力を得て、現場での身体表現の保育実践をさせて頂く。		

科目名	子どもと運動遊び		
担当者	黒原 貴仁		
授業形式	演習	科目ナンバー	144
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 幼教免・保育士証		
授業の概要	子どもの発達と運動あそびについて理解を深め、集団あそびにつながる基礎的運動技能習得を目的としたあそびを中心に実践を通して、指導法を学ぶ。また、保育者として必要な知識と技能を身につけるとともに、その資質を養う。		
授業の到達目標	1. 子どもの発育発達と運動技能の習得過程について理解することができる 2. 子どもの活動に関する安全管理の方法を理解し実践できる 3. 子どもの発育発達に応じた運動あそびを構築し実践できる		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(授業のねらいと目的の確認)		黒原
第2回	子どもの運動における発育発達について学ぶ		黒原
第3回	運動あそびの意義について学ぶ		黒原
第4回	運動あそびの安全上の留意点について学ぶ		黒原
第5回	0歳1歳児向けの運動あそび		黒原
第6回	2歳3歳児向けの運動あそび		黒原
第7回	4歳5歳児向けの運動あそび		黒原
第8回	器械・器具を使用しての運動あそび1(日常上品を利用した運動あそび)		黒原
第9回	器械・器具を使用しての運動あそび2(マット・跳び箱などを利用した運動あそび)		黒原
第10回	ボールあそび1(個人技能習得を目指したあそび)		黒原
第11回	ボールあそび2(集団でのボールゲーム)		黒原
第12回	運動あそびプログラム作成についての理解		黒原
第13回	運動あそびプログラム作成(発育発達に着目して)		黒原
第14回	運動あそびプログラム実践1		黒原
第15回	運動あそびプログラム実践2		黒原
事前・事後学習	参考資料等を熟読する 講義内容を振り返る		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応		
オフィスアワー	水曜日 10:35~12:55 研究室(体育館202号室)		
テキスト	適宜資料を配布する		
参考文献等	『子どもの遊び・運動・スポーツ』 浅見俊雄他著 市村出版		
成績評価基準	到達目標の3点について理解し実践できること		
成績評価の方法	定期試験(80%)、受講態度(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	読書と豊かな人間性		
担当者	川戸理恵子		
授業形式	演習	科目ナンバー	145
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:小教免・幼教免・保育士証 必修:司書教諭		
授業の概要	<p>学校図書館の役割は、大きく学習指導と読書指導に大別される。そのうち読書指導は、子どもたちの人間性の育成に重要な役割を果たすものである。そこで、児童生徒の発達段階に応じた読書指導について校種ごとに概観しながら、特に小学校における理論を理解し、必要な技能を身につけてもらうことを目的とする。</p> <p>なお、本講義には各回で扱われるテーマについて、授業計画に記入されているもの以外にもディスカッションやグループワーク等を行うことがある。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 読書の意義を理解する 2. 学校図書館における読書指導について理解する 3. 学校図書館で読書指導を実践できる知識と技能を身につける 		
授業計画		担当者	
第1回	読書の意義と目的	川戸	
第2回	子どもと読書をめぐる現状と課題	川戸	
第3回	子どもの発達段階と読書	川戸	
第4回	子どもの読書と大人の読書	川戸	
第5回	読書に活用するための図書の種類	川戸	
第6回	学校図書館における読書指導の概要	川戸	
第7回	学校図書館における読書指導の実際	川戸	
第8回	読書指導の実践1:読み聞かせ、ストーリーテリング等(※グループワーク、発表含む)	川戸	
第9回	読書指導の実践2:ブックトーク等(※グループワーク、発表含む)	川戸	
第10回	読書指導の実践3:アニメーション等(※グループワーク、発表含む)	川戸	
第11回	読書指導の実践4:読書会等(※グループワーク、発表含む)	川戸	
第12回	読書指導の実践5:読書指導の準備(※グループワーク、発表含む)	川戸	
第13回	読書指導の実践6:読書指導の実際(※グループワーク、発表含む)	川戸	
第14回	子どもの読書を支える環境(各種組織や機関との連携)	川戸	
第15回	総括	川戸	
事前・事後学習	授業内容の理解を深められるように提出された資料をよく読む 授業内容を踏まえて知識の整理をする		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する		
オフィスアワー	火曜日 16:20～17:20 研究室(西館402号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『読書と豊かな人間性』「シリーズ学校図書館学」編集委員会編 全国学校図書館協議会 2011 1,500円(税抜き) (ISBN:978-4-7933-2245-7)		
成績評価基準	学校図書館を活用した読書指導を実践できる知識と技術を身につけること。		
成績評価の方法	最終レポートの提出(50%)、受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(40%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考	受講は、司書教諭免許取得希望者を優先します。 受講者数が30名を超えた場合、抽選となります。		

科目名	子ども家庭支援論		
担当者	赤瀬川 修		
授業形式	講義	科目ナンバー	146
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	<p>児童福祉施設等に勤務する保育士・保育教諭は、保護者および地域の子育て家庭にとって最も身近で重要な子育て支援の担い手である。本科目では、子育て支援における、保育士に求められる役割や、支援の際の基本的な態度や技術について学ぶ。さらに、課題解決に必要なとなる社会資源の活用や関係機関との連携について学び、理解を深める。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士との役割について理解する 2. 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する 		
授業計画		担当者	
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	赤瀬川	
第2回	子ども家庭福祉の目的と機能	赤瀬川	
第3回	子育て支援施策・次世代育成施策の推進	赤瀬川	
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	赤瀬川	
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭福祉とその意義	赤瀬川	
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	赤瀬川	
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	赤瀬川	
第8回	保育士に求められる基本的態度	赤瀬川	
第9回	家庭の状況に応じた支援	赤瀬川	
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	赤瀬川	
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	赤瀬川	
第12回	保育所等を利用する子どもへの家庭への支援	赤瀬川	
第13回	地域の子育て家庭への支援	赤瀬川	
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	赤瀬川	
第15回	子育て支援に関する課題と展望	赤瀬川	
事前・事後学習	<p>授業で示す事前・事後学習課題に取り組む 書籍、新聞、インターネット等で子育てに関する問題の現状や課題について調べ、理解を深める</p>		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(西館409号室)		
テキスト			
参考文献等	『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』二宮祐子 萌文書林 2018 1800円 (ISBN: 978-4-89347-284-7)		
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること		
成績評価の方法	事前・事後課題(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	社会的養護Ⅱ		
担当者	赤瀬川 修		
授業形式	演習	科目ナンバー	147
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	本科目では、社会的養護Ⅰで学んだ、社会的養護の理論、支援体制、児童の権利擁護などを基盤として、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設などにおける、その実践方法などについて、理解を深め、基本的技術を修得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的内容、施設養護及び家庭養護の実際について理解する 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 3. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する 		
授業計画		担当者	
第1回	社会的養護の内容(1) 社会的養護における子どもの理解	赤瀬川	
第2回	社会的養護の内容(2) 日常生活支援	赤瀬川	
第3回	社会的養護の内容(3) 治療的支援	赤瀬川	
第4回	社会的養護の内容(4) 自立支援	赤瀬川	
第5回	社会的養護の生活特性および実際	赤瀬川	
第6回	家庭養護の生活特性および実際	赤瀬川	
第7回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(1) アセスメント	赤瀬川	
第8回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(2) 個別支援計画の作成	赤瀬川	
第9回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(3) 記録の作成	赤瀬川	
第10回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(4) 自己評価	赤瀬川	
第11回	社会的養護に関わる専門的技術(1) 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	赤瀬川	
第12回	社会的養護に関わる専門的技術(2) 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	赤瀬川	
第13回	社会的養護における家庭支援	赤瀬川	
第14回	社会的養護の課題と展望	赤瀬川	
第15回	まとめ	赤瀬川	
事前・事後学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む 書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(西館409号室)		
テキスト			
参考文献等	『やさしくわかる社会的養護 シリーズ1～7』 相澤仁編集代表 明石出版 2012年～2014年 各2400円 (ISBN:9784750337197) (1巻)		
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること		
成績評価の方法	事前・事後課題(40%)と期末試験(60%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	子ども家庭支援の心理学		
担当者	平嶋 慶子・松元 理恵子		
授業形式	演習	科目ナンバー	148
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	<p>1. 人の心理的・社会的発達を学び、生涯発達について理解することを通して、児童の各発達段階における発達課題を理解する。</p> <p>2. 相互作用の観点から初期経験の重要性や発達の可塑性について学ぶ。</p> <p>3. 家庭・家族の関係性の発達変化を理解し、包括的あるいは多様な視点からとらえることを学ぶ。子どもの精神保健とその課題、子どもや家庭を取り巻く現代社会の特徴を理解し、その課題を考える。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 発達の概念と生涯発達について、心理的基礎権を計り、初期経験の重要性や発達課題などについて学ぶ。</p> <p>2. 家族や家庭の意義・機能を理解し、発達の観点から家族や親子の関係性について理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</p> <p>3. 子どもの精神保健とその課題について理解する。子育て家庭を取り巻く現代の社会状況とその課題を理解する。</p>		
授業計画			担当者
第1回	発達概念の理解と人の生涯発達について		平嶋
第2回	乳幼児期と小学校就学後の発達について		平嶋
第3回	児童期後半から思春期を経て青年期に至る発達について		平嶋
第4回	成人期・老年期について		平嶋
第5回	家族・家庭の定義と様々な家族の姿		平嶋
第6回	家族関係の発達と親子の関係性について		平嶋
第7回	人の社会的変化および親になるということ		平嶋
第8回	子どもの生活・生育環境が与える影響について		松元
第9回	子どもの心の健康に関わる問題について(課題についての事例検討)		松元
第10回	日本における家族の変遷と現代日本の子育てを取り巻く社会状況について		平嶋
第11回	少子化社会における子育ての問題点		平嶋
第12回	仕事と子育ての両立とライフコース		平嶋
第13回	多様な家庭・家族とその理解		平嶋
第14回	配慮を要する家庭について		平嶋
第15回	保育者としての発達・成長と自己理解の大切さについて		平嶋・松元
事前・事後学習	配布資料は早めに目を通しておき、毎授業持参する。また不明な用語や事項は下調べしておく。授業中のキーワードや事例・事件は自分で検索して簡単にまとめておく。		
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題はその都度、全体的評価(良い内容やアドバイスなど)を次の授業時に紹介する。		
質問・相談方法	授業時やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	平嶋:月・水・金曜日 16:10~17:00 研究室(西館416号室) 松元:火・木曜日 12:05~12:55 研究室(西館305号室)		
テキスト	『子ども家庭支援の心理学』 松本園子・永田陽子・長谷部比呂美・堀口美智子・日比暁美 著 ななみ書房 (ISBN:978-4-903355-79-5)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	子どもの発達と家庭の関係性や、総合的な支援の視点が理解できたものを合格とする。		
成績評価の方法	①全4回のレポート提出(40%)②筆記試験(40%)③授業への参加態度(20%)		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	子どもの食と栄養		
担当者	未定		
授業形式	演習	科目ナンバー	149
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	望ましい食生活のあり方を考え、自らの食生活で知識を活かした食事を実践できるよう、栄養の基本的知識について学習する。また保育士として適切な食育が出来るよう、乳児期から学童期の子どもたちの食生活上の援助について知識と技術を習得する。		
授業の到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本・内容を理解し、家庭や児童福祉施設における食生活の現状に即した食育が出来るようになる。		
授業計画		担当者	
第1回	子どもの健康と食生活の目標と意義	未定	
第2回	栄養に関する基本的知識	未定	
第3回	献立作成の要点と調理の基礎知識	未定	
第4回	妊娠期(胎児期)の食生活と栄養	未定	
第5回	乳児期の特徴と食生活	未定	
第6回	離乳期の栄養	未定	
第7回	幼児期の食生活と栄養	未定	
第8回	学童期の食生活と栄養	未定	
第9回	思春期以降の食生活と栄養	未定	
第10回	子どもの疾患と食生活	未定	
第11回	食物アレルギーと食生活	未定	
第12回	障がいのある子どもの食生活	未定	
第13回	児童福祉施設における食生活と栄養	未定	
第14回	食育の基本	未定	
第15回	食育の計画と実践	未定	
事前・事後学習	テキストの熟読と疑問点の洗い出し 授業ごとの設問キーワードへの理解		
課題に対するフィードバックの方法	出席シートを振り返りシートとして活用し、授業毎に評価する		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用		
オフィスアワー	火曜日 12:05~12:55 非常勤講師室(本館104号)		
テキスト	『最新子どもの食と栄養』 飯塚美和子 ほか 学建書院 2019年 2,400円 (ISBN:978-4-7624-5841-5)		
参考文献等	高校家庭基礎・家庭総合などの教科書		
成績評価基準	保育士として、子どもの発育と食事の関係性がわかり、成長期の食育の意義が理解できる。		
成績評価の方法	期末試験(70%)課題提出(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	子育て支援		
担当者	赤瀬川 修		
授業形式	演習	科目ナンバー	150
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	本科目では、子ども家庭支援論や子ども家庭福祉論などで学んだ知識をもとにして、子育て支援の計画、実践、評価などの技術を学び、子育て支援の実践的技術の修得をめざす。また、事例検討やロールプレイを通して、子育て支援の実践力を高める。		
授業の到達目標	1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する 2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する		
授業計画		担当者	
第1回	子どもの保育とともに行う保護者の支援	赤瀬川	
第2回	日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	赤瀬川	
第3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多角的な理解	赤瀬川	
第4回	子どもおよび保護者の状況・状態の把握	赤瀬川	
第5回	支援の計画と環境の構成	赤瀬川	
第6回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	赤瀬川	
第7回	職員間の連携・協働	赤瀬川	
第8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	赤瀬川	
第9回	保育所等における支援	赤瀬川	
第10回	地域の子育て家庭に対する支援	赤瀬川	
第11回	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援	赤瀬川	
第12回	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	赤瀬川	
第13回	子ども虐待の予防と対応	赤瀬川	
第14回	要保護児童等の家庭に対する支援	赤瀬川	
第15回	多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解	赤瀬川	
事前・事後学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む 書籍、新聞、インターネット等で子育てに関する問題の現状や課題について調べ、理解を深める		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(西館409号室)		
テキスト	『演習・保育と子育て支援』小原敏郎ら編 みらい 2019 2200円 (ISBN:978-4-86015-490-5)		
参考文献等	『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』二宮祐子 萌文書林 2018 1800円 (ISBN:978-4-89347-284-7)		
成績評価基準	到達目標に掲げた2つのテーマについて理解すること		
成績評価の方法	事前・事後課題(40%)と期末試験(60%)で総合的に評価する		
GPA基準			
備考	単位互換[KRICE]提供科目		

科目名	施設実習 I 指導		
担当者	赤瀬川 修、松下 茉莉香、本田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	151
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	施設実習前及び実習後に次の内容を目標として講義を行う。①施設実習 I の意義・目的を理解する、②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする、③実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する、⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。		
授業の到達目標	1. 実習施設における保育士の職務内容及び役割について理解する 2. 実習における明確な到達目標を設定する 3. 実習生に求められる知識や技術を獲得し、留意事項を理解する		
授業計画		担当者	
第1回	実習の目的、概要について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第2回	実習施設について理解を深める	赤瀬川・松下・本田	
第3回	実習内容について理解を深める	赤瀬川・松下・本田	
第4回	子どもの人権と最善の利益	赤瀬川・松下・本田	
第5回	プライバシーの保護	赤瀬川・松下・本田	
第6回	実習生としての心構え	赤瀬川・松下・本田	
第7回	実習計画作成の目的・作成方法について	赤瀬川・松下・本田	
第8回	実習計画書の作成演習	赤瀬川・松下・本田	
第9回	実習後の自己評価・振り返り	赤瀬川・松下・本田	
第10回	実習報告書作成指導	赤瀬川・松下・本田	
第11回	実習報告会① グループディスカッション	赤瀬川・松下・本田	
第12回	実習報告会② 乳児院、児童養護施設における実習の発表	赤瀬川・松下・本田	
第13回	実習報告会② 児童発達支援センター、障害児入所施設における実習の発表	赤瀬川・松下・本田	
第14回	実習報告会③ 障害者支援施設、障害福祉サービス事業所における実習の発表	赤瀬川・松下・本田	
第15回	実習の総括と課題の明確化	赤瀬川・松下・本田	
事前・事後学習	授業で示す事前学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ理解を深める 授業で示す事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ理解を深める		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	赤瀬川:水曜日 16:30～18:00 研究室(西館409号室) 松下 :月曜日 16:30～18:00 研究室(本館602号室) 本田 :水曜日 16:30～18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上貴昭ら編 同文書院 『保育実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。		
成績評価の方法	事前・事後課題(70%)と小テスト(30%)で総合的に評価する。		
GPA基準			
備考			

科目名	施設実習 I		
担当者	赤瀬川 修、松下 茉莉香、本田 和也		
授業形式	実習	科目ナンバー	152
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:保育士証		
授業の概要	以下のことを目標として設定し施設実習 I を行う。①児童福祉施設(保育所を除く)、障害者支援施設等の理解や機能を具体的に理解する、②観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども、利用者への理解を深める、③既習の教科の内容を踏まえ、子ども・利用者への支援及び保護者への支援について総合的に学ぶ、④支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する、⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	1. 児童福祉施設等の役割や機能、現状を理解する 2. 子ども・利用者への理解を深める 3. 子ども・利用者への支援及び保護者への支援を習得する		
授業計画		担当者	
第1回	施設での生活を理解する	赤瀬川・松下・本田	
第2回	施設の日課を理解する	赤瀬川・松下・本田	
第3回	施設の役割を理解する	赤瀬川・松下・本田	
第4回	施設の機能を理解する	赤瀬川・松下・本田	
第5回	子ども・利用者を観察する	赤瀬川・松下・本田	
第6回	観察をもとに記録を作成する	赤瀬川・松下・本田	
第7回	個々の状態に応じた援助について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第8回	計画に基づく活動や援助について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第9回	子ども・利用者を観察する	赤瀬川・松下・本田	
第10回	子ども・利用者の活動と生活環境について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第11回	支援計画について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第12回	記録に基づく省察、自己評価を行う	赤瀬川・松下・本田	
第13回	保育士の業務内容について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第14回	職員間の役割分担や連携について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第15回	保育士の役割と職業倫理について理解する	赤瀬川・松下・本田	
事前・事後学習	事前オリエンテーションにおいて説明を受けた、施設及び利用者の現状について整理し、理解を深める。実習において求められる知識・支援技術等について整理し、課題を見出す。		
課題に対するフィードバックの方法	・実習後にグループ発表及び全体実習報告会を実施し、実習での学びの共有化、理解を深める ・実習終了後に必要と思われる学生に個別の指導を実施する		
質問・相談方法	実習訪問教員、もしくは施設実習指導教員が面接、電話、メール等で質問に対応する		
オフィスアワー	赤瀬川:水曜日 16:30~18:00 研究室(西館409号室) 松下 :月曜日 16:30~18:00 研究室(本館602号室) 本田 :水曜日 16:30~18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭ら編 同文書院 『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科編		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。		
成績評価の方法	実習施設による評価(100%)		
GPA基準			
備考			

科目名	保育所実習Ⅱ指導		
担当者	藤川 和也、宇都 弘美、丸田 愛子		
授業形式	演習	科目ナンバー	153
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修:保育士証		
授業の概要	保育所実習の意義と目的を再確認し、既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育の観察、実践、記録及び自己評価等を踏まえ、保育の改善について学ぶ。さらに、実習の事後指導等を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育についての課題を明らかにする。		
授業の到達目標	1. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。 2. 実習の総括と自己評価を行い、自身の保育の課題を明らかにする。		
授業計画		担当者	
第1回	保育所実習Ⅰ事後指導及び保育所実習Ⅱに向けて	藤川・宇都・丸田	
第2回	保育所実習Ⅰでの各自の課題の確認	藤川・宇都	
第3回	実習記録の記載法の再確認、保育場面を視聴し記録する	藤川・宇都	
第4回	保育場面を視聴し記録する	藤川・宇都	
第5回	保育所実習Ⅱの目標の設定について	藤川・宇都	
第6回	事前訪問について	藤川・宇都・丸田	
第7回	事前訪問後の記録の整理及び指導案作成のための教材研究	藤川・宇都	
第8回	腸内細菌検査について	藤川・宇都	
第9回	検査結果配付と実習準備の確認	藤川・宇都	
第10回	乳児の生活援助の演習	藤川・宇都	
第11回	実習事後指導、レポート提出	藤川・宇都	
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	授業内容をシラバスで確認し必要書類等の準備をする。 講義の内容を再確認し、実習に向けての準備を進める。		
課題に対するフィードバックの方法	講義内で要点を解説するとともに、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	藤川:月曜日 15:00~16:00 研究室(西館405号室) 宇都:金曜日 16:30~18:00 研究室(西館306号室) 丸田:火曜日 14:40~17:55 研究室(西館403号室)		
テキスト	『保育所実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編 鹿児島女子短期大学 2018		
参考文献等	『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』 汐見稔幸監修 学研プラス 2017 ¥1,700 (ISBN-10: 4058008091) 『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』 石橋裕子著/林幸範著 同文書院 2018 ¥2,000 (ISBN-10: 4810314758)		
成績評価基準	保育所実習Ⅱの総括と自己評価を行い、今後の自身の保育の課題を明らかにすること。		
成績評価の方法	実習準備の取り組み状況とレポート(実習の終了報告書)で総合的に評価する(100%)		
GPA基準			
備考	※ 実習参加には、第1回~第10回まで全ての受講が必要。 ※ 欠席(公欠も含む)の場合、補講を実施することがある。 ※ 欠席事由により、実習に参加できないことがある。		

科目名	保育所実習Ⅱ		
担当者	藤川 和也、宇都 弘美、丸田 愛子		
授業形式	実習	科目ナンバー	154
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修:保育士証		
授業の概要	既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実践し、理解を深める。さらに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理、家庭・地域社会との連携について総合的に学び、自己の子ども観や保育観の確立を目指す。		
授業の到達目標	1. 保育課程に基づく指導計画の一部を実践し、評価する。 2. 入所児の保護者支援や地域の子育て、家庭への支援を学ぶ。 3. 実践を通して、保育士としての自己の課題を明確にする。		
授業計画			担当者
第1回	保育所の社会的役割と責任		A
第2回	保育所での生活や子どもの状態と保育士等の援助		A
第3回	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・評価		A
第4回	入所児の保護者支援や地域の子育て家庭への支援		A
第5回	多様な保育の展開と保育士等の業務との連携について		A
第6回	地域社会との連携		A
第7回	実習を通しての保育士としての自己の課題の明確化		A
第8回	保育参加(0歳児クラス)		A
第9回	保育参加(1歳児クラス)		A
第10回	保育参加(2歳児クラス)		A
第11回	保育参加(3歳児クラス)		A
第12回	保育参加(4歳児クラス)		A
第13回	保育参加(5歳児クラス)		A
第14回	実習の振り返り		A
第15回	実習のまとめ		A
事前・事後学習	指導案作成や製作準備をおこなう 毎日、帰宅後に実習を振り返り、実習記録を作成する。		
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	オフィスアワー、実習先訪問時に対応する		
オフィスアワー	藤川:月曜日 15:00～16:00 研究室(西館405号室) 宇都:金曜日 16:30～18:00 研究室(西館306号室) 丸田:火曜日 14:40～17:55 研究室(西館403号室)		
テキスト	『保育所実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編 鹿児島女子短期大学 2018		
参考文献等	『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』 汐見稔幸監修 学研プラス 2017 ￥1,700 (ISBN-10: 4058008091) 『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』 石橋裕子著/林幸範著 同文書院 2018 ￥2,000 (ISBN-10: 4810314758)		
成績評価基準	入所児の保護者支援や地域の子育て、家庭への支援を学ぶとともに、保育課程に基づく指導計画の一部を実践した際の振り返りを通して、保育士としての自己の課題を明確にすること。		
成績評価の方法	本学が定めた評価表に従って、各実習先が評価する(100%) 評価の観点は、実習の態度、保育・援助の実践、実習記録の3項目とする。		
GPA基準			
備考	A:実習施設担当者 ※ 実習参加資格審査に合格していないと、保育所実習Ⅱには参加できない。 ※ 参加要件については、学生便覧等で確認しておくこと。 ※ 保育所実習Ⅱ指導を無断欠席した場合、実習に参加できないことがある。		

科目名	施設実習Ⅱ指導		
担当者	赤瀬川 修、松下 茉莉香、本田 和也		
授業形式	演習	科目ナンバー	155
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修:保育士証		
授業の概要	施設実習Ⅰでの学びを基盤にして、以下のことを目標と設定し実習指導を行う。①施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、支援について総合的に学ぶ、②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、支援の実践力を培う、③支援場面の観察、記録及び自己評価等を踏まえ支援の改善について実践や事例を通して学ぶ、④保育士の専門性と職業倫理について理解する、⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、支援に対する課題や認識を明確にする。		
授業の到達目標	1. 施設実習Ⅰでの経験を生かし、より専門的な支援技術を修得する 2. 個別支援計画に基づいた支援の必要性和具体的な方法を修得する		
授業計画		担当者	
第1回	施設実習Ⅰの振り返り	赤瀬川・松下・本田	
第2回	施設実習Ⅱの内容の理解、課題の設定	赤瀬川・松下・本田	
第3回	各実習施設での事例について考察し、支援方法を検討する	赤瀬川・松下・本田	
第4回	保育実践力を育成する① 利用者の状態に応じた適切な関わり	赤瀬川・松下・本田	
第5回	保育実践力を育成する② 保育の表現技術を生かした支援実践	赤瀬川・松下・本田	
第6回	支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践	赤瀬川・松下・本田	
第7回	支援の観察、記録、自己評価に基づく支援の改善	赤瀬川・松下・本田	
第8回	実習の総括と評価	赤瀬川・松下・本田	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
事前・事後学習	授業で示す事前学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める 授業で示す事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める		
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	赤瀬川:水曜日 16:30～18:00 研究室(西館409号室) 松下 :月曜日 16:30～18:00 研究室(本館602号室) 本田 :水曜日 16:30～18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭ら編 同文書院 『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科編		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。		
成績評価の方法	事前・事後課題(70%)と発表(30%)で総合的に評価する。		
GPA基準			
備考			

科目名	施設実習Ⅱ		
担当者	赤瀬川 修、松下 茉莉香、本田 和也		
授業形式	実習	科目ナンバー	156
配当年次	2	科目群	専門科目[保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修:保育士証		
授業の概要	施設実習Ⅰでの学びを基盤として、以下のことを目標として設定し施設実習Ⅱを行う。①児童福祉施設(保育所以外)・障害者支援施設等の役割や機能について実践を通して理解を深める、②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う、③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する、④保育士としての自己の課題を明確化する。		
授業の到達目標	1. 子ども・利用者を受容、共感する態度を身につける 2. 子ども・利用者のニーズ把握、子ども・利用者理解を深める 3. 子ども・利用者への支援技術及び保護者への支援技術を習得する		
授業計画		担当者	
第1回	施設での生活の意味を深く理解する	赤瀬川・松下・本田	
第2回	施設での日課・週課・月課などについて深く理解する	赤瀬川・松下・本田	
第3回	施設の役割について深く理解する	赤瀬川・松下・本田	
第4回	施設の機能を深く理解する	赤瀬川・松下・本田	
第5回	子ども・利用者を専門的視点に基づき観察する	赤瀬川・松下・本田	
第6回	観察をもとに記録を作成する	赤瀬川・松下・本田	
第7回	個々の特性・背景・状態に応じた援助のあり方について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第8回	子ども・利用者の活動と生活環境について深く理解する	赤瀬川・松下・本田	
第9回	健康管理・安全対策について深く理解する	赤瀬川・松下・本田	
第10回	支援計画の意味・役割を理解する	赤瀬川・松下・本田	
第11回	支援計画の策定方法について理解する	赤瀬川・松下・本田	
第12回	実際に支援計画案を作成する	赤瀬川・松下・本田	
第13回	保育士の多様な業務を理解する	赤瀬川・松下・本田	
第14回	保育士の職業倫理について理解を深める	赤瀬川・松下・本田	
第15回	保育士としての自己課題を明確にする	赤瀬川・松下・本田	
事前・事後学習	施設実習Ⅰでの学び、課題を整理する。 また、実習において求められる知識・支援技術等について整理し、理解及び技術の獲得に努める。 実習において得られた知識、支援技術等について整理し、新たな課題を見出す		
課題に対するフィードバックの方法	・実習後にグループ発表及び全体実習報告会を実施し、実習での学びの共有化、理解を深める ・実習終了後に必要と思われる学生に個別の指導を実施する		
質問・相談方法	実習訪問教員、もしくは施設実習指導教員が面接、電話、メール等で質問に対応する		
オフィスアワー	赤瀬川:水曜日 16:30～18:00 研究室(西館409号室) 松下 :月曜日 16:30～18:00 研究室(本館602号室) 本田 :水曜日 16:30～18:00 研究室(西館311号室)		
テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上貴昭ら編 同文書院 『保育実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。		
成績評価の方法	実習施設による評価(100%)		
GPA基準			
備考			

科目名	学校経営と学校図書館		
担当者	岩下雅子		
授業形式	講義	科目ナンバー	157
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:司書教諭		
授業の概要	司書教諭の資格を取得するために学校図書館運営の実際と法的根拠について学ぶ。学校図書館とPTA、地域、公共図書館等との連携について具体例を挙げながら説明する。授業では学校図書館行事等の発想力・企画力を培うためにグループワークをする。今後の学校図書館の課題や可能性について講義する。		
授業の到達目標	1. 学校経営の中の学校図書館の位置づけと意義を学び理解する 2. さまざまな学校図書館の事例を学ぶことで学校司書と司書教諭の果たす役割について関係づけられるようになる 3. 学校図書館運営についてグループでのディスカッションを通して発想力・企画力を培うことができるようになる		
授業計画			担当者
第1回	映画「やさしい本泥棒」をとおして読書の意義・役割について考察する(1)		岩下
第2回	映画「やさしい本泥棒」をとおして読書の意義・役割について考察する(2)		岩下
第3回	「学校図書館法」から学校図書館の意義と教育的理念を学び法的根拠についても理解する		岩下
第4回	鹿児島県の学校図書館の現状についてグループディスカッションを通して今後の課題と展望を考察する		岩下
第5回	学校図書館運営①(様々な図書館行事の企画運営を学び実践に繋がる力を培う)		岩下
第6回	学校図書館運営②(様々な小学校の図書館運営について理解を深める)		岩下
第7回	学校図書館運営③(様々な中学校の図書館運営について理解を深める)		岩下
第8回	学校図書館運営(様々な高等学校の図書館運営について理解を深める)		岩下
第9回	学校図書館運営⑤(特別支援学校の図書館運営とインクルーシブ教育について理解を深める)		岩下
第10回	学校図書館とネットワーク(PTA、地域、公共図書館等の連携をグループ学習で討議し、発表して理解を深める)		岩下
第11回	読書感想文の全国取組みについてグループで事例研究し、発表を通して意義と手法について理解を深める		岩下
第12回	読書感想画の全国取組みについてグループで事例研究し、発表を通して意義と手法について理解を深める		岩下
第13回	学校図書館の施設・設備をグループで構築し、発表を通して学校図書館の機能(心の居場所)について理解を深める		岩下
第14回	児童生徒の「心の居場所」としての学校図書館をグループでデザインし、発表を通して企画力を培う		岩下
第15回	学校図書館と学校司書の役割について今後の課題と展望をグループディスカッションを通して考察する		岩下
事前・事後学習	事前に出された課題は指定された日までに提出する 毎回授業内容についてのコメントを課す		
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題、レポート等は添削の後に返却する。		
質問・相談方法	授業終了後に受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日 12:05～12:55 講義室(本館309号室)		
テキスト	教科書は特に指定しない。講義中に配付するプリントを用いる。		
参考文献等	『学校営々と学校図書館』野口武悟(等) 2013年 NHK出版 3200円 (ISBN:4595314513)		
成績評価基準	「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館とは何か、またその位置づけを理解したものは合格とする。		
成績評価の方法	試験(60%) レポート(30%) 発表(10%) で総合的に判断する。		
GPA基準			
備考			

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当者	川戸 理恵子		
授業形式	講義	科目ナンバー	158
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:司書教諭		
授業の概要	<p>学校図書館は、児童および生徒の学習活動と読書活動を行うために活用される場所である。そこで、学校における教育活動に有益な学校図書館を作り上げるため、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類、特質、組織化について理解してもらう。</p> <p>なお、本講義には各回で扱われるテーマについて、授業計画に記入されているもの以外にもディスカッションやグループワーク等を行うことがある。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館メディアの種類・性質と扱い方について理解する 2. 学校図書館メディアの組織法について理解する 3. 学校図書館におけるメディアの提供のあり方を理解する 		
授業計画		担当者	
第1回	学校図書館メディアの意義と役割	川戸	
第2回	学校図書館メディアの種類と特性	川戸	
第3回	学校図書館メディアの収集	川戸	
第4回	学校図書館メディアの整理	川戸	
第5回	目録作業の概要	川戸	
第6回	目録作業の実際1(目録作成の基礎)	川戸	
第7回	目録作業の実際2(目録作成の応用)	川戸	
第8回	主題分析の概要、件名付与の概要	川戸	
第9回	件名付与の実際(件名付与の演習)	川戸	
第10回	分類作業の概要	川戸	
第11回	分類作業の実際1(分類付与の基礎)	川戸	
第12回	分類作業の実際2(分類付与の応用)	川戸	
第13回	学校図書館メディアの配架	川戸	
第14回	学校図書館メディアの保存	川戸	
第15回	総括	川戸	
事前・事後学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読む 授業内容を踏まえて知識の整理をする		
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	火曜日 16:20～17:20 研究室(西館402号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『日本目録規則 1987年版改訂3版』 日本図書館協会目録委員会編 日本図書館協会 2006年 3,500円(税抜き) (ISBN978-4-8204-0602-0) 『日本目録規則 2018年版』 日本図書館協会目録委員会編 日本図書館協会 2018年 5,000円(税抜き) (ISBN978-4-8204-1814-6) 『日本十進分類法 新訂10版』 もり・きよし原編 日本図書館協会 2014年 6,500円(税抜き) (ISBN978-4-8204-1413-1) 『基本件名標目表 第4版』 日本図書館協会件名標目委員会編 日本図書館協会 1999年 6,700円(税抜き) (ISBN978-4-8204-9912-1) 『小学校件名標目表 第2版』 全国学校図書館協議会件名標目表委員会全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2004年 5,400円(税抜き) (ISBN4-7933-0071-5)		
成績評価基準	学校図書館メディアの種類と特性、図書館における組織法について理解すること。学校図書館におけるメディアの提供のあり方を理解すること。		
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(20%)、定期試験(70%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考			

科目名	学習指導と学校図書館		
担当者	岩下雅子		
授業形式	講義	科目ナンバー	159
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:司書教諭		
授業の概要	多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業(教科支援)にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館についてを理解する。司書教諭としての資質や職務内容について学ぶとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例を挙げながら説明し、学校司書との協働についても学ぶ。		
授業の到達目標	1. 学習指導と学校図書館の利活用について学ぶ 2. 学習指導(授業支援)と学校図書館をうまくコーディネートするために、司書教諭が果たす役割について学ぶ		
授業計画		担当者	
第1回	学校図書館利用指導①学校図書館オリエンテーションについてグループで討議する	岩下	
第2回	学校図書館利用指導②学校図書館における情報リテラシーについて学ぶ	岩下	
第3回	小学校の図書館教育(小学校1年から6年までの国語の教科書を参考にグループディスカッションを通して図書館利用法、読書指導を体系的に理解する)	岩下	
第4回	中学校の図書館教育(中学校1年から3年までの国語の教科書を参考にグループディスカッションを通して図書館利用法、読書指導を体系的に理解する)	岩下	
第5回	高校の図書館教育(学年に応じた図書館利用、読書手法を用いたスタディスキルを体系的に学び理解する)	岩下	
第6回	教科学習に活用する学校図書館①グループ学習を通して教科に関連したテーマのブックトークを構築する	岩下	
第7回	②グループで構築したブックトークの発表を通して手法を理解しスキルアップに繋げる	岩下	
第8回	③教科に関連した図書を数冊取り上げてパスファインダーを作成する	岩下	
第9回	④パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる	岩下	
第10回	⑤学校図書館を活用した授業支援事例について具体的に学び理解する	岩下	
第11回	⑥新聞を活用した授業の事例(NIE)について理解し、実際に授業を構築する準備を進める	岩下	
第12回	⑦新聞を活用した授業の事例(NIE)について発表を行い、さらにディスカッションを通してスキルアップに繋げる	岩下	
第13回	⑧特別な支援を必要とする児童生徒への学習支援について理解する	岩下	
第14回	授業支援をするために「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館はどうあるべきかグループディスカッションを通して考察する	岩下	
第15回	学習指導における司書教諭、学校司書の役割と、授業と連携する学校図書館や公共図書館の支援についてグループディスカッションを通して理解を深める	岩下	
事前・事後学習	事前に出された課題は指定された日までに提出すること。毎回授業の感想を提出する。		
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題、レポート等は添削の後に返却する。		
質問・相談方法	授業終了後に受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日 16:10～16:20 講義室(本館309号室)		
テキスト	教科書は特に指定しない。授業中に配付するプリントを用いる。		
参考文献等	『新訂 学習指導と学校図書館』堀川照代 NHK出版 2011年 3200円 (ISBN:4595312250)		
成績評価基準	学校図書館が取り組んでいる授業支援について現状を学び、これからの学習指導について理解しているものは合格とする。		
成績評価の方法	試験(60%) レポート(30%) 発表(10%)で総合的に判断する		
GPA基準			
備考			

科目名	情報メディアの活用		
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	講義	科目ナンバー	160
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:司書教諭		
授業の概要	インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだり、情報メディアも多様化している。このような現在において学校図書館で情報メディアをどのように活用すべきか、情報機器演習で培ったリテラシーを基にして考える。		
授業の到達目標	1. 情報メディアを活用するときの司書教諭の役割を理解することができる 2. 情報メディアを活用した学校図書館のあり方について考えることができる 3. 学校で情報メディアを活用するときの留意点を理解することができる		
授業計画		担当者	
第1回	情報メディアってなんだろう	渡邊	
第2回	学校図書館と情報メディア	渡邊	
第3回	情報社会化の歴史と情報通信技術	渡邊	
第4回	学校教育の情報リテラシー	渡邊	
第5回	情報検索と情報収集	渡邊	
第6回	様々な情報資源	渡邊	
第7回	インターネットの情報資源	渡邊	
第8回	情報の集約・編集に役立つ機器	渡邊	
第9回	情報メディアと知的財産制度	渡邊	
第10回	著作物の利用と注意点	渡邊	
第11回	児童生徒の活動と注意点	渡邊	
第12回	図書館のネットワーク	渡邊	
第13回	学校図書館と特別支援教育	渡邊	
第14回	今後の課題と展望	渡邊	
第15回	まとめ(最終課題レポート)	渡邊	
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 各回の内容について、これまでに身につけている知識を確認し、必要に応じて事前に調べてしておく。 復習し、理解が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。 最終課題のために総復習をする。 		
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回のレポートについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、UNIVERSAL PASSPORTでの連絡やオフィスアワーの利用をする。 		
質問・相談方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業の前後やオフィスアワー、UNIVERSAL PASSPORTの連絡機能で対応する。 		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:25～17:55 研究室(西館417号室)		
テキスト	『情報メディアの活用』 山本順一、気谷陽子 放送大学教育振興会 2016年 2800円(税抜き) (ISBN: 978-4-595-31649-4)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディアを活用するときの司書教諭の役割を理解できること 情報メディアを活用した学校図書館のあり方について考えることができること 学校で情報メディアを活用するときの留意点を理解できること 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回のレポート(60%)と最終課題レポート(40%)で総合的に判断する。 		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> レポートは、Web を用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う) 		